

## ヌマカゼクサ

*Eragrostis aquatica* Honda

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

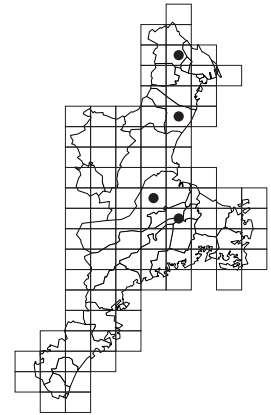
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下, 個体数は計1,000未満である。溜池の開発などで減少する可能性がある。

**種の概要:** 本州西部の湿地に生える。イトスズメガヤに似る。高さは30~50 cm。小穂は帯灰汚紫色で側生するものには短い柄があり, 枝に圧着する。花期は8~11月。

**分布:** 本州(関東以西)の固有種。県内ではいなべ市, 鈴鹿市, 松阪市, 多気町で確認されている。

**現況・減少要因:** 生育地にはかなりの個体数があるが, 溜池の改修などで減少する可能性がある。

**保護対策:** 生育地周辺には本種のほかレッドリストにあげられたカヤツリグサ科の植物も多くあり, これらの地域は厳重に保護されるべきである。



(山脇和也)

## ヤマトボシガラ

*Festuca japonica* Makino

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は少なく50未満と思われる。

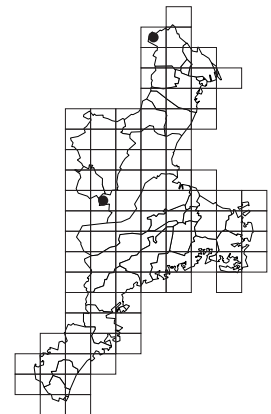
**種の概要:** 山林中に生える。イブキトボシガラに似て, 芒が無い。最下の小花は短くて長さ3~4 mm。葇は短線形で, 長さ約1.5 mm。標本にすると小穂を閉じてしまう。

**分布:** 国内では本州, 四国。国外では朝鮮半島, 台湾。県内では北勢, 中勢地域で記録がある。

**現況・減少要因:** 俱留尊山(津市)および鈴鹿山系(いなべ市)で記録がある。個体数が少ないようなので, 環境の変化や遷移によって絶滅するかもしれない。

**保護対策:** 森林の伐採には注意を払う必要がある。

**特記事項:** 誤同定がないか, 標本を再チェックする必要がある。



(山脇和也)

## イブキトボシガラ

*Festuca parvigluma* Steud. var. *breviaristata* Ohwi

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: VU

近畿: C (VU)

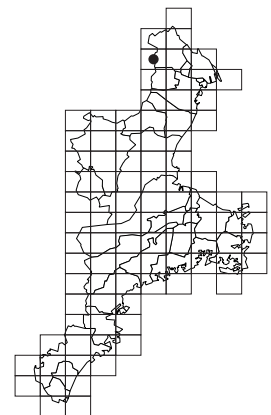
**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は50以下で減少傾向が著しい。

**種の概要:** 山地の林内や林縁に生える高さ50 cm前後の多年草。葉身は長さ10~25 cm, 幅1.5~3 mm, 葉鞘とともに平滑で艶がある。葉舌は高さ0.2~1 mmの切形。8~15 cmの円錐花序で数本の枝が単生する。枝は長く上部に3~5花からなる長さ約8 mmの小穂をつける。トボシガラに類似するが, 芒が小突起状になる点で識別できる(トボシガラには6~9 mmの芒がある)。

**分布:** 日本固有種。本州, 四国に分布。県内ではいなべ市で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市北勢町の山地に数株であるが生育を確認している。植生遷移, ニホンジカの食害, 石灰採掘などが減少要因。

**保護対策:** ニホンジカの頭数管理と防護柵の設置, 植生の人為的管理, 石灰採掘計画を取り止めることなどの施策が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コウボウ

*Anthoxanthum nitens* (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. *sachalinensis* (Printz) Yonek.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

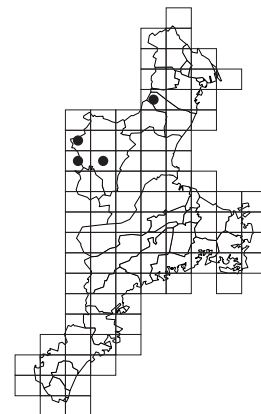
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。個体数は少なく、最近では1地点しか確認されていない。

**種の概要:** 日当たりのよい原野に生える多年草。茎は高さ20~50 cmで直立し、葉は茎の下部にある。5~8 cmほどの花序がつき、小穂は茶褐色をおびて光沢がある。花期は4~5月。乾燥するとクマリンの香りがする。

**分布:** 国内では北海道から九州。国外では東アジア、シベリアに分布。県内では北勢や伊賀地域で報告がある。

**現況・減少要因:** 最近では、亀山市での記録しかない。現況は不明である。草原の開発などで減少する。

**保護対策:** 生育場所や個体数の調査を行い、それにより対策を講じるべきである。



(山脇和也)

## タイワンカモノハシ

*Ischaemum aristatum* L. var. *aristatum*

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は4。総個体数は100未満。

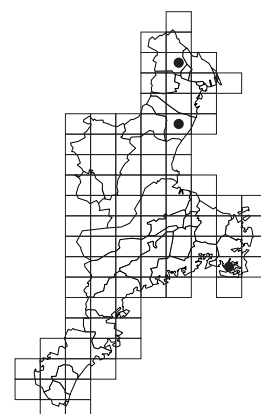
**種の概要:** 湿地や海岸砂浜に生える高さ70 cmに達する多年草。稈は叢生し斜上、または直立する。節は無毛。葉は先が尖って細長く20 cm内外、幅1 cm弱で稈にまばらにつく。節は無毛。花序は2つの総が密着し1つに見える。小穂第1穎の翼はケカモノハシに似て幅が広く、第4穎の芒が目立つ。

**分布:** 国内では本州紀伊半島以南、四国、九州、沖縄に分布。県内ではいなべ市、鈴鹿市、志摩市で記録されている。

**現況・減少要因:** 少なくとも志摩市では生育を確認している。植生遷移と湖沼開発が減少要因となる。

**保護対策:** 生育環境の現状維持と湖沼開発をさける。

**特記事項:** 形態・生育環境ともにケカモノハシやカモノハシに類似する。ケカモノハシとは節に毛の無いこと、カモノハシとは第1穎の翼の幅が広く第4穎の芒が目立つことで識別できる。



(市川正人)

## ヒロハノハネガヤ

*Stipa coreana* Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: 準 (NT)

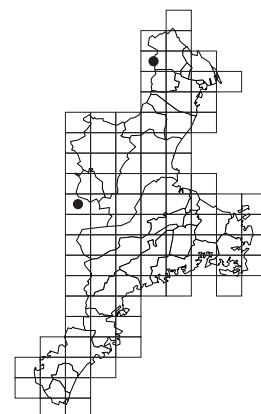
**選定理由:** 既知の生育地点数は2。個体数は極めて少ない。

**種の概要:** 山地の草原や林内に生える多年草。稈の高さは1 mに達する。葉身は10~30 cm、幅7~15 mmで葉裏は灰色を帯び、微毛がある。葉鞘口部に軟毛があり、葉舌は1 mm以下。10~25 cmの直立する円錐花序で下部には枝を持ち花軸に圧着する。小穂は長さ12~15 mmの1小花で、護穎には2~3 cmの芒がある。

**分布:** 日本固有種。北海道、本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、名張市で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市1、名張市1か所に生育している。植生遷移が減少要因。

**保護対策:** いなべ市の生育地域は石灰岩採掘予定鉱区内であり、採掘実施の際には移植などの保護対策が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒロハテンナンショウ

*Arisaema ovale* Nakai var. *sadoense* (Nakai) J.Murata

被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

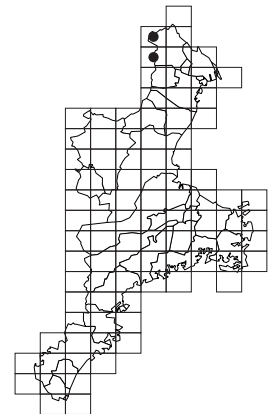
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下、各生育地の個体数は50未満しかない。

**種の概要:** おもにブナ林の林下に生え、高さは15~55 cm。葉は1または2枚で、5~7枚の小葉をつける。花期は5~6月で、花序は花時に葉よりも下につく。仏炎苞は黄緑色から緑色で、隆起する白条がある。

**分布:** 国内では北海道、本州(福井県以北の日本海側に多い)、九州北部。国外では樺太南部、朝鮮半島に分布。県内では北勢地域の鈴鹿山系中北部に分布する。

**現況・減少要因:** 御在所岳と藤原岳から鈴北岳にかけての落葉樹林下および草原に生育する。大きな環境変化がなければ個体数の増減はないものと思われる。

**保護対策:** 国立公園内でも開発のおそれはあるが、今のところその予定は無い。将来開発されないよう手をうつべきである。



(山脇和也)

## ユキモチソウ

*Arisaema sikokianum* Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

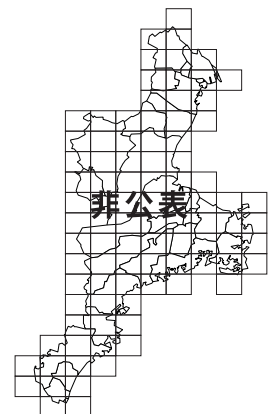
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、採取圧力が強く、減少傾向にある。

**種の概要:** 山地の林床に生育する多年草。葉は2枚で3~5の小葉にわかれる。花期は4~5月で、仏炎苞は紫褐色、花序軸先に白くて丸い付属体を持つ。

**分布:** 国内では本州(静岡県、三重県、奈良県)、四国。県内では伊賀市、津市、松阪市で記録がある。

**現況・減少要因:** 山地林下に生育しているが、園芸目的の採取によって減少している。

**保護対策:** 生育地での採取をなくすことが第一である。そのためには生育地の情報の公開を控えることも必要であろう。



(山路武夫)

## ヤマトミクリ

*Sparganium fallax* Graebn.

被子植物 [単子葉] ミクリ科(APGⅢ:ガマ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

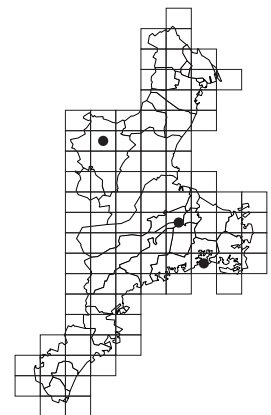
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、確実な生育地は1地点のみである。

**種の概要:** 湖沼、水路などに群生する多年草の抽水植物。草丈は50~120 cm。葉は幅が2 cm近くありやや広い。雌性頭花の柄は茎に合着するので、茎はジグザグに屈曲する。花期は6~9月、花序は分枝しない。

**分布:** 国外ではアジアの東部。国内では本州以西。県内では伊賀市、度会町、南伊勢町で記録がある。

**現況・減少要因:** 現在、唯一生育の確認できる度会町では、水路に群生している。生育地のうち、水田間の水路では雑草として毎年除去されているが、絶えることなく毎年繁っている。

**保護対策:** 継続的な雑草除去により遷移や富栄養化の進行を抑止する。その際には地域の人と本種の保護について話す機会を持つ必要がある。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒメミクリ

*Sparganium subglobosum* Morong

被子植物 [単子葉] ミクリ科(APGⅢ:ガマ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

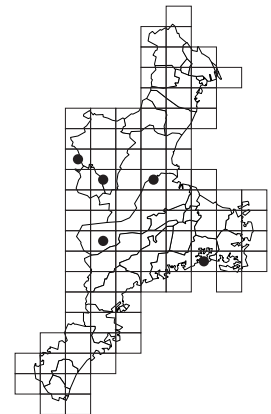
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 確実な生育地は1地点のみである。

**種の概要:** 湖沼, 湿原に生育する多年草。草丈は40~90 cm。茎も葉もほっそりとしている。花期は6~9月, 花序は分枝することが多く, 頭花に柄はない。

**分布:** 国外では東アジア, インド, オーストラリア, ニュージーランド。国内では北海道から九州。県内では伊賀市, 名張市, 津市, 松阪市, 南伊勢町で生育の記録がある。

**現況・減少要因:** 中勢地域の湿地性の草地では, 雑草に混じって生育している。この草地もやがて遷移が進み, 荒地になるものと思われる。

**保護対策:** 時々草刈りをして, 遷移の進行を止めることが大切である。



(山路武夫)

## イトテンツキ

*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand. Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: NT

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は250未満。

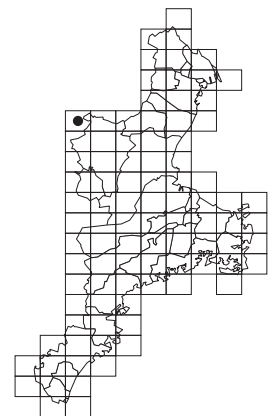
**種の概要:** 日当たりの良い草原に生え, 高さ10~20 cmの叢生する一年草。稈は糸状, 葉は根生状線形で基部の鞘は淡褐色である。苞葉は1~3。花序は長さ約4 mmの小穂が頭状に集まり5~10花, 鱗片は1.5 mmの卵形で濃褐色, 竜骨は緑色である。果実は3稜倒卵形, 花柱は細く3柱頭がある。

**分布:** 国内では東海以西の本州, 四国, 九州, 沖縄に分布。県内では伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因:** 唯一伊賀市の1か所で生育している。植生遷移, 溜池改修工事が減少要因。

**保護対策:** 定期的な草刈りの実施と改修工事の際には生育環境を考慮した移植計画を実行することである。

**特記事項:** 全体はイトハナビテンツキに似るが, 小穂は通常散形花序にはならず, ハタガヤのように頭状に集まる。ハタガヤとは鱗片の先が芒状にならず, 反り返らないことで区別できる。



(市川正人)

## ホザキマスキサ

*Carex planata* Franch. et Sav. var. *angustealata* Akiyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: VU

近畿: —

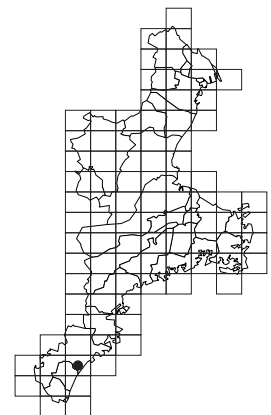
**選定理由:** 既知の生育地点数は2。個体数は少ない。河川開発等にもなう生育環境の改変による絶滅が危惧される。

**種の概要:** 河川敷や河岸に生える多年草。有花茎の高さ30~60 cm。小穂は球形から卵形, 7~10個つき, 無柄。タカネマスキサに似るが, 小穂の数はタカネマスキサの3~6個に比べ多い。

**分布:** 日本固有種。本州(西日本)に分布。三重県内では熊野市, 御浜町から記録されている。

**現況・減少要因:** 河畔林の林床に群落を形成している。自生地は増水時には冠水する立地にあり, いくつかの湿地性植物と混生している。河川改修等の工事が計画されており, 本種を含めた河畔林の消失が懸念される。

**保護対策:** 生育地内には, 他の絶滅危惧種もいくつか見られ, 貴重な植物群落となっている。河川改修等に当たっては, 当植物群落に影響を及ぼさないような対策が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## オオナキリスゲ

*Carex autumnalis* Ohwi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

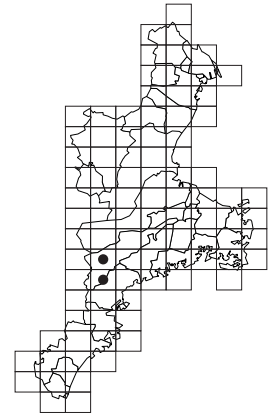
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育地の個体数はおよそ50未満である。まれにしかみられない。

**種の概要:** 山間部のやや湿った岩の混じった斜面などに生える。ナキリスゲに似ているが小穂は10個内外つき、頂小穂は雄性で線形。側小穂は雌性でまばらに花をつけ、その上部に短い雄性部がある。

**分布:** 国内では本州(近畿以西)、四国。県内では大台町での標本記録がある。伊賀地域でも情報はあがるが、未確認である。

**現況・減少要因:** 生育地は限られ、個体数が少なく、まれにしかみられない。急に開発がなされるようなところではないが、遷移などにより状況が変化する可能性がある。

**保護対策:** 林道工事や砂防ダムを作るときには生育地を避けるべきである。



(山脇和也)

## ベンケイヤワラスゲ

*Carex benkei* Tak.Shimizu

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5、その内3地点はニホンジカの食害により消失。個体数は少ない。

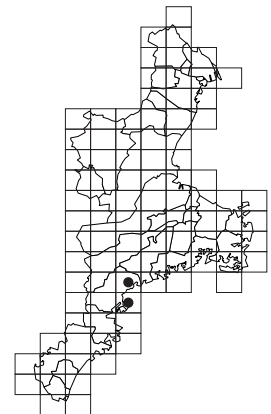
**種の概要:** 湿った草地やため池等の岸辺に生育する多年草。有花茎は高さ20~70 cm。葉の長さは有花茎と同長かそれより長い。ヤワラスゲに似るが、果胞の口部が凹型で、芒を含む雌鱗片の長さが果胞より長い等の点で区別される。

**分布:** 関東以西の本州、四国、九州に分布。三重県では紀北町から標本記録がある。

**現況・減少要因:** どの生育地も個体数は少なく、ニホンジカの食圧が高い。ニホンジカの食害により消失した3地点ではここ10年ほど生育を確認していない。現在自生が確認できる生育地も、個体数は減少している。

**保護対策:** ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要である。

**文献:** 112.



(山本和彦)

## ビッチュウヒカゲスゲ

*Carex bitchuensis* T.Hosino et H.Ikeda

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点は1か所、個体数は多くない。

**種の概要:** 石灰岩地に生える多年草。やや大株となり、根茎は分枝しながら長く伸びやや斜上する。基部の鞘は暗褐色で、前年の葉身が残り、繊維状に細裂する。雄小穂は棍棒状、まばらに少数の果胞をつける。

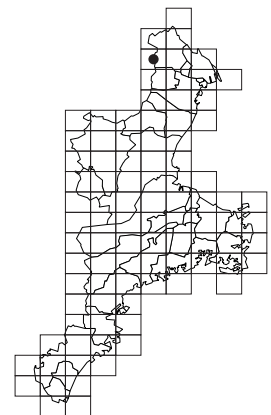
**分布:** 日本固有種。岡山県のみ分布であったが、県内の鈴鹿山系北部(藤原岳)で2013年に生育が確認された。

**現況・減少要因:** 石灰岩地域の落葉樹林内の乾燥した岩地の一角を占めている。北斜面の採石による環境の変化で、急激な減少や絶滅の危険性がある。

**保護対策:** ニホンジカの防護柵を作る。採石を早急に中止させるか、採石場所の変更すべきである。シコクフクジュソウやフキヤミツバをはじめ、その他の絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。

**特記事項:** 三重県レッドデータブック2005ではこの地域のもは、クロヒナスゲとされていたものである。

**文献:** 148.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## クロヒナスゲ

*Carex gifuensis* Franch. var. *gifuensis*

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: B (EN)

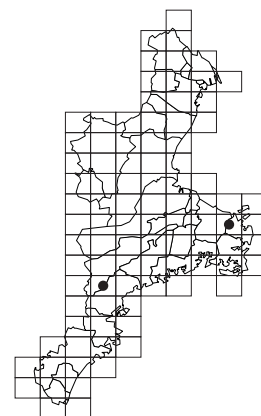
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下である。個体数は250未満である。

**種の概要:** 山地の草地や林下に生えるヒカゲスゲ類の多年草。叢生し短い地下茎を伸ばす。葉の幅は約2 mm、鞘は赤色を帯び、網状繊維に分解する。稈は15~30 cmで細い。花は4~6月につき、小穂は2~3個、稈の上部に集まる。頂小穂は雄性で褐色から褐紫色、側小穂は雌性で無柄である。鱗片は卵形で栗色から紫褐色で、縁は幅広く白い乾膜質である。果胞は鱗片より長く倒卵形で長さ4 mm、淡緑色で毛がある。

**分布:** 日本固有種。栃木県、岐阜県、三重県に分布。県内では伊勢市、大台町で記録されている。石灰岩地または蛇紋岩地の塩基性岩場を好む。

**現況・減少要因:** 伊勢市の蛇紋岩地1か所で生育を確認している。採石による減少が懸念される。

**保護対策:** スゲ類としては全国的に少なく、採石からの保護を必要とする。



(市川正人)

## ウマスゲ

*Carex idzuroei* Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: B (EN)

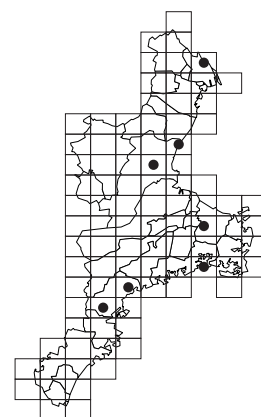
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は1,000未満。

**種の概要:** 低湿地に生える多年草。やや叢生し長い地下茎がある。雌小穂はやや離れてつき、下方のものには短い柄がある。果胞は狭卵形で脈が多く、長さ約10 mm、長い嘴を持つ。茎は高さ40~60 cmで5~6月に熟す。

**分布:** 国内では本州(関東以西)から九州。国外では中国に分布。県内では北勢、中勢、南勢、紀州地域に散見されるが少ない。

**現況・減少要因:** 中勢や南勢地域の中には、50年以上前の標本記録があるが、現状は不明。近年の記録がある数か所の生育地は、今のところ健在。しかし近くまで埋め立てが迫っている生育地もあり、存続が懸念される。他の自生地でも、今後埋め立てや遷移の進行により減少する可能性がある。

**保護対策:** 埋め立て等による消失を避ける必要がある。また、自生地周辺の草刈りなど、適切な管理による現環境の維持も大切である。水辺周辺の定期的な草刈りにより、本種の生育が確認されるようになったところもある。



(山本和彦)

## センダイスゲ

*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1のみ。CR相当だが、他地域での分布が認識されていない可能性が高いのでENとする。

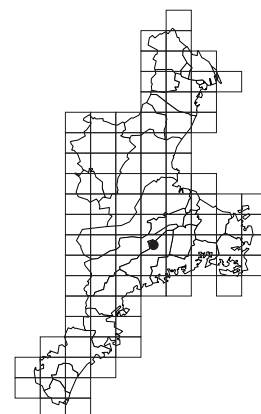
**種の概要:** ナキリスゲに酷似するが、花序茎の高さが10~30(40) cmと低いことと、横走する地下茎が明瞭であることが特徴。

**分布:** 国内では本州から九州。県内での記録は、大紀町のみ。

**現況・減少要因:** 現況については不明であるが、今後の調査で県内の他地域からも発見される可能性が高い。

**保護対策:** 不明。

**特記事項:** 和歌山県では数か所の標本記録がある。



(藤井伸二)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## カタスゲ

*Carex macrandrolepis* H.Lév.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

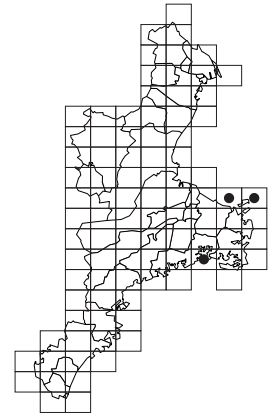
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下である。各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 林縁の日当たりの良い比較的乾燥したところにみられるアオスゲ類の多年草。細長く地下茎を伸ばし、叢生はしない。稈の高さは葉の長さと同長、またはやや短い。基部の鞘は濃紫褐色で繊維状に分解する。葉の幅は約2 mmである。4~5月に花をつけ、小穂は2~3個で頂小穂は雄性、側小穂は雌性である。果胞は少なく、まばらに毛があり、堅い。種子は3稜形で黒茶褐色で光沢がある。柱頭は3である。

**分布:** 国内では伊豆大島、東海地方以西、九州、国外では朝鮮半島、台湾に分布。県内では鳥羽市、南伊勢町で記録がある。

**現況・減少要因:** 鳥羽市2、南伊勢町1か所のみみられるが個体数は少ない。生育場所からみて土地造成や植生遷移が問題となる。

**保護対策:** 土地造成・植生遷移に注意を払う必要がある。



(市川正人)

## フサスゲ

*Carex metallica* H.Lév

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。その内半数以上の生育地では、ニホンジカの食害により個体群が崩壊し、ここ数年、開花個体あるいは個体そのものが確認できていない自生地も出現していることからVUからENにランク変更。

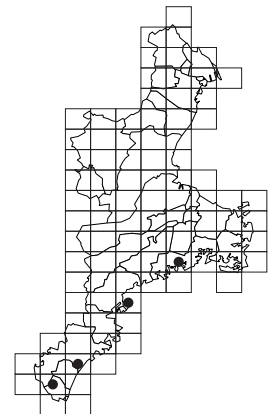
**種の概要:** 大きな株をつくり、高さ30~60 cmになる多年草。葉は幅3~6 mm、小穂は5~10個、淡緑色で光沢がある。側小穂は雌性、まれに基部に雄花をつける。頂小穂は雄性または雌雄性。

**分布:** 静岡県以西の本州、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島、中国南部、台湾に分布。県内では南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町などからの記録がある。

**現況・減少要因:** 海跡湖周辺や川岸、スギ人工林下に生育し、かつては海跡湖周辺には1,000個体を越える大群落が発達していた。近年ニホンジカの食害により激減、消滅した群落地も見られる。

**保護対策:** ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要である。

**文献:** 98.



(山本和彦)

## ミコシガヤ

*Carex neurocarpa* Maxim.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

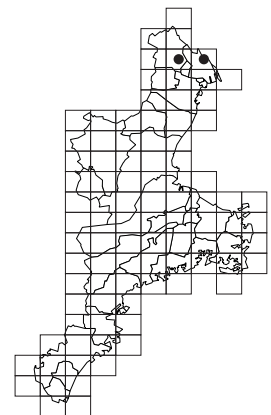
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は100未満。また生育環境である河川敷は開発圧が著しい。

**種の概要:** 河川敷の草地に生え、茎の高さ30~60 cmで鈍い稜がある。小穂は多数集まって長さ3~6 cmの密な花序をつくる。花序の下方の2~3個の苞が長い葉状になって開出する様子を祭りの神輿に例えた。

**分布:** 東アジア北部。国内では本州(近畿以北)、県内では桑名市で記録がある。

**現況・減少要因:** 河川敷は今や遊園地、運動場など、さまざまな目的のために最も利用しやすいエリアとして開発されており、いつ生育地が消滅してしまっても不思議ではない状態にある。

**保護対策:** 河川敷や河川そのものについては、多くの市町村で現況調査をすることもなく改変されているようであるが、すべて環境について調査のうえで、支障がないことを確認した後に着工すべきである。支障があった場合には、計画の変更等適切な処置をすべきである。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD





## シログワイ

*Eleocharis dulcis* (Burm.f.) Trin. ex Hensch.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は少ない。

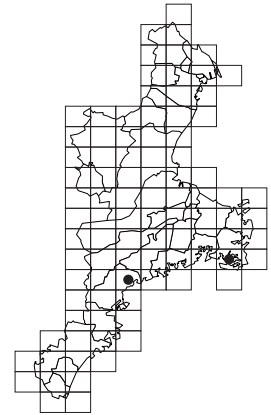
**種の概要:** 池や沼、水路などに生える多年草で、クログワイに似ているが、より大形で稈の長さは50~120 cm、太さは4~6 mmで、小穂の幅よりわずかに細く鮮緑色。下方の鞘は褐赤色。小穂は円柱形で長さ2~4 cm、鱗片の先は切形に近く広楕円形で緑白色である。柱頭は2個、花被片は6~8本である。花は7~10月につく。

**分布:** 国内では本州、四国、九州、沖縄、国外では台湾、中国南部、アフリカ、インド、マレーシア、オーストラリア、太平洋諸島などに分布。県内では志摩市大王町、紀北町の海跡湖にわずかにみられる。

**現況・減少要因:** 志摩市大王町1、紀北町紀伊長島区1か所で生育している。埋め立て等の湖沼開発および植生遷移が減少要因となる。

**保護対策:** 開発圧力からの開放、遷移に対する保護管理が必要である。

**特記事項:** 帰化種との見解もある。



(市川正人)

## マシカクイ

*Eleocharis tetraquetra* Nees

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は2。生育地の個体数は少なくないが、開発により激減する可能性がある。今後新たな生育地が発見される可能性もまだある。

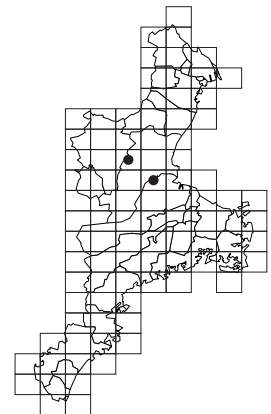
**種の概要:** 湿地に生え、シカクイより大きく高さ40~60 cm。茎にやや鋭い4稜がある。茎の基部は鱗片のある匍枝を出す。小穂はシカクイより大きい。6~9月に熟す。

**分布:** 国内では本州(近畿、中国地方)から沖縄。国外では中国(本土、台湾)、インド、インドネシア、オーストラリアに分布。県内では中勢地域で2か所生育が確認された。

**現況・減少要因:** 2003年に確認された津市一志町の溜池下の放棄水田の中に生育しており、そこにはゴマシオホシクサやタコノアシも生育している。2012年に新たに津市白山町で大群落が確認された。放棄水田の開発や、遷移の進行によりこれらの植物が消滅する危険性が大きい。

**保護対策:** 湿地などの生育地帯が開発されたり、遷移が進まないよう保護しなければならない。

**特記事項:** 北勢地域でマシカクイの報告があるが、これはシカクイの誤同定である。



(山脇和也)

## サギスゲ

*Eriophorum gracile* K.Koch

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、生育地は土地開発によって失われがちで、個体群が激減している。

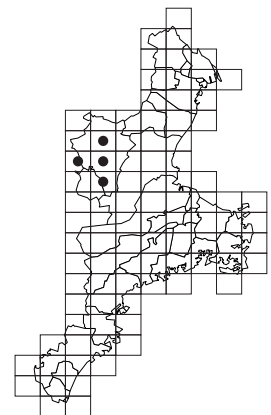
**種の概要:** 冷涼な湿地に生える多年草。根茎には長い匍枝がある。茎は高さ30~50 cmで株を作らない。小穂は数個。果実は6~7月頃に成熟するが、花被片が2 cmぐらいに伸び、白い綿毛のようにみえる。

**分布:** 国内では北海道、本州(兵庫県以北)に分布。国外では樺太、千島ほか、北半球の寒冷な地域に分布。県内では伊賀市の丘陵地に点在する湿地で生育が確認されている。

**現況・減少要因:** 伊賀盆地周辺の丘陵地の湿地に僅かな個体群が現存するが、土地開発(陶土の採掘、産業廃棄物の埋立てほか)により、個体数が減少している。

**保護対策:** 土地開発に制限を加え、現存する個体群の保全に努める必要がある。

**特記事項:** 類似種のワタスゲ(*Eriophorum vaginatum* L.)は大きな株をつくり、小穂が1個で頂生することなどで、容易に区別できる。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コアゼテンツキ

*Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: B (EN)

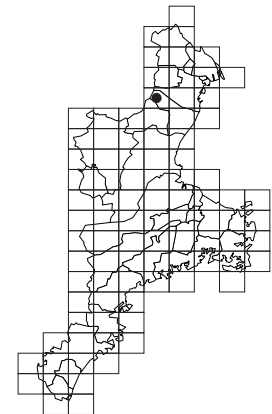
**選定理由:** 既知の生育地点数は1. 個体数は250未満.

**種の概要:** 高さ5~15 cmで斜開し, 叢生する一年草. 葉は短く, 鞘は有毛. 長さ2~4 cmの散形花序で, よく開き多くの枝を出す. 花は8~10月, 小穂は長さ4~7 mm, 幅1~1.5 mmの披針形で数が多い. 果実は長さ0.6~0.7 mmの倒卵形. アゼテンツキに比べて芒が短く, メアゼテンツキに比べて柱基に毛が無い.

**分布:** 国内では本州に分布する. 県内では鈴鹿市内の一つの溜池だけで記録されている.

**現況・減少要因:** 生育時に溜池水位の高い年には観察できない. ヨシの侵出や湖沼開発が減少要因となる.

**保護対策:** ヨシの除去をするとともに, 湖沼開発時には生育持続可能な施工方法を用いることである.



(市川正人)

## ナガボテンツキ

*Fimbristylis longispica* Steud.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

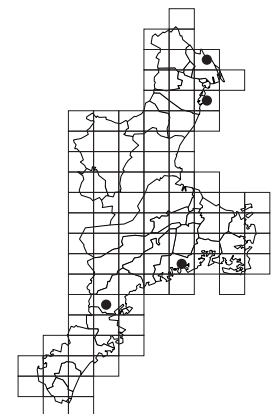
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 未知の生育地は現在知られている生育地にくらべて多くはない.

**種の概要:** 海岸近くに生える多年草. 茎は高さ40~60 cm. 花は8~10月. 小穂は長楕円状卵形, 長さ6~15 mm.

**分布:** 国内では本州 (中部以南の南岸, 伊豆諸島), 四国, 九州. 国外では朝鮮半島南部, マリアナ諸島. 県内では桑名市, 四日市市, 南伊勢町, 紀北町などでの記録がある.

**現況・減少要因:** 四日市市では1906年の標本が存在するが, 埋め立て等により消失. 桑名市, 南伊勢町, 紀北町では, 現在健在である. 桑名市のものは河川敷に, 南伊勢町, 紀北町のものは小河川の河口域に生育しているが, いずれも個体数は多くなく, 河川改修等の改変工事があれば, 絶滅する危険性もある.

**保護対策:** 生育地およびその周辺については, 河川改修等の人為による改変行為は避ける必要がある.



(山本和彦)

## トネテンツキ

*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi ex T.Koyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

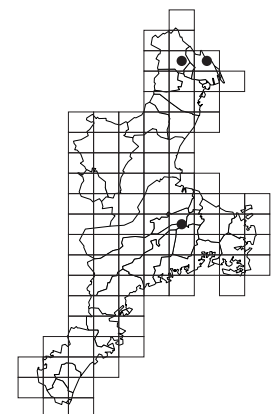
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下. 生育地の個体数は250未満である. 湿地や池の埋め立てや開発圧が強い.

**種の概要:** 高さ7~10 cmで溜池の縁に生える一年草. 葉は線形で, 幅2.5 mm位で茎より短い. 花期は8~10月. 小穂は単生し, 熟時は褐色を帯びた橙色で, 柱頭が伸びて毛に包まれたようにみえる.

**分布:** 国内では本州 (関西以東). 県内では北勢, 南勢地域に数か所みられる. 溜池の湿地に生育する.

**現況・減少要因:** 桑名市1, いなべ市大安町1, 多気町2か所で確認されているが, 現況不明. 溜池や湿地の開発で減少する.

**保護対策:** 生育する溜池や湿地の開発を抑制するしか方法はない.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ハタベカンガレイ

*Schoenoplectus gemmifer* C.Sato, T.Maeda et Uchino

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: 同

**選定理由:** 既知の生育地点数は3. このうち2か所の個体数は10未満であるが, 1か所の個体数は50未満である.

**種の概要:** ヒメカンガレイに近似するが, 柱頭は2本, 線形葉を持ち, しばしば無性芽を生じる点で区別される (ただし, 止水型では線形葉と無性芽は発達しない).

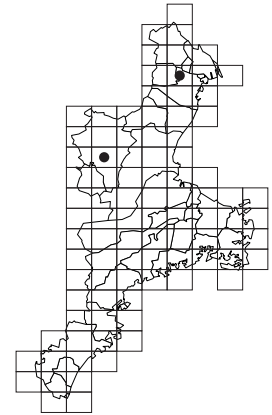
**分布:** 国内では関東以西の本州, 四国, 九州. 近畿地方では, 三重県, 京都府, 和歌山県に分布. 県内では, 四日市市, 菰野町, 伊賀市から標本記録がある.

**現況・減少要因:** 伊賀市の溜池が唯一の生育地であったが, 四日市市や菰野町の用水路でも生育が確認された. 溜池・河川開発が脅威である.

**保護対策:** 開発規制等による水域環境の保全.

**特記事項:** 2004年に正式記載がなされた新分類群.

**文献:** 25. 32. 70. 109.



(市川正人)

## シズイ

*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: A (CR)

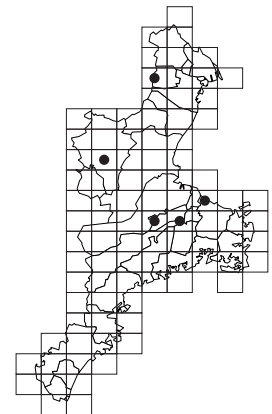
**選定理由:** 既知の生育地点数は新産地が確認されたことにより10以下に増加. 今後も新たな自生地が確認されることが予想されることから, ランク評価がCRからENとなった.

**種の概要:** 湿地に生育するやわらかい多年草. 根茎は細長く, 茎は高さ40~60 cm, 三稜形, 下部に3~5個の葉を生ずる. 葉身は緑色で三角形, 幅2~3 mm. 花は7月~10月. 花序は側生状で, 5~8個の小穂をつける.

**分布:** 北海道, 本州, 四国, 九州, 国外では朝鮮半島南部, 中国東北部, ロシア極東部に分布. 県内では菰野町, 伊賀市, 多気町, 明和町などで記録されている.

**現況・減少要因:** ため池や湿地状になった放棄水田等に生育. 新産地が発見されるなどで, やや増加傾向にあると思われる.

**保護対策:** ため池の改修, 放棄水田の埋め立て等により消滅する可能性があり, 注意が必要.



(山本和彦)

## カガシラ

*Diplacrum caricinum* R.Br.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

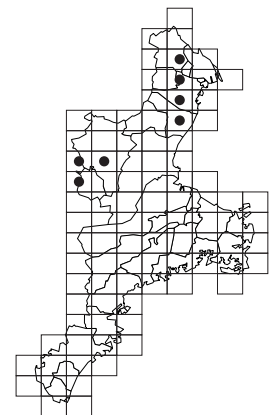
**選定理由:** 既知の生育地点数は5程度. 生育面積が狭いうえに個体数も少ない. また, 湿地の開発により消滅の危険もある.

**種の概要:** 湿地にややまれに生える一年生の草本. 茎は高さ5~20 cm, やや多数の葉をつけ, まばらに基部から枝分かれする. 花序は径2 mm以下の小形の頭花で, 葉腋に着き, 小穂はたいへん小さい. 果実は7~10月に熟す.

**分布:** 国内では本州 (千葉県以西) から沖縄, 国外では台湾, インド, マレーシア, オーストラリア. 県内では北勢, 伊賀地域の湿地や溜池のほとりに生育する.

**現況・減少要因:** 名張市, 伊賀市に数か所みられるが, いなべ市大安町の溜池は, 半分埋め立てられたために激減した. 溜池や湿地の開発や遷移による減少も大きい.

**保護対策:** 開発圧の抑止と湿地の管理が必要である.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒナラン

*Amitostigma gracile* (Blume) Schltr.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: B (EN)

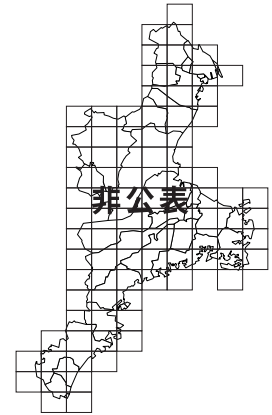
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各自生地の個体数はおよそ50未満しかなく、採取圧も強い。

**種の概要:** 湿った岩上に生える多年草。地下に紡錘状に肥厚した根があり、春に地表近くに1個の葉を展開し、花茎を伸ばす。花は6~7月、淡紫色の小花が10~15個、一方に偏ってつく。

**分布:** 国内では本州(関東地方以西)、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、伊賀、中勢、南勢地域からの分布情報がある。

**現況・減少要因:** 県内の分布情報は過去の標本からのものもあり、現在、生育が確認されているのは中勢と南勢地域のみである。両生育地とも個体数はわずかであり、危機的な状況である。園芸目的による採取が減少の主因。

**保護対策:** マニアによる乱獲を避けるためにも生育地の公表を避けることが必要。また今後生育地周辺の不注意な開発行為により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。



(山本和彦)

## イワチドリ

*Amitostigma keiskei* (Maxim. ex Franch. ex Sav.) Schltr.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: A (CR)

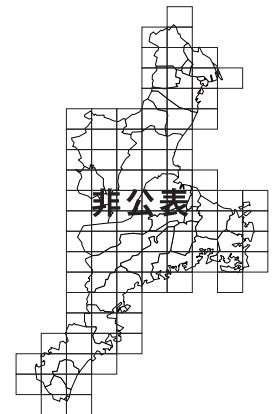
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各自生地の個体数は50未満しかなく、採取圧も極めて強い。

**種の概要:** 溪流の岸壁に生育する多年草。地下に紡錘状に肥厚した根があり、春に地表近くに1個の葉を展開し、花茎を伸ばす。花は4~5月。

**分布:** 日本固有種。本州(中部地方・近畿地方)、四国に分布。県内では南勢、紀州などからの標本記録がある。

**現況・減少要因:** 1970年代前半頃までは、紀州の溪流沿いの岸壁に大きな群生がみられ、花の時期には岸壁を彩っていた。その後、園芸目的の乱獲により、個体数は激減し、尾鷲市では絶滅した。現在は他の地域でもわずかに残るのみで危機的な状況である。

**保護対策:** 県内ではわずかな個体数しか残っていない。これらがマニアに乱獲されないよう、生育地の情報は公表しないことが大切。また、今後河川工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要である。



(山本和彦)

## ユウシュンラン

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: VU

近畿: —

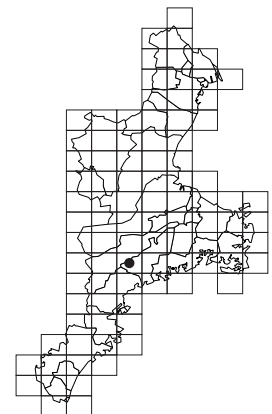
**選定理由:** 標本記録による既知の生育地点数は1。個体数は10未満。

**種の概要:** ギンランに類似するが、ギンランより小さく、高さ10 cm以下。葉がほとんどなく、花も1~3個と少ない。花期は5月。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では大紀町から記録されている。

**現況・減少要因:** スギ人工林の林縁に生育。林道に近いため道路の拡幅工事や森林伐採等で消失する恐れがある。

**保護対策:** 森林伐採、道路拡幅工事等の際には生育地とその周辺の環境を保全するような対策を講じる必要がある。小さな個体なので、花の時期でないと確認が難しいこともあり、これまで見過ごされてきた産地もいくつかあると思われる。今後、新産地情報を収集することも必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ナギラン

*Cymbidium nagifolium* Masam.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

近畿：B (EN)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、個体数も少ない。また採取圧も極めて強く、減少傾向にある。

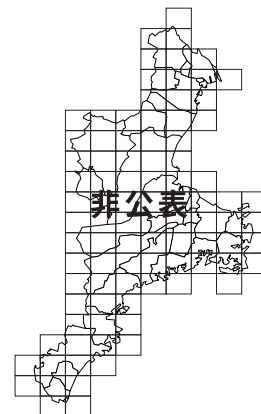
**種の概要：** 常緑広葉樹林の林床に生える常緑のラン。偽球茎は連球状に並び、先端に1~3個の葉をつける。葉の長さは柄を含めて20~30 cm、幅2~3 cm。花は6~7月に咲き、全体白色で、わずかに淡紫色を帯びる。

**分 布：** 国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄、国外では台湾、タイ、

ビルマ、マレーシア、ヒマラヤに分布。県内では南勢および紀州地域での記録がある。

**現況・減少要因：** 比較的好くまとまった常緑広葉樹林内に散見されるが、1地点で数株ほどと個体数は極めて少ない。減少要因は伐採や園芸目的の採取。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採は控える、生育地の公表は避ける等の手だてが必要。



(山本和彦)

## マヤラン

*Cymbidium macrorhizon* Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

近畿：B (EN)

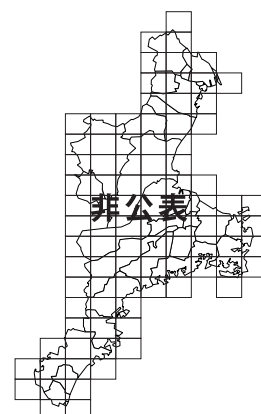
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要：** 山地林内に生育する無葉の腐生植物。7~8月頃高さ15~20 cmの花茎上に2~5個の紅紫色を帯びた花をつける。

**分 布：** 日本固有種。関東地方以西の本州、四国、九州、沖縄に分布。県内では北勢、伊賀地域で記録がある。

**現況・減少要因：** 伊賀市では1950年代の記録。現存する北勢では過去に2か所で記録されているが、1か所は開発により消滅、残る1か所は現存する。

**保護対策：** 生態的にも不明な点が多く、とりあえず「黙して語らず」の消極策しか考えられない。



(加田勝敏)

## イチヨウラン

*Dactylostaix ringens* Rchb.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：A (CR)

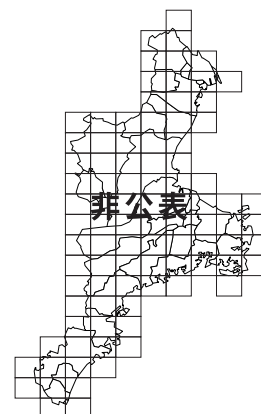
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

**種の概要：** 深山にみられる多年草。地下茎は短く這う。葉は1個、卵形から広卵形、長さ3~6 cm、幅3~4 cm。花は5~7月、花茎の先に1個つき高さ10~20 cm。萼片および側花弁は淡緑色で、紫色の斑点がある。

**分 布：** 国外では南千島、国内では北海道、本州、四国、九州の温帯上部に分布。県内では中勢、南勢の深山に生育する。

**現況・減少要因：** 両生育地は標本による過去の記録であるが、その後確認されているのは南勢のものだけである。中勢については、最近の確認情報はない。県内における個体数は極めて少ない物と思われる。園芸目的の採取が減少要因となっている。

**保護対策：** マニアによる採取が致命的。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## オニノヤガラ

*Gastrodia elata* Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

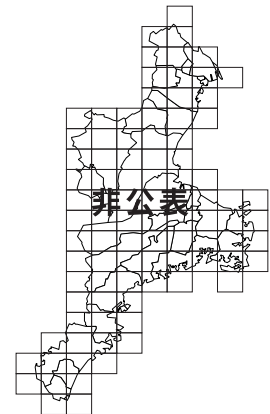
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、生育地での個体数は少ない。

**種の概要:** 地生の無葉緑腐生植物。山地の樹林下に生え、ナラタケと共生する。塊茎は楕円形で長さ10 cm前後、表面に多数の節がある。茎は高さ40~100 cm、帯黄褐色、膜質で長さ1~2 cmの鱗片葉をまばらにつける。6~7月、茎頂に集り、20~50花を密につける。外花被片は7~12 mmで黄褐色。合着して歪んだ壺形となり、内部に内花被2片と唇片がある。

**分布:** 国内では北海道から九州。国外では中国(本土、台湾)に分布。県内では北勢、伊賀、南勢、紀州地域に分布する。

**現況・減少要因:** 個体数、生育地ともに少ない。

**保護対策:** 生育地の森林を保全することが必要である。



(中馬千鶴)

## ハルザキヤツシロラン

*Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿:

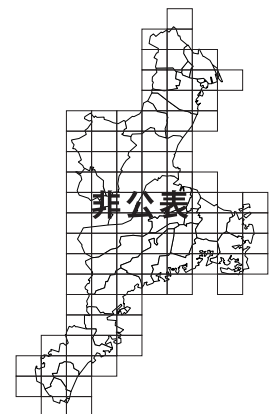
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数も少ない。

**種の概要:** 常緑樹林下に生える、地生の無葉緑腐生植物。塊茎は紡錘状で斜上し、長さ2~3 cm、単細胞毛が表面を被う。茎は3~4 cm、2~3個の鱗片がある。花はふつう5月に開き、1(~2)個、紫褐色を帯び、内外花被片は合着して筒状、先端部は3裂し、長さ約20 mm、唇弁は4条の隆起したしわがあり、基部近くに各1個のこぶ状突起がある。花柄は花後急速に伸び、30 cm以上にもなる。

**分布:** 国内では本州(三重県、和歌山県)、四国、九州、沖縄にまれ。国外ではジャワに分布。県内では紀州地域に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地、個体数ともに非常に少ない。

**保護対策:** 生育地の森林を保全することが必要である。



(中馬千鶴)

## ベニシュスラン

*Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

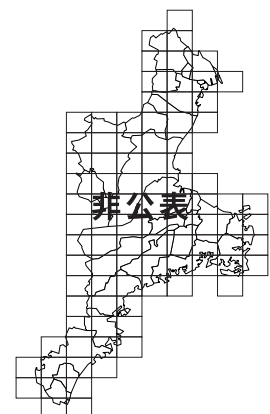
**種の概要:** やや湿った樹林下に生える多年草。葉は卵形で長さ2~4 cm、白色の網目模様がある。花は8~9月、筒状で長さ2.5~3 cm、赤味を帯びた淡褐色。花軸、子房、萼片等には長いちぢれ毛がある。

**分布:** 国内では本州(関東地方、富山県以西)、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。県内では伊賀、南勢、紀州地域からの報告がある。

**現況・減少要因:** 県内いずれの生育地も最近まで確認されていたが、ともに数個体しか生育していない。マニアによる採取が後を絶たず、これが減少要因の主因となっている。また生育地周辺の不注意な道路拡幅工事も減少の一因となっている。

**保護対策:** マニアによる採取を防ぐ方策は皆無に等しい。今のところ生育地の公表は避けることで対処するしかない。道路工事等の開発行為については、関係諸機関の横の連絡によって生育地を保全することが必要。

**文献:** 5. 57. 139.



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ツリシュスラン

*Goodyera pendula* Maxim.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: B (EN)

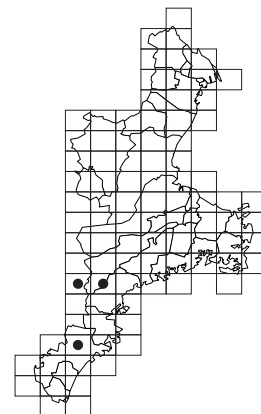
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満である。

**種の概要:** 深山林内の樹上および岩上に着生する。茎は下垂し、長さ10~20 cm。7~9月、花序は基部が湾曲して立ち上がり、白色花を一方にかたよって多数つける。

**分布:** 国内では北海道から九州に分布。県内では大台町および熊野市の深山からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内の記録はいずれも古いもので、近年の記録はない。しかし大台町には本種が着生できる森林がまだ温存されていることから、精査すれば自生が確認できるものと思われる。熊野市の自生地は森林伐採により消滅した。

**保護対策:** 本種が自生する森林を広い範囲で保全する必要がある。



(山本和彦)

## ヤクシマアカシュスラン

*Hetaeria yakusimensis* (Masam.) Masam.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。希少性、園芸用採取による個体数の減少、分布の限界にあたり植物地理学上重要である。

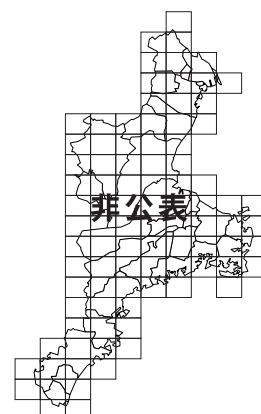
**種の概要:** 常緑樹林内に生える。地下茎は地表近くを這い、各節から紐状の根を出す。茎は直立し、花茎をあわせて10~25 cm。無毛で中央に3~5葉がある。葉は両面無毛。ピロード状で乾くと赤変する。

**分布:** 台湾、ジャワ。国内では伊豆七島(三宅島、神津島)、三重県、和歌山県、九州南部、屋久島、種子島、琉球に分布する。県内では、紀宝町に分布する。

**現況・減少要因:** 神社社叢林に僅かに生育するが、山草業者やマニア等による盗掘採取が減少の要因と考えられる。

**保護対策:** 産地情報については十分配慮が必要であり、条例等による規制等、乱獲および盗掘防止対策の実務的な検討が図られることを望みたい。

**文献:** 110, 125.



(大洞浩一)

## ウスギムヨウラン

*Lecanorchis kiusiana* Tuyama

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

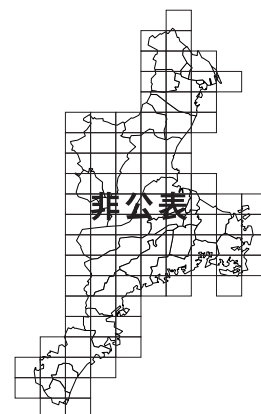
**種の概要:** 常緑広葉樹林下に生える腐生の多年生草本。茎は高さ10~25 cm、淡青紫色であるが、乾くと黒色になる。5~6月、茎頂に数個の花をまばらにつける。花は淡黄色、長さ1.2~1.5 cmで半開する。唇弁中央部には、紫紅色の毛状突起が密生する。

**分布:** 国内では本州(東海以西)、九州。県内では南勢および紀州地域に分布する。

**現況・減少要因:** ムヨウラン類の特徴となる花期が短く、調査が不十分なため、詳細不明。今後さらに調査を要する。

**保護対策:** 生育地の森林を保全することが必要である。

**文献:** 7, 121.



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒメフタバラン

*Listera japonica* Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満と少なく、将来新生育地が増える見通しも少ない。

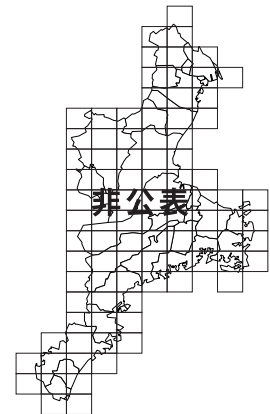
**種の概要:** 茎は高さ5~20 cm、茎の中部に無柄の葉を2個つける。葉から上はまばらに腺毛がある。花は褐紫色、4~5月に開き、2~6個がまばらにつく。唇弁は深く2裂し線形。

**分布:** 国内では本州(宮城県・山形県以南)から沖縄の山地の樹林下に分布。県内では紀州地域で2か所の記録がある。

**現況・減少要因:** 紀州地域2か所のうち1か所は健在。しかし、他の1か所は生育が確認されていない。

**保護対策:** 生育地を含めた周辺の森林環境の保全や生育地の公表を避けることが必要。

**文献:** 57.



(山本和彦)

## アオフタバラン

*Listera makinoana* Ohwi

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

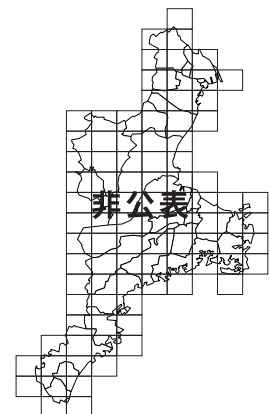
**選定理由:** 既知の生育地点数は2。最近の記録はない。

**種の概要:** 山地樹林下に生える。茎は直立して10~20 cm、葉は茎の下方にあって開出し、三角状卵形で、長さ幅ともに1~3 cm。花は帯緑色で7~8月にまばらに5~20花をつける。

**分布:** 国内では本州から九州。県内では中勢、南勢地域で記録がある。

**現況・減少要因:** 1963年に津市で、1973年に伊勢市で記録があるが、現況は不明である。

**保護対策:** 県内における生育状況の把握が必要である。



(山脇和也)

## ジンバイソウ

*Platanthera florentii* Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿:

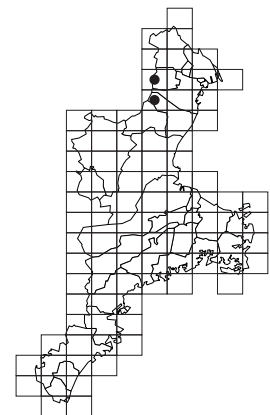
**選定理由:** 既知の生育地点数は2。個体数は50未満。

**種の概要:** 山地の半日陰に生える高さ30 cmほどの多年草。葉は光沢があり、長さ5~12 cm、幅3~6 cm、縁は波状に縮れる。葉柄のない2枚の葉を花茎の下の方に向かい合わせに着け、鱗片葉を数個着ける。前方に湾曲した15~20 mmの距を持つトンボ形の淡緑色の花を8~9月に咲かせる。

**分布:** 日本固有種。北海道、本州、四国、九州に分布。県内では菰野町の山地で記録がある。

**現況・減少要因:** 菰野町の山地で2か所生育している。比較的安定した山地斜面に生育している。ニホンジカによる食害と園芸採取が減少要因となる。

**保護対策:** ニホンジカの個体数管理、および園芸採取を禁止する。



(市川正人)

維管束  
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



### ツレサギソウ

*Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は極めて少ない。

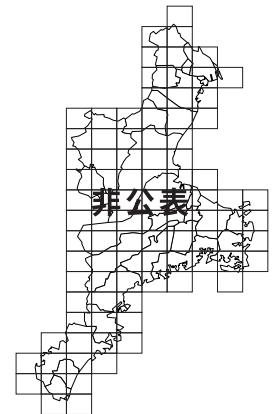
**種の概要:** 多年草。高さ40~60 cm。葉は長楕円形で2~5個が互生する。長さ10~20 cm、巾4~7 cm、上部のものは小さくなって鋭尖頭。花期は5~6月、長さ10~20 cmの密な花序につき、白色。唇弁は長さ13~15 mm、鈍頭、距は下垂し長さ3~4 cm。和名の由来は、サギソウに似た白花が連れ立って咲くからであるという。

**分布:** 国内では日本全土、国外では中国の暖温帯から冷温帯、県内では伊賀、南勢、紀州地域に分布する。

**現況・減少要因:** 山地の日当たりのよい湿った草地に生育し、花時には人目にふれるため、園芸目的による採取が主要因となって減少、絶滅の可能性も高い。

**保護対策:** 採取圧を排除するために分布情報の公表については慎重な配慮が望まれる。また、生育地の植生遷移を抑制するための高茎草本や帰化植物の刈り取りが必要である。

**文献:** 75.



(葛山博次)

### ヤマサギソウ

*Platanthera mandarinorum* Rehb.f. subsp. *mandarinorum*  
var. *oreades* (Franch. et. Sav.) Koidz.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、個体数は少なく、生育地が不安定である。

**種の概要:** 茎には稜があり、高さ20~40 cm、葉は互生、下部の1個が大きく、他は鱗片状。花は茎の上部に5~12個が穂状につき、黄緑色。がく片は草質で中央は広卵形から卵形、側片は披針形、花弁の細い部分はやや厚くて短く乾くと少し黒褐色となる。花期は5~7月である。

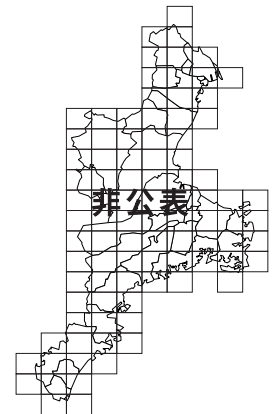
**分布:** 日本全土。国外では台湾、朝鮮半島、中国、サハリンなどの暖温帯から冷温帯に分布。県内では北勢、中勢、伊勢、南勢、紀州地域に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地である低山地や丘陵地の草地が減少、採取圧等も働いて絶滅に近い。

**保護対策:** 生育地の改変、採取などの人為圧を抑制し、また、定期的な草刈により植生遷移の進行を停止することも必要である。

**特記事項:** 谷戸田周辺にある草地は絶滅危惧植物が多い。そうした地域は生産性、経済性に欠けるが自然科学的、文化的に重要であり、保全の必要がある。

**文献:** 34, 69.



(葛山博次)

### カシノキラン

*Saccolabium japonicum* Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: B (EN)

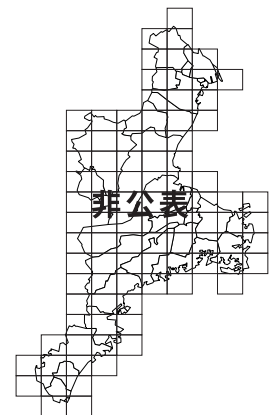
**選定理由:** 既知の生育地点数は1である。今後の精査により、若干の新生育地は発見される可能性がある。

**種の概要:** 常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。茎は短く先端は斜上し、長さ14 cm。葉は革質で5~15枚。花期は7~8月、淡黄色で平開する。花序に4~10花つける。

**分布:** 国内では本州(千葉県以西)、四国、九州。県内では紀州地域に分布。

**現況・減少要因:** 園芸採取と、森林の常緑樹が暴風のために倒壊して減少している。

**保護対策:** 生育地の森林は巨木が多く、こずえに着生している個体は確認しにくい。生育地の神社林を天然記念物に指定して保護を図っているが、森林全域の保護が重要な課題である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## マツラン

*Saccolabium matsuran* Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は3. 1960年代の標本資料があるが、その後新たな確認情報はない. 採集地点付近はいずれも常緑広葉樹林が残存していることから、再発見の可能性もある.

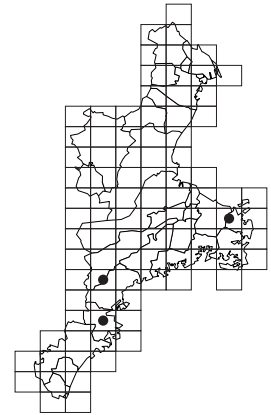
**種の概要:** 常緑広葉樹林内の樹上に着生する常緑の多年草. 茎は細く、長さ1~3 cm. 葉は2列に互生し線状長楕円形、肉厚で多少湾曲し長さ7~20 mm、幅3~5 mm、紫色の斑点がある. 花は5~6月、淡黄緑色で暗紫色の斑点がある.

**分布:** 岩手県以南の本州、四国、九州に分布する. 県内では大台町、伊勢市、尾鷲市から記録されている.

**現況・減少要因:** 津市からの生育情報も文献で報告されているが、標本資料は確認できなかった. 現況および減少要因は不明.

**保護対策:** 本種が着生できる森林を残しておくことが重要.

**文献:** 90, 138, 139.



(山本和彦)

## ハクウンラン (イセラン)

*Vexillabium nakaiana* F.Maek.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、環境変化により消滅した生育地もある.

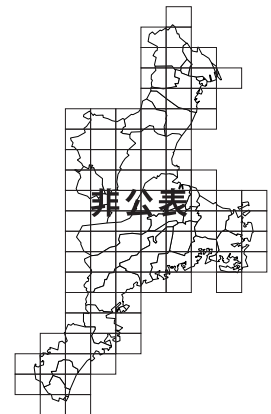
**種の概要:** 茎は這い、その先は立ち上がる. 立ち上がった高さは5~13 cmほどで、下部に数個の小さな葉をつける. 花茎は直立し、7~8月に小型の白花を穂状に1~数個つける. 花茎、花とともに細かい軟毛が目立つ.

**分布:** 国内では本州、九州. 国外では朝鮮半島に分布. 県内では南勢や紀州の数か所の山林内から記録されている. 紀州ではヒノキ林下で、コケやコケシノブ類が生い茂る湿った岩上に見いだされる.

**現況・減少要因:** 紀州の生育地では、森林伐採等による環境の激変により、消滅した所もみられる.

**保護対策:** 生育地の大部分はヒノキ人工林の林床であるため、伐採による生育環境の悪化が懸念される. 生育地周辺の森林を残すことが必要である.

**文献:** 57, 139.



(山本和彦)

## ショウキラン

*Yoania japonica* Maxim.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、生育地での個体数も少ない.

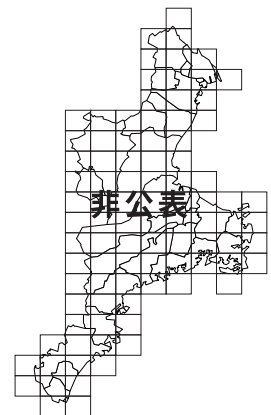
**種の概要:** 地上に生え葉緑素を持たない腐生植物. 高さ10~30 cmの茎は白色で、淡い黄紅色を帯びる. 多少肉質の花弁は淡い紅紫色で長い柄をもつ. 毎年同じ場所で確認されるとは限らない.

**分布:** 国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島. 県内では北勢、中勢地域で生育が確認されている.

**現況・減少要因:** 既知の生育地が僅かで、同じ場所で確認されることも少ないので、現況や減少要因は判然としない.

**保護対策:** 生育が確認された地点のみならず、発生が可能と考えられる類似の立地環境の保全に配慮する必要がある.

**文献:** 138.



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## マツバラシダ

*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

シダ植物 マツバラシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

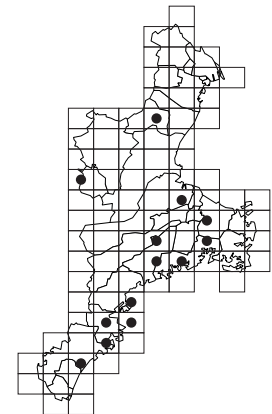
三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

近畿：準 (NT)

- 選定理由：** 既知の生育地点数は比較的多いが、各地点の個体数は少なく、採取圧が強い。  
**種の概要：** 山地に生育し、暖地では樹幹に着生するが、ときには岩やコンクリートの隙間にも生えるシダ植物。根茎は密に叉状に分枝する。地上の茎は高さ10~40 cm、緑色で無毛。  
**分布：** 本州（宮城県以南）、四国、九州、沖縄。県内全域に点々と記録がある。  
**現況・減少要因：** 園芸用の採集が主たる圧力。森林伐採や環境の変異による減少もある。  
**保護対策：** 着生する樹幹の保護、神社の森や巨木の保護も重要な要素である。



(花尻 薫)

## スギラン

*Lycopodium cryptomerinum* Maxim

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

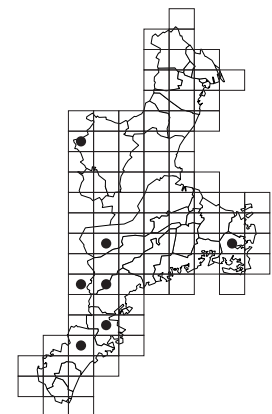
三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：B (EN)

- 選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、いずれの地点も個体数はきわめて少ない。マニアや園芸業者等による採取圧が強く、また、限られた環境に生育し、環境の変化に弱い。  
**種の概要：** 全体がスギの葉を思わせる形態で、孢子嚢は上部に集まってつく。山林下の陰湿な樹幹や岩上に着生する。  
**分布：** インド、朝鮮、台湾。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では伊賀市、松阪市、大台町、南伊勢町、尾鷲市、熊野市で記録がある。  
**現況・減少要因：** 大台町1か所。過去に伊賀市1、松阪市2、大台町1、南伊勢町1、尾鷲市1、熊野市3か所の記録があるが、現況は不明である。マニアや園芸業者等の採取、森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。  
**保護対策：** マニアや園芸業者等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。



(加田勝敏)

## ナンカクラン

*Lycopodium hamiltonii* Spr.

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

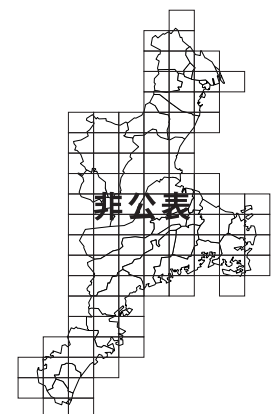
三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：B (EN)

- 選定理由：** 既知の生育地点数は10程度。採取圧により減少傾向にある。  
**種の概要：** 樹幹または岩上に着生、下垂または斜上する常緑のシダ植物。茎は基部で又状分岐、長さ数cm程度から長いものは20~40 cmのものもある。  
**分布：** 本州南部（伊豆諸島・紀伊半島）以南、小笠原列島、沖縄にいたる各地。国外では中国南部、台湾、ヒマラヤ、インドシナ半島、マレーシアに分布。県内では度会町、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布。  
**現況・減少要因：** 各生育地で年々減少しつつある。減少の要因は愛好家による乱獲にある。  
**保護対策：** 生育地の公表は避けるなどの園芸採取の防止対策をはかる。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ミズニラ

*Isoetes japonica* A.Br.

シダ植物 ミズニラ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は約15か所であり、マニアや園芸業者などの採取があり、環境変化や開発行為がおりやすい場所に生育している。

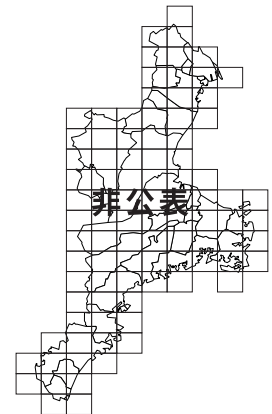
**種の概要：** 水生で、短い茎から細長い葉が束生する。大胞子の表面にハチの巣状の網状突起があり、小胞子の表面は平滑か少数の低いこぶ状突起がある。

**分布：** 中国、韓国、国内では本州、四国に分布し、県内では鈴鹿市、伊賀市、津市、明和町、伊勢市、南伊勢町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市で記録がある。溜池の浅瀬や水のたまった放棄水田などに生育する。

**現況・減少要因：** 過去には各地で記録があるが、現状では不明な所が多い。明和町、伊勢市、南伊勢町、大台町、大紀町等で現認されている。マニア等の採取、池や水田の放棄後の遷移による生育環境の変化、溜池改修や埋め立てによる生育地の破壊、富栄養化や除草剤による水質悪化で減少している。

**保護対策：** マニア等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育環境を変化させたり、生育地を破壊する行為、水質悪化を引き起こす行為を避ける。放棄された池や水田では生育環境の保全策を実行する。

文献： 118.



(南 正祝)

## コケシノブ

*Hymenophyllum wrightii* Bosch

シダ植物 コケシノブ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：準 (NT)

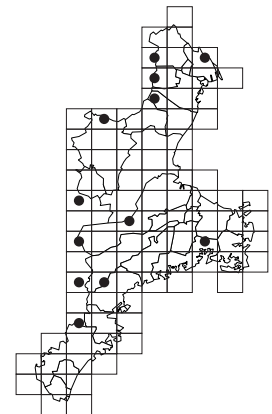
**選定理由：** 既知の生育地点数は10程度であり、近い将来に減少する可能性がある。

**種の概要：** 湿り気の多い山地林下の岩上やときに樹幹にも着生する。細い針金状の根茎を引き、葉長2~5 cmで2~3回羽状に分裂する。葉質は暗緑色で薄く透けて見える感じがする。

**分布：** 国外では南千島、朝鮮半島南部、国内では、北海道、本州、四国、九州北部。県内では、桑名市、いなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町、南伊勢町、熊野市に分布。

**現況・減少要因：** 記録は多いが、現存の確認できる生育地は少ない。生育地のみならずその周辺の山林の伐採・地形改変などの環境悪化（乾燥化）により簡単に絶滅してしまう。

**保護対策：** 生育地のみならず周辺地域の乾燥化の防止を中心とした環境保全が重要。



(加田勝敏)

## クサマルハチ

*Cyathea hancockii* Copel.

シダ植物 ヘゴ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

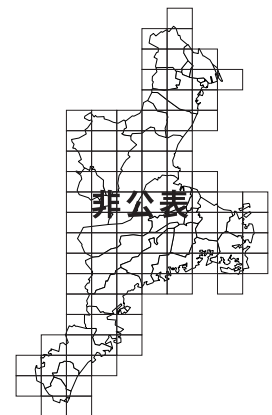
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、生育環境の悪化がみられる。

**種の概要：** 常緑性シダ。根茎には、葉柄の下部とともに、褐色で光沢のある細い鱗片がある。葉柄は葉身とほぼ同じ長さ。基部は直径1 cmばかりで赤褐色または、紫褐色の光沢がある。

**分布：** 三重県南部、和歌山県南部、高知県南部、宮崎県南部、鹿児島県南部。県内では紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布する。

**現況・減少要因：** 山林伐採による環境悪化が主たる減少要因。また、園芸用の採取もある。

**保護対策：** マニアによる乱獲を防ぐためにも、生育地の公表は避けるべきである。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



### ハマホラシノブ

*Sphenomeris biflora* (Kaulf.) Tagawa

シダ植物 ホングウシダ科(Christenhusz et al. 2011 : 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：C (VU)

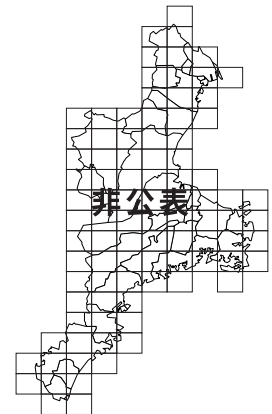
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、採取圧がある。

**種の概要：** 常緑性シダ。海岸の向陽の岩礁や急崖地の地際に生育する。葉身は長さ10~30 cm、巾7~20 cmで基部が最も広く、裂片は広くさび形。ホラシノブに似るが、葉身、胞子嚢ともに厚い。

**分布：** 本州（伊豆以西の太平洋側）、四国、九州。県内では紀州（尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布する。

**現況・減少要因：** 根茎は深く岩の割れ目や赤土の中に入り込んでいるため、自然落下による減少は少ない。極度の乾燥や急崖地の崩落、乱獲が減少要因になる。

**保護対策：** 乱獲を防止するため、生育地の公表を避けることが重要である。



(花尻 薫)

### キクシノブ

*Pachypleuria repens* (L.f.) Kato

シダ植物 シノブ科(Christenhusz et al. 2011 : 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：C (VU)

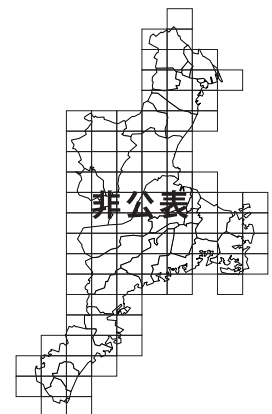
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。採取圧により減少傾向にある。

**種の概要：** 高湿度地の樹幹や岩上に着生する常緑シダで、根茎は長く匍匐し、葉身は三角形から五角形の菊の葉状で、長さ10~25 cm、幅2~7 cmで革質である。

**分布：** 紀伊半島、四国南東部、九州南部、沖縄。国外では旧世界の熱帯に広く分布する。県内では伊勢市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、紀宝町に記録がある。

**現況・減少要因：** 南伊勢町の生育地では乱獲により個体数は減少しているが、紀北町では絶滅した生育地もある。

**保護対策：** 採取防止のため、生育地の公表を避けることと、保護啓発に常に力を入れていくことが必要。



(岡 與一)

### アイコハチジョウシダ

*Pteris laurisilvicola* Sa.Kurata

シダ植物 イノモトソウ科(Christenhusz et al. 2011 : 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、いずれの生育地でも個体数は少ない。環境の変化や森林伐採で減少している。

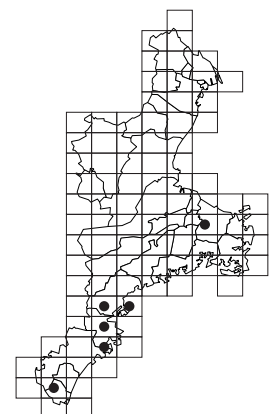
**種の概要：** ハチジョウシダ群のもの。羽片の基部は切形で無柄。羽片は軸に対して広い角度の斜めに着く。最下羽片の下向き小羽片は通常1対。植林地下に生育する。

**分布：** 本州（静岡県、紀伊半島、山口県）、四国、九州に分布し、県内では伊勢市、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

**現況・減少要因：** 森林伐採による減少がみられるが、県南端部の紀宝町では若干個体数は増えている。ニホンジカの食害から免れているためだろう。他の生育地は現状不明である。

**保護対策：** 主に杉植林地に生育するため、伐採時には事前の届出や調査が必要とされる。

**文献：** 80, 115.



(大洞浩一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヤワラハチジョウシダ

*Pteris natiensis* Tagawa

シダ植物 イノモトソウ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：EN

近畿：C (VU)

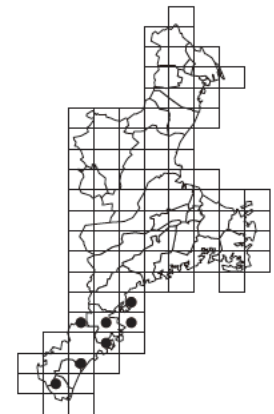
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、森林伐採や土地開発等の事業により、生育環境が激変して、生育適地が減少するおそれがある。

**種の概要：** 山地の林内に生育する。葉柄は細く、葉は柔らかく羽片の基部は狭まり、中央部が最も幅が広い。羽片の数は2~5対。最下羽片は通常1個の羽片を分岐する。

**分布：** 日本固有種。紀伊半島東南部、四国、九州。県内では、紀北町鈴島（北限自生地）、尾鷲市、熊野市、紀宝町、御浜町から記録されている。

**現況・減少要因：** 尾鷲市、紀北町では、山そのものがなくなるような事業が行われて、シダ植物の生育適地は著しく減少している。熊野市ではよく現況が把握されており、保護されている。

**保護対策：** 土木業者、林業従事者への徹底した事前の届出や調査等の義務付けが急務である。



(加田勝敏)

## ヒメイワトラノオ

*Asplenium capillipes* Makino

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は少ない。山地の石灰岩上に生育するが、絶滅が危ぶまれる。

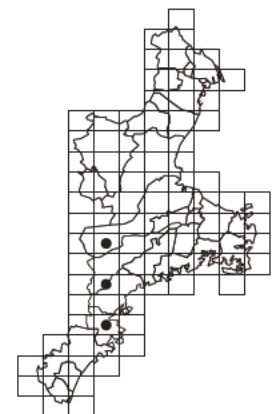
**種の概要：** イワトラノオに近似するが、上部に無性芽を生じる。葉柄は通常葉身より長い。

**分布：** ヒマラヤ、朝鮮、台湾。国内では北海道、本州（新潟県以南）、四国、九州に分布し、県内では松阪市、大台町、尾鷲市に記録がある。

**現況・減少要因：** もともと生育地や個体数も少ないが森林伐採や土砂崩壊等により減少しているものと思われる。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採、道路建設等は避けるべきである。自生地周辺の調査も必要。

文献： 80, 115.



(大洞浩一)

## ナンゴクホウビシダ

*Asplenium cataractarum* Rosenst.

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：B (EN)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、限られた環境に生育する。

**種の概要：** ホウビシダに似るが、羽片の先端部は鎌状に細くなり、ソーラスがほぼ辺縁近くまで達するので区別できる。山林中の溪流沿いの水が滴るような斜面に生育する。

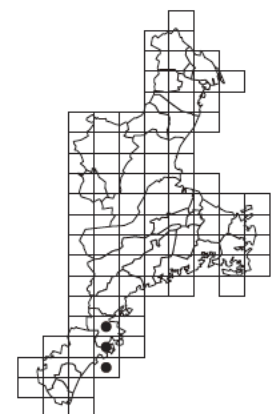
**分布：** 中国、台湾。国内では本県南部、四国、九州、伊豆諸島、小笠原、沖縄。県内では尾鷲市、熊野市に産する。

**現況・減少要因：** 森林伐採や道路建設、洪水等による土砂崩壊で減少している。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採、林道より谷間への土砂崩壊、流出等を防止する対策が急務。

**特記事項：** 和歌山県側には今のところ未確認である。

文献： 80.



(大洞浩一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヤクシマホウビシダ

*Asplenium obliquissimum* (Hayata) Sugim. et Sa.Kurata

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：—

環境省：—

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は20前後であるが、各地点の個体数は少なく、砂防堰堤建設や道路工事等により消滅したところも散見される。

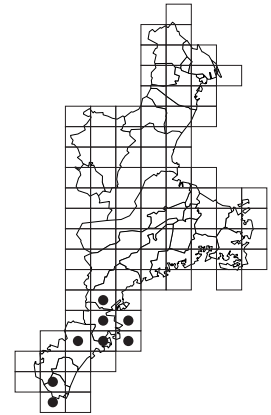
**種の概要：** 溪流沿いの常に水の滴る陰湿な岩壁に生育。根茎は長く横走りし、薄い葉をまばらにつける。葉は長さ20 cmほど、羽片は少し斜上してつき緑色。葉面の組織は2層か3層の細胞よりなり、透けて見える。

**分 布：** 伊豆半島（ごく稀）、紀伊半島、大隅半島から屋久島、奄美大島。国外ではヒマラヤから東南アジアにかけて分布している。県内では紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町から記録されている。

**現況・減少要因：** 生育環境が限定されており、各生育地の群落面積も小さいため、自生地周辺の環境変化により消滅する危険性がある。

**保護対策：** 森林伐採、道路開設等大規模な環境変化の際には、保存に配慮が必要である。

**文 献：** 105.



(山本和彦)

## ヒロハアツイタ

*Elaphoglossum tosaense* (Yatabe) Makino

シダ植物 ツルキジノオ科(Christenhusz et al. 2011:オシダ科)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、個体数は少ない。マニアや園芸業者等による採取圧が強い。

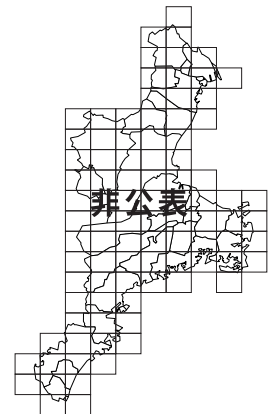
**種の概要：** アツイタによく似ているが、葉柄がはっきりしていること、葉縁に白い薄膜があり葉面は波を打っていることで区別できる。

**分 布：** 本州（静岡県、紀伊半島）、四国、九州に分布し、県内では大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市で記録がある。

**現況・減少要因：** 大台町の生育地の他は現状不明である。マニアや園芸業者等の採取、森林伐採による環境変化によるものと思われる。

**保護対策：** 繁殖力の弱い種であるから、プロ・アマ問わず採取には充分注意を払わなければならない。

**文 献：** 80. 115.



(大洞浩一)

## オトコシダ

*Arachniodes assamica* (Kuhn) Ohwi

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

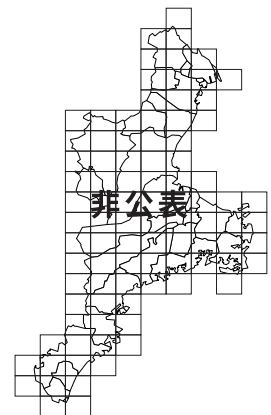
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、未知の生育地も既知のそれを上回ることはない。

**種の概要：** 山地の林下に生育する中形の常緑性シダ。根茎は這い、鱗片をつける。葉はかたい革状草質、濃緑色でやや光沢がある。ほとんど無毛。

**分 布：** 本州（伊豆半島、紀伊半島、山口県）、四国、九州。国外ではヒマラヤから中国、ミャンマー、タイ、インドシナに分布。県内では大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

**現況・減少要因：** これまでに確認されている自生地は、各分布地域で1~3か所程度で、個体数は少なく稀である。マニアによる採取や林道工事により消失した生育地もみられる。

**保護対策：** 生育地の公表は避ける、自生地周辺の森林を保全する等の手だてが必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## シラネワラビ

*Dryopteris expansa* (C.Presl) Fraser-Jenk. et Jermy

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下である。

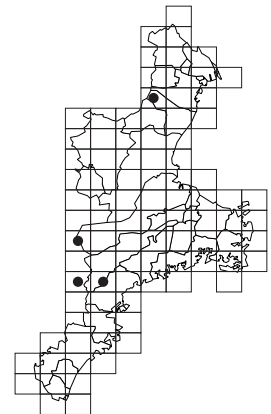
**種の概要：** 羽軸や小羽軸に袋状鱗片はなく、葉身は五角形状で3回羽状深裂する。葉柄の鱗片には中央が黒褐色のものが混ざる。温帯林の林床に生育する。

**分 布：** 北半球温帯地域。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、西南地域では冷涼な高地に限られる。県内では、尾鷲市、大台町で記録がある。

**現況・減少要因：** 大台町宮川で2か所。過去には松阪市1、大台町1か所でも記録があるが、現状は不明である。近年鈴鹿市でも生育が確認された。森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。

**文 献：** 46.



(加田勝敏)

## キヨズミオオクジャク

*Dryopteris namegatae* (Sa.Kurata) Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：準 (NT)

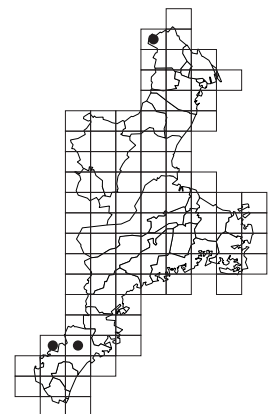
**選定理由：** 既知の生育地点数が5以下であり、各地点の個体数は少ない。

**種の概要：** 常緑性のシダでイワヘゴやオオクジャクシダに似る。イワヘゴに比べて中軸の鱗片は少なく短くなり、羽片は上面葉脈部分が著しく凹み、下部羽片は多少短くなり漸尖する。オオクジャクシダとは孢子嚢群が羽軸寄りになっている点が相違点である。

**分 布：** 日本固有種。関東地方以西、四国、九州。イワヘゴやオオクジャクシダと同じような陰湿な環境に生育する。県内ではいなべ市藤原町、熊野市に記録されている。

**現況・減少要因：** 熊野市にかなりの個体数が生育している。その他、いなべ市1か所でも確認されている。土地造成や森林伐採が減少要因となる。

**保護対策：** 森林伐採による乾燥化に注意を要する。



(市川正人)

## イワイタチシダ

*Dryopteris saxifraga* H.Itô

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：準 (NT)

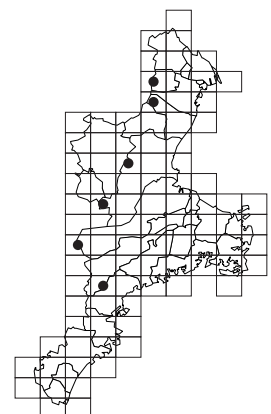
**選定理由：** 既知の生育地点数が10以下であり、各地点の個体数は少ない。

**種の概要：** ヤマイタチシダに似た常緑性のシダであるが、それより全体小さく、葉柄や中軸の鱗片は密につき広披針形で尾状にのび、開出、またはやや下向きにつき、弓なりに曲がって、先は上を向く特徴がある。黒褐色から黒色を呈する。

**分 布：** 国内では北海道から九州に生育し、一般的には寒冷で陰湿な溪流近くの岸壁に生える。県内では菰野町、四日市市、伊賀市、津市、松阪市、大台町に記録がある。

**現況・減少要因：** 菰野町1、四日市市1、伊賀市1、津市美杉町1、松阪市飯高町1か所でも確認されている。生育している場所からみて直ちに絶滅する心配はないが、森林伐採時には注意が必要である。

**保護対策：** 生育場所は人為的圧力の及ぶようなところではなく、自生環境を現状のまま維持することである。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ホオノカワシダ

*Dryopteris shikokiana* (Makino) C.Chr.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10数か所であるが、近年洪水等で個体数が激減している。

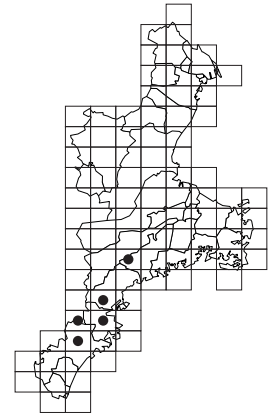
**種の概要：** 一見キヨスミヒメワラビに似るが、最下の下向第一小羽片は最も大きい。葉柄の鱗片は黒褐色で光沢がある。

**分布：** 中国。国内では本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布し、県内では大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

**現況・減少要因：** 近年（2011年）の紀伊半島大水害による洪水や、渓谷崩壊等により個体数が激減している。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採等は避け、林道等の土砂崩壊につながらないように適切な森林管理が必要である。

**文献：** 80, 115.



(大洞浩一)

## タニヘゴ

*Dryopteris tokyoensis* (Matsum.) C.Chr.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数は250未満である。

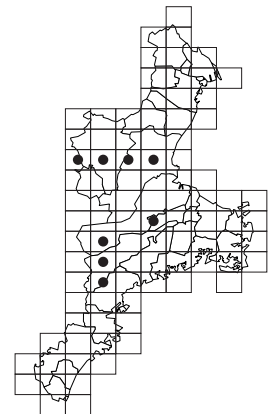
**種の概要：** 山地から丘陵地の明るい湿地に生育するシダで、冬は地上部が枯れる。葉の長さは1 m以上に達し、羽片は下部ほど小さく三角形になり、各羽片の基部は耳状に突出する。

**分布：** 朝鮮半島、国内では、北海道、本州、四国、九州に分布。県内では、伊賀市、亀山市、津市、松阪市、大台町、多気町に記録がある。

**現況・減少要因：** 土地の乾燥化、丘陵地や山地谷部の埋立・改変等による湿地の消滅が最大の要因で、伊賀市では絶滅寸前まで生育地が減少した時期があった。

**保護対策：** 生育地の環境が保全されても、周辺部も含めた環境が保全され、水系として維持されないと効果がない。

**特記事項：** 伊賀市耕川二つ池上流の群落は、市の天然記念物に指定されている。



(加田勝敏)

## チャボイノデ

*Polystichum igaense* Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：VU

環境省：—

近畿：C (VU)

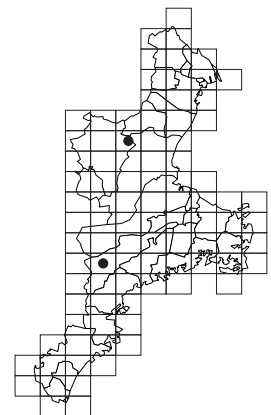
**選定理由：** 既知の生育地点数は5下で、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要：** イノデモドキに類似するが、全体やや小形で葉は地に着くように開出して出る。葉柄部分が著しく短く、中軸の鱗片は振じれる。

**分布：** 日本固有種（基準産地が伊賀市）。本州（栃木県以西）、四国、九州。県内では、伊賀地域と大台町から記録されている。

**現況・減少要因：** 繁殖能力が弱く、もともと個体数が少ないので、いずれの生育地でもわずかな個体しか確認されていない。林道工事や山林伐採が減少要因となる。

**保護対策：** 土木関連業者や森林業者への周知徹底と啓発が重要である。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## オニイノデ

*Polystichum rigens* Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：準 (NT)

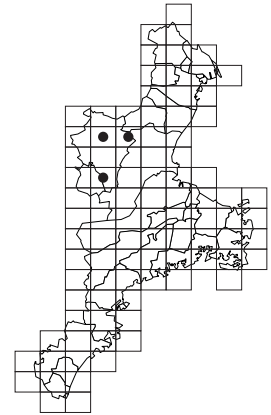
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下と少なく、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要：** 葉は革質で光沢が強く40~70 cm。小羽片は羽軸に沿着し、先端が棘状になる。

**分布：** 中国、国内では関東以西の本州に分布。県内では伊賀市から記録されている。

**現況・減少要因：** 林道の拡幅工事・森林伐採による環境悪化が最大の要因である。

**保護対策：** 小規模の改変については、届出や現況調査がなされないことが多く、土木業者に届出や現況調査の必要性を徹底周知させることが重要である。



(加田勝敏)

## ヒメハシゴシダ

*Thelypteris cystopteroides* (D.C.Eaton) Ching

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：B (EN)

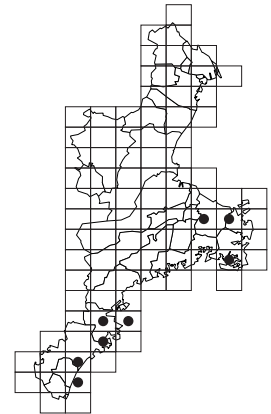
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。個体数は少ない。

**種の概要：** 常緑性。根茎は長く横走り、葉柄2~4 cm、有毛鱗片もつける。葉質は革質からやわらかい紙質、葉脈上有毛、裏面に腺がある。

**分布：** 伊豆半島、紀伊半島南部、広島県宮島、四国南部、九州西南部、沖縄。県内では伊勢市、志摩市大王町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布。

**現況・減少要因：** 志摩市の生育地では開発により一部消滅した。他の生育地の現況はあまり変化がない。

**保護対策：** 開発にあたっては、事前の調査と保全対策が必要である。



(岡 與一)

## テツホシダ

*Thelypteris interrupta* (Willd.) K.Iwats.

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：C (VU)

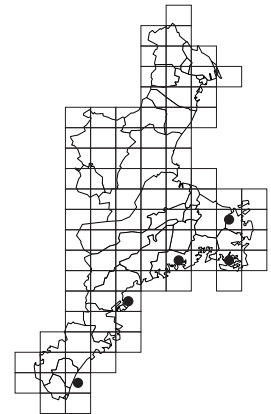
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。埋め立て等の環境変化やニホンジカの食害により減少している。

**種の概要：** 夏緑生。根茎は長く横走る。径4~6 mm位、黒っぽく、先端にまばらな鱗片をつける。葉質はやわらかい革質で葉面は無毛。

**分布：** 本州南部(静岡県、愛知県、紀伊半島、福井県、島根県)、四国南東部、九州、沖縄。世界の熱帯、亜熱帯地域。県内では鳥羽市、志摩市大王町、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、紀宝町に分布。

**現況・減少要因：** 南伊勢町の生育地は埋め立てられたことにより消滅した。また、志摩市の生育地でも一部埋め立てにより減少した。尾鷲市ではニホンジカの食害により消滅している。

**保護対策：** 開発等にあたっては、事前の調査と保全対策が必要である。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミゾシダモドキ

*Thelypteris leveillei* (H.Christ) C.M.Kuo

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：C (VU)

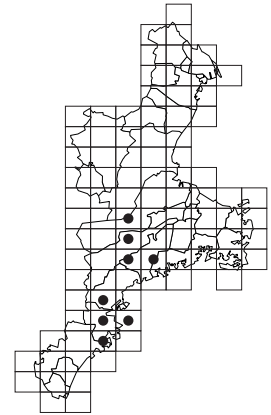
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。各自生地の個体数は多くなく、森林の伐採などにより激減した生育地もある。

**種の概要：** 山地の溪流沿いの陰湿な林床にややまれに生じる。常緑性。根茎は横走る。葉柄は基部がわずかに太く、長さ20~40 cm。葉身は長楕円状披針形で、長さ30~60 cm。葉脈はすべて遊離。包膜はない。葉身の上部を除いて、中軸に翼がない。羽片基部に通気孔がある。

**分布：** 千葉県以西の本州南部、四国、九州の山地。県内では、中勢、南勢、紀州に分布する。

**現況・減少要因：** 松阪市飯高町、大紀町大宮、大台町宮川、紀北町海山区、尾鷲市などからの標本記録がある。森林伐採による乾燥化で激減したり、消滅の危機にさらされているところもある。

**保護対策：** 森林の伐採などを避け、生育地の保護が必要である。



(山脇和也)

### ムクゲシケシダ

*Deparia kiusiana* (Koidz.) M.Kato

シダ植物 イワデンド科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：準 (NT)

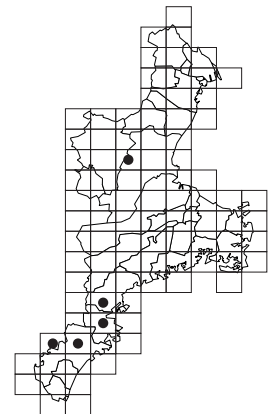
**選定理由：** 既知の生育地点数が5以下である。個体数は少ない。

**種の概要：** 夏緑性のシダで山地の湿った林床に生える。セイタカシケシダに似るが葉柄や中軸に白色鱗片が密生し、羽片の切れ込みは浅い。孢子葉は栄養葉に比べて葉身、葉柄ともに長い。胞膜辺縁は裂ける。

**分布：** 国内では山形県および関東以西、四国、九州の林床に生育する。県内では伊賀市、紀北町、熊野市に記録がある。

**現況・減少要因：** 熊野市神川町一帯で散発的に確認されている。他地域でも環境さえ満たせば生育していると考えられる。減少要因として森林伐採があげられる。

**保護対策：** 群生するシダではないが、環境の維持により持続すると思われる。



(市川正人)

### イワヤシダ

*Diplazium cavalerianum* (Christ) M.Kato

シダ植物 イワデンド科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：準 (NT)

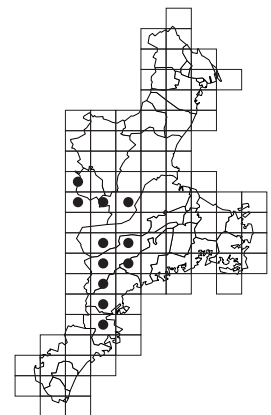
**選定理由：** 既知の生育地点数は10数か所であり、いずれの産地でも個体数は少ない。マニア等による採取圧が強く、環境の変化や開発がおきやすい場所に生育している。

**種の概要：** 夏緑性。根茎はほぼ直立。葉は淡緑色。葉身は単羽状複生。はっきりした頂羽片がある。羽片は無柄に近い。葉脈は網状脈で葉質は柔らかい。ソーラスは羽軸に接してつき、ソーセージ状のやや弯曲し、膨らんだ包膜をもつ。

**分布：** 中国、国内では本州、四国、九州に分布し、県内では伊賀市、名張市、松阪市、大台町、尾鷲市、熊野市で記録がある。山地の陰湿な樹林下に生育する。

**現況・減少要因：** 過去には各地で記録があるが、現状は不明な所が多い。名張市、松阪市、大台町で現認されている。マニア等の採取、森林伐採や気候変動による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。

**保護対策：** マニア等の採取に対する強力な防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為は避けるべきである。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イヨクジャク

*Diplazium okudairae* Makino

シダ植物 イワデングダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：EN

近畿：準 (NT)

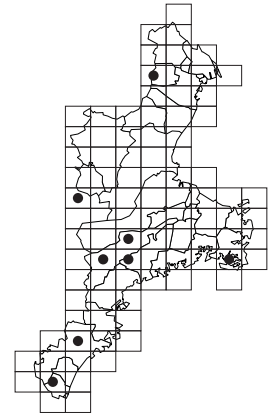
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。各自生地の個体数は250未満である。

**種の概要：** 山地林下の溪流沿いなどのやや陰湿な地上に生じる夏緑生のシダ。ノコギリシダによく似ているが、根茎はやや短く、葉はやや混み合っ著く。葉は単羽状複生で頂羽片がない。羽片基部には著しい耳垂れがある。葉質は薄く、紙質。上部の羽片の基部は中軸に流れ、翼をつくる。

**分 布：** 本州（静岡県以西の太平洋側）、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内のおもな生育地は、菟野町、松阪市飯高町、大台町、名張市、熊野市などで、全域に点々と記録されている。

**現況・減少要因：** 森林伐採による生育環境の乾燥化や、氾濫による生育環境の崩壊により減少する可能性がある。

**保護対策：** 森林伐採や道路整備の時、注意が必要である。また、この種のシダが生育するところでは、他の貴重な植物も多くみられるため、この地域全体を保護することが望まれる。



(山脇和也)

## タカノハウラボシ

*Crypsinus engleri* (Luerss.) Copel.

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：B (EN)

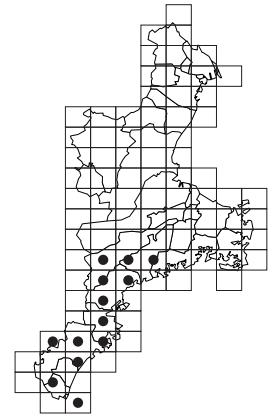
**選定理由：** 既知の生育地点数は比較的多いが、各地点の個体数は少なく、採取圧が強い。

**種の概要：** 常緑性シダ。山林下の湿った岩上や樹幹に着生。葉は長さ30~50 cmほどに達し、根茎は長く這う。葉柄基部および根茎上には茶褐色の鱗片を密につける。葉身は単葉で巾は平行的に細長い。

**分 布：** 本州（伊豆諸島、静岡県から近畿地方、山口県）、四国、九州。県内では南勢（大台町、南伊勢町、大紀町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）で記録がある。

**現況・減少要因：** 乱獲による減少、森林伐採による生育環境の悪化が主な減少要因である。

**保護対策：** 人の近寄れない岩上の生育地などは安全であるが、容易に手の届く場所については採取対策に留意する必要がある。



(花尻 薫)

## ヌカボシクリハラシ

*Microsorium buergerianum* (Miq.) Ching

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：C (VU)

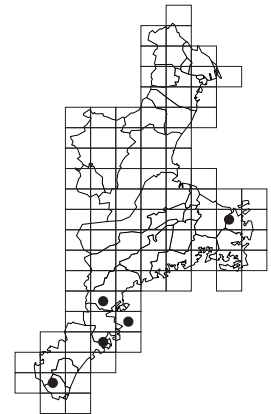
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。採取圧により減少している。

**種の概要：** 常緑性。根茎は長く横走し、径3~5 mmの鱗片をつける。葉身は単葉広披針形、長さ20~40 cm、幅1.5~2.5 cm、全縁革質、両面に鱗片がつく。

**分 布：** 関東地方以西から九州にいたる各地と沖縄本島。国外では済州島、台湾（高山）、中国からインドシナに分布。県内では鳥羽市、尾鷲市、紀宝町に記録がある。

**現況・減少要因：** 南勢地域の生育地では比較的多くの個体数が残されているが、紀州では、乱獲され皆無状態となった生育地も多い。

**保護対策：** 生育地の情報は慎重に取り扱う必要がある。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## サンショウモ

*Salvinia natans* (L.) All.

シダ植物 サンショウモ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強い。

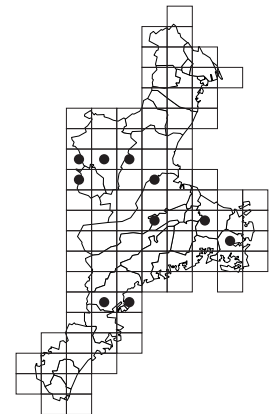
**種の概要：** 一年生の浮遊植物。茎は長さ3~10 cm、葉は3輪生で、そのうち2枚は対生して浮葉となり、他の1枚は細裂して根のように水中に垂れる。浮葉は長楕円形で、長さは8~15 mm。

**分布：** アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ。国内では北海道を除く全国各地に分布し、県内では津市、多気町、伊勢市、志摩市、紀北町、伊賀市、名張市で記録がある。池沼、水田、水路などに生育。

**現況・減少要因：** 津市2、多気町1、伊勢市1、志摩市1、紀北町2、伊賀市3、名張市1か所。そのうち津市1、伊勢市1、伊賀市1か所は2013年の記録である。繁殖力は強いが除草剤には弱いため、過去には大きく減少したようである。

**保護対策：** 大きな環境変化がなかった生育地では生育は継続していることから、現在の生育環境の保全に努めていく必要がある。また生育地で改修工事等を行う場合には生活史を考慮した対策を検討する必要がある。

**文献：** 1. 73. 106.



(中 優)

## ハリモミ

*Picea torano* (Siebold ex K.Koch) Koehne

裸子植物 マツ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：B (EN)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下、個体数が少ないうえ、林業開発により天然林が人工林に転換され減少した。

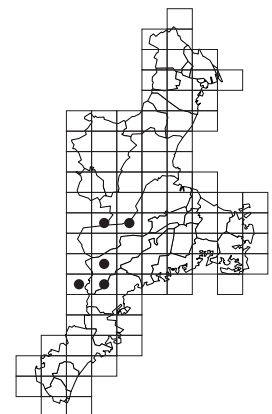
**種の概要：** 高木性の常緑針葉樹。樹高30 m、幹の直径は1 mにもなる。葉は線形で長さ1.5~2.0 cm、先が尖り葉身はやや湾曲する。

**分布：** 日本固有種。国内では本州(福島県以南)、四国、九州に分布し、我が国に産するトウヒ属の種としては最も暖かい地域に生育する。県内では台高山脈(津市美杉町、大台町ほか)とその周辺の山地帯などに分布。

**現況・減少要因：** 大杉谷源流域の西谷最奥(三津河落山)の斜面ほか、台高山脈の山地帯で他種と混生。個体数は多くない。生育地の多くがスギ・ヒノキ植林に転換された。また近年、野生獣の食害で更新が妨げられている。

**保護対策：** 現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生獣の食害等を防ぐ対策が必要。

**文献：** 138. 139.



(武田明正)

## トガサワラ

*Pseudotsuga japonica* (Shiras.) Beissner

裸子植物 マツ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下、生育地は山地に局限され、その多くがスギ、ヒノキ植林に転換されたほか、多様な要因によって個体数が減少している。

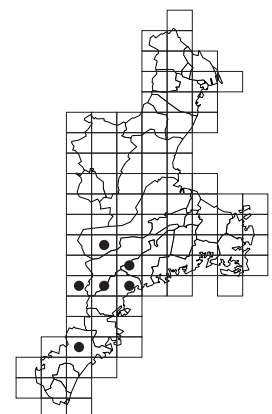
**種の概要：** 高木性の常緑針葉樹。樹高30 m以上、幹の直径は1 mを超えることがある。葉は線形で長さ2.0~2.5 cmで扁平。葉裏に白色の気孔帯が2条ある。球果は卵形。苞鱗は先が3裂、種鱗から長く出て反曲する。

**分布：** 日本固有種。国内では紀伊半島(三重県、和歌山県、奈良県)と四国(高知県)の山地に分布。県内では大台町、松阪市飯高町、大紀町、熊野市。

**現況・減少要因：** 台高山脈の山地帯で、スギ、ヒノキ、コウヤマキや広葉樹類などと混生するが、個体数は多くない。好陽性の本種は母樹が少ないうえ人為的要因(林種転換)などにより更新適地が減り、個体数を減らしている。

**保護対策：** 現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生獣の食害等を防ぐ対策が必要。

**文献：** 139.



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コメツガ

*Tsuga diversifolia* (Maxim.) Mast.

裸子植物 マツ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：—

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。分布は高標高地に限定されている。近年、野生獣の被害を受け、母樹、稚幼樹ともに個体数が激減すると同時に、更新も妨げられている。

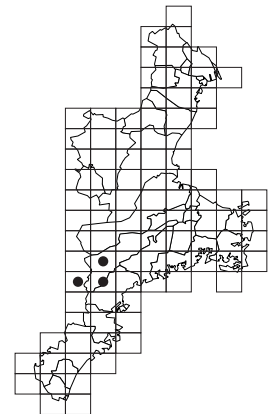
**種の概要：** 高木性の常緑針葉樹。樹高25 m、幹の直径は1 m程度に達する。若い枝は短毛が多い。葉は線形、長さ0.4~1.4 cm、幅0.2 cm程度。球果は卵円形で若枝に頂生する。長さ1.5~2.0 cm、幅1.5 cm。ツガより高地に分布。

**分布：** 日本固有種。国内では本州（紀伊半島以北、中部山地の亜高山帯）、四国、九州に分布。県内では大台町大台ヶ原山で確認されている。他にも分布情報があるが判然としない。

**現況・減少要因：** 日出ヶ岳を中心とする大台ヶ原の高所に分布するが、個体数は多くない。近年、母樹、稚幼樹ともに野生獣の被害により個体数が減少している。

**保護対策：** 現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生獣の被害等を防ぐ対策が必要。

**文献：** 139.



(武田明正)

## キヌヤナギ

*Salix kinuyanagi* Kimura

被子植物 [双子葉・離弁花] ヤナギ科(APG III:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：—

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。未知の生育地は既知の地点に比べて多くはないと考えられる。

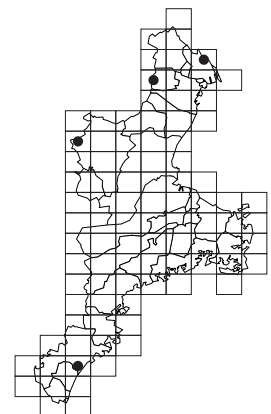
**種の概要：** 水辺など水湿性に生える落葉小高木。小枝には灰色の軟毛が密生。葉身は狭披針形で先端は鋭尖形。長さ10~20 cm、幅1~2 cm。葉の縁が裏に巻く。裏面は伏した白色直毛が密生して銀白色に見える。

**分布：** 国内では本州（関東以西）、四国、九州。県内では桑名市、菰野町、伊賀市、熊野市などで分布情報がある。

**現況・減少要因：** 生花、観賞用として植栽されることがあり、自生は多くないという。

**保護対策：** 河川改修、護岸工事などの際には、保存に配慮が必要。

**特記事項：** 雄株だけが知られており、我国本来の自生種でなく、栽培品からの逸出との考えもあり、RDB掲載種として適当か、今後の研究の進展をまって再検討する必要がある。



(武田明正)

## シリブカガシ

*Lithocarpus glaber* (Thunb.) Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] ブナ科(APG III:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

近畿：—

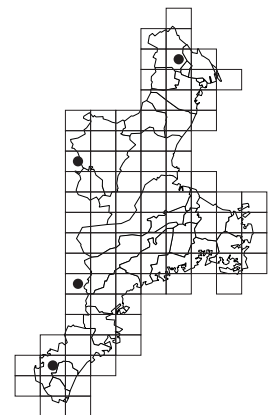
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。県内では自生と思われる個体が少ない。

**種の概要：** 常緑高木。樹高15 m程度。直径50 cmになる。樹皮は灰黒色で割れ目がなく、縦に皮目の列がある。葉身は革質で倒披針状長楕円形、長さ8~12 cm。先は鋭尖形で鈍頭。全縁または上部に鋸歯がある。葉裏の脈間は鱗状の微細毛が密生し銀灰色。殻斗は椀状、堅果は長さ2 cm程度で大きい。

**分布：** 国内では本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国（中南部）に分布。県内では、桑名市、伊賀市、大台町、熊野市ほかに分布情報がある。

**現況・減少要因：** 古くから材や堅果が利用されていた。現在は社寺林などで僅かな個体がみられるのみ。

**保護対策：** 社寺林などに生育するものは、献木などとして植栽された可能性もあるので、本来の自生か否か今後検討する必要がある。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミヤマツチトリモチ

*Balanophora nipponica* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ツチトリモチ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: —

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は4. それぞれ1960年代, 1970年代に確認されているが, それらのうち1か所は現在も健在. 他の3地点は現状不明. 個体数は不明だが, 多くはないと思われる.

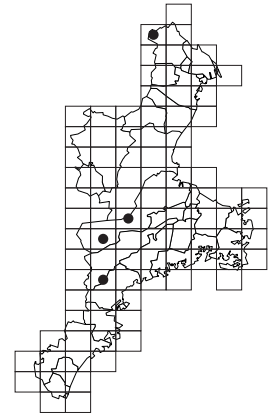
**種の概要:** ウリハダカエデなど主にカエデ属の根に寄生する多肉質で無毛の多年草. 落葉広葉樹林内の林床に生育. 高さ8~14 cm, 雌雄異株といわれているが, 雄株は発見されていない. 葉緑素をもたず気孔もない. 花期は7~8月, 花序は卵状長楕円形で長さ3~5 cm, 幅1.5~2 cm, 橙赤色から橙黄色を呈する.

**分布:** 日本固有種. 本州, 四国, 九州に分布. 県内ではいなべ市, 津市, 松阪市, 大台町から記録されている.

**現況・減少要因:** カエデ属を主体とする自然度の高い落葉広葉樹林に出現することから, 県内での分布は限定されている. 森林伐採により宿主木が消失すると本種も絶滅するものと思われる.

**保護対策:** 森林伐採の規制.

**文献:** 48, 50, 139.



(山本和彦)

### ナガバノヤノネグサ

*Persicaria breviochreata* (Makino) H. Ohki

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: —

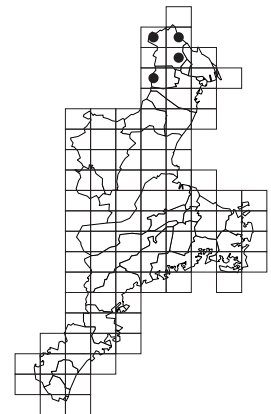
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下である. 里山などの開発により, 減少の可能性はある.

**種の概要:** 山林下の陰地に生える一年草. 茎は根元から分枝して斜上し, 棘は細くてごく少ない. ヤノネグサに比べて葉が細長く, 花は短い総状花序をなし, まばらに1~3個の花をつける. 花期は普通8~10月.

**分布:** 国内では本州 (関東以西) から四国, 九州. 県内では北勢地域の林内や林縁で点々と記録がある.

**現況・減少要因:** 2005年までに北勢4か所で現存が確認されている. 森林の伐採や工事などで減少の可能性はある.

**保護対策:** 生育地の森林の伐採や道路工事など避けるべきである.



(山脇和也)

### ナガバノウナギツカミ

*Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

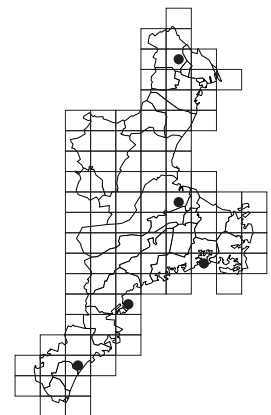
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下である. 個体数は少ないが, 他にも生育地が期待できる.

**種の概要:** 水辺に生える一年草. 茎の下部は地を這い, 上部は直立し, 高さ80 cmに達する. まばらに短い下向きの刺毛がある. 葉柄10~25 mm, 葉身は長さ6~11 cmの披針形から長楕円形で鋭尖頭, 毛はない. 基部はほこ形またはやじり形である. 托葉鞘は筒状, 上部は切形で縁毛がある. 9~10月に紅紫色で花被片5, 長さ3 mmの花をつける. 花柄や小花柄に黒ずんだ腺毛が多い.

**分布:** 国内では北海道南部, 本州, 四国, 九州に分布. 県内では桑名市多度町, 松阪市, 南伊勢町, 紀北町, 御浜町で記録がある.

**現況・減少要因:** 桑名市多度町1, 松阪市1, 南伊勢町1, 紀北町1, 御浜町1か所で確認されている. 今にも湿地開発が進みそうなところが多く, 埋め立てによる土地造成が減少要因となる.

**保護対策:** 湿地開発を止め, 乾燥化を防ぐこと以外に保護は不可能である.



(市川正人)

- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

## サデクサ

*Persicaria maackiana* (Regel) Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが、開発圧が強い生育地が多い。

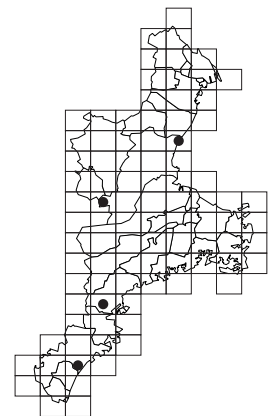
**種の概要:** 水湿地に生える一年草。茎は多くの枝を分け、鋭い下向きの刺毛があり、高さ30~100 cm。葉は披針状のほこ形。長さ3~8 cm、両面に星状毛を密生。花期は8~10月、花被は紅色、長さ3 mm。

**分布:** 国内では本州から九州。国外では朝鮮半島、中国、ウスリーに分布。県内では津市、紀北町、御浜町からの記録がある。

**現況・減少要因:** どこにでもありそうな種だが、標本による記録は意外と少ない。現在確実に分布するのは、紀州地域2か所のみである。紀北町では、湿地周辺の草刈りにより増加傾向にあるようだ。

**保護対策:** 湿地周辺の草刈り等、維持管理が必要。紀北町では地元住民により定期的な整備がなされている。

**特記事項:** 本種のように、県内における分布状況が未解明な種が多いのが実情である。今後標本資料の蓄積とそれを管理保管する施設の充実が望まれる。



(山本和彦)

## ヌカボタデ

*Persicaria taquetii* (H.Lév.) Koidz.

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

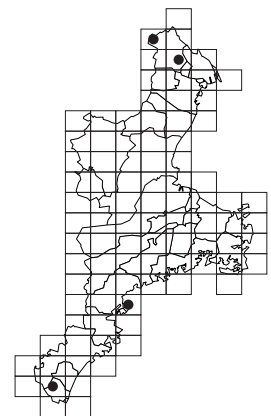
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、開発圧が強い。

**種の概要:** 水湿地に生える一年草。高さ20~40 cm。茎の下部は地を這い、根を出し、多くの枝をわける。葉は狭披針形、鋭尖頭、基部はくさび形、ほとんど無柄。長さ4~6 cm。花期は9~11月、花は枝先にまばらに穂状につく。果実は三角形、黒褐色、光沢があり長さ約1.5 mm。

**分布:** 国内では本州から九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では北勢、紀州地域からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内では溜池周辺の湿地や水田の畦などに生育する。紀州地域の紀北町海山区では今のところ健在。

**保護対策:** 水田では除草剤を極力減らすことが重要である。また、溜池の改修にあたっては周辺に発達する湿地も含めた十分な事前調査を行い、本種を含む湿地生植物の保護対策が必要である。



(山本和彦)

## サイコクヌカボ

*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

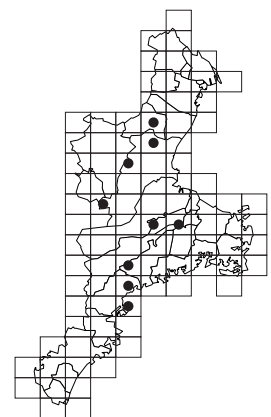
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数は250未満である。

**種の概要:** 水湿地に生える一年草。茎は高さ30~60 cm。葉は狭披針形、長さ3~9 cm、幅2~9 mm。花期は9~10月、総状花序は長さ5~6 cmで先端は垂れ、まばらに花をつける。果実はレンズ形で長さ約1.5~2.0 mm。

**分布:** 国内では本州(中部地方以西)、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢、紀州地域からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内では溜池周辺の湿地や放棄水田などに生育する。遷移の進行や、埋め立て工事により、消失した自生地もある。

**保護対策:** 溜池の改修にあたっては周辺に発達する湿地の十分な事前調査と本種を含む湿地生植物の保護対策が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ワチガイソウ

*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax var. *heterantha*

被子植物 [双子葉・離弁花] ナデシコ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、個体数は減少、生育地は人為圧を受けやすい。

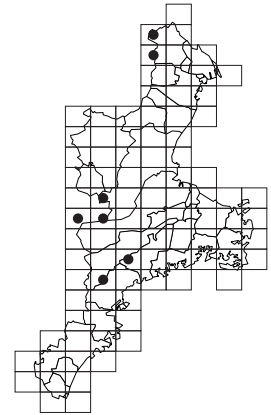
**種の概要:** 高さ8~12 cm, 列生する軟毛がある。葉は長さ15~40 mm, 巾2~4 mm。花は長柄を持ち葉のもとにつき、白色5弁、花期は4~6月。

**分布:** 国内では本州(関東以西)、四国、九州、国外では中国の冷温帯。県内ではいなべ市、津市美杉町、松阪市飯高町、大台町に分布する。

**現況・減少要因:** 山地の落葉広葉樹林やその林縁に生え、踏みつけ、林道改修、山林伐採や混生するスギ、ヒノキなどの生長に伴ない生育環境が悪化し減少している。採取圧も見逃せない。

**保護対策:** 生育地である落葉広葉樹林の維持に努めるとともに、踏みつけ、採取、林道改修などの人為圧を排除する対策が必要である。

**文献:** 45, 57, 139.



(葛山博次)

## コブシ

*Magnolia kobus* DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] モクレン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。県内では自生と思われる個体が著しく少ない。

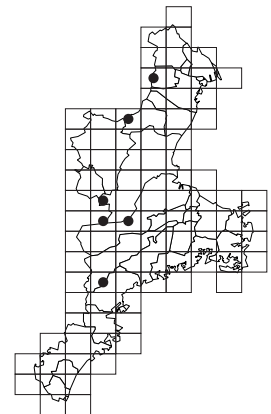
**種の概要:** 落葉高木。樹高15 mを超えるものがある。互生する葉は倒卵形から広卵形。長さ6~13 cm, 上部はしだいに細くなり先は突出する。基部はくさび形に細まる。白色の花の基部は淡紅色、葉の展開に先立って4月頃咲く。

**分布:** 国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島(済州島)に分布。県内では、菰野町(御在所岳、朝明溪谷)、津市美杉町(三重大学演習林、大洞山)ほか。比較的標高の高いところ(暖带上部)に稀に自生する。

**現況・減少要因:** 鈴鹿山地や台高山地の尾根から山麓にかけてタムシバと混じって自生しているが、個体数は多くない。観賞用としての採取や野生獣の食害が危惧される。

**保護対策:** 生息地は室生赤目青山国定公園域、鈴鹿国定公園域である。

**特記事項:** 花期にはタムシバ(*Magnolia salicifolia*)と混同されることが多いので注意を要する。なお、同種とコブシとの雑種の分布も確認されている。



(武田明正)

## ルイヨウショウマ

*Actaea asiatica* H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点とも個体数は少ない。

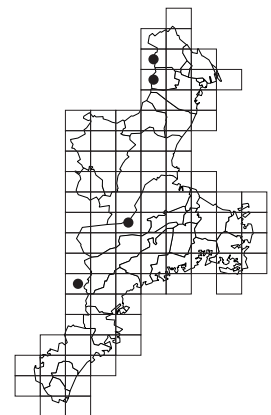
**種の概要:** 高さ約60 cm。茎葉は2~3枚で、2回または3回3出複葉で先端は尖る。白色の小花が多数集まった総状花序を形成する。花弁は約3 mm、萼片は早く落下。球形の液果は黒熟。花期は5~6月。葉形がユキノシタ科のショウマに似ているのでこの和名がついたという。

**分布:** 日本全土。国外では朝鮮半島、中国、ウスリーの冷温帯。県内ではいなべ市、菰野町、津市美杉町および台高山脈に分布する。

**現況・減少要因:** 山地の薄暗い木陰に生育するが、個体数は少ない。森林の伐採により生育環境や植生の変化により減少したものと思われる。

**保護対策:** 自然林に近い落葉広葉樹林やその周辺での人為圧、即ち森林の伐採や土地の改変などを抑止することにより、生育地の保全に努める必要がある。

**文献:** 3, 57.



(葛山博次)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## フクジュソウ (エダウチフクジュソウ)

*Adnis ramosa* Franch.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

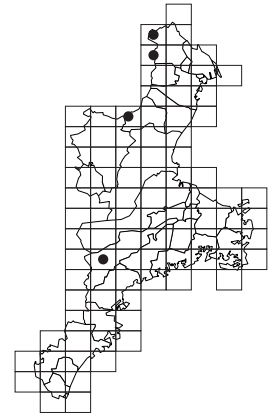
**選定理由:** 既知の生育地点は5以下である。開発圧を強く受けている。

**種の概要:** 茎は高さ10~30 cm。しばしば2~3個の花をつけ、萼片は花弁とほぼ等長で托葉があり、花托が有毛で、葉の下面が有毛である点が、他のフクジュソウ属とは異なる。

**分布:** 日本固有種で、北海道と本州に分布する。県内では鈴鹿山系北部(いなべ市)と伊賀市に分布する。大台町にも情報はあがるが、どこの博物館にも標本がなく、現状不明である。

**現況・減少要因:** 個体数は多いが、藤原鉱山の石灰採掘により生育地は激減する。また、登山道の周辺の崩壊が甚だしく、さらに近年の豪雨により土石の流出などの影響で、生育地は著しく破壊されて衰頹している。

**保護対策:** 環境アセスメントも通って開発を抑止することは不可能なので、何千株以上もの消滅するフクジュソウを学校などに移植して、有効に役立てるべきである。土砂に埋もれたり流されたりしないよう登山道を整備して管理しないとイケない。



(山脇和也)

## キクザキイチゲ

*Anemone pseudoaltaica* H.Hara var. *pseudoaltaica*

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数少なく、採取圧を強く受けている。

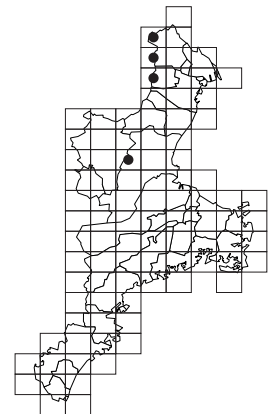
**種の概要:** 多年草。根茎は細長く2~10 cm、根生葉は1枚、2回3出複葉で、裂片はさらに深く裂ける。花茎は10~30 cm、総苞葉は3枚が輪生し、3出複葉で小葉は羽状に深裂する。3~5月頃、径2.5~3 cmの淡紫色または白色の花を1個花茎に頂生する。

**分布:** 日本固有種。北海道、本州の冷温帯。県内ではいなべ市、菰野町、伊賀市に分布。

**現況・減少要因:** 環境変化圧、とくに土石の流出は生育地を奪い、さらに生育地で生長するヒノキ、シロダモなどの上層木は繁茂して日射をさえぎり生育条件を悪化させる。また、採取圧は後をたたない。

**保護対策:** 上層木の植被の増大や土石の流出などの環境変化を軽減する措置を講ずることが肝要である。また、踏みつけや採取などの人為圧に対する保全策が急務である。分布情報の公表については慎重な配慮が必要である。

**文献:** 34, 45, 51, 69, 76.



(葛山博次)

## アズマイチゲ

*Anemone raddeana* Regel

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数少なく、採取圧を強く受けている。

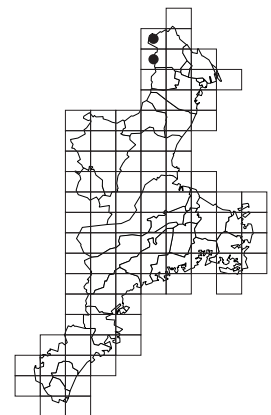
**種の概要:** 近似種キクザキイチゲとの区別点は、植物体はやや白っぽく、総苞葉の小葉は深く切れ込まず、柄の基部は広がらない。葯はやや長く1 mm、花は白色、ときに微紫色。花期は3~5月である。

**分布:** 日本全土。国外では朝鮮半島、樺太、アムール、ウスリーの冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部(いなべ市)に分布する。

**現況・減少要因:** 環境変化圧、とくに土石の流失は生育地を奪い、さらに上層木ヒノキ林の拡大と生長は日射をさえぎり、生育条件を悪化させる。また、採取圧にも脅かされている。

**保護対策:** 上層木の繁茂による遮光などの環境変化圧を排除することが肝要であり、また、踏みつけや採取などの人為圧を厳しく取締まる必要がある。分布情報の公表については慎重な配慮が必要である。

**文献:** 34, 45.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### キケンショウマ (オオバショウマ含む)

*Cimicifuga japonica* (Thunb.) Spreng. var. *peltata* (Makino) H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
旧県: —

環境省: —  
近畿: —

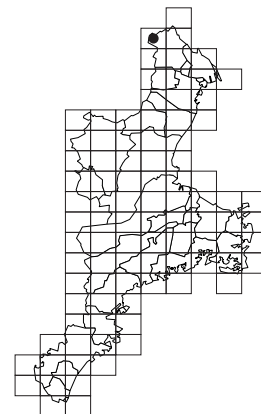
**選定理由:** 既知の生育地点数は1. 個体数は従来から少ないが, ニホンジカの食害で加速的に減少傾向にある.

**種の概要:** 山地の半日陰に生える多年草. 太い根茎と長い根を持つ. 茎は1 m以上に達し, 上部は分枝して苞葉がある. 根出葉は1回3出葉, 小葉は大きく10~30 cm, 5~9裂し, 鋸歯がある. 花は白色, 8~9月にイヌショウマに似た小さな花を穂状花序につける. キケンショウマはオオバショウマに類似するが葉柄が楕状に着く点異なる.

**分布:** 日本固有種. 滋賀, 三重, 岐阜, 長野県に分布 (オオバショウマは全国的に分布し, 国外にも生育の可能性ある). 県内ではいなべ市で記録がある.

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町の山地に生育している. キケンショウマとオオバショウマが混生する. 近年被害が増えた集中豪雨による斜面崩壊やニホンジカの食害が驚異となっている.

**保護対策:** ニホンジカの頭数管理と自然災害に対する適切な対策が急務である.



(市川正人)

### シギンカラマツ

*Thalictrum actaeifolium* Siebold et Zucc. var. *actaeifolium*

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —  
近畿: 準 (NT)

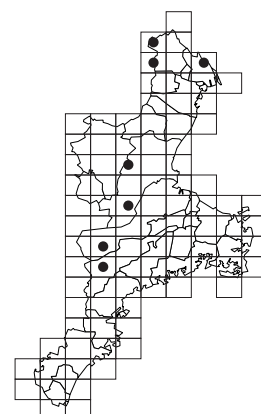
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数は50未満である.

**種の概要:** 山地に生える30~70 cm, 全体無毛の多年草. 斜上する茎はまばらに分枝し, 狭い托葉がある. 茎葉は数個, 2, 3回3出複葉で小托葉はない. 小葉は2~6 cm, 卵形から卵円形で基部はほぼ円形, 先は不揃いで大きな鈍鋸歯がある. 裏面は灰白色である. 7~10月に複散房花序に白い花をつける. 萼片は早落する. 果実は2~5個, 3 mmの卵形で無柄, 1 mmの宿存する花柱と曲がった柱頭があり, 10稜がある.

**分布:** 日本固有種. 関東地方以西, 四国, 九州に分布. 県内ではいなべ市藤原町・北勢町, 桑名市多度町, 津市一志町, 松阪市飯高町, 大台町, 伊賀市で記録されている.

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町1, いなべ市北勢町2, 桑名市多度町1, 大台町2, 伊賀市1か所でみられる. 土砂崩壊や遷移が減少要因となっている.

**保護対策:** 植生遷移の進行を止め, 現在の環境を維持する.



(市川正人)

### ミヤマカラマツ

*Thalictrum tuberiferum* Maxim. var. *tuberiferum*

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —  
近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各地点とも個体数は少ない.

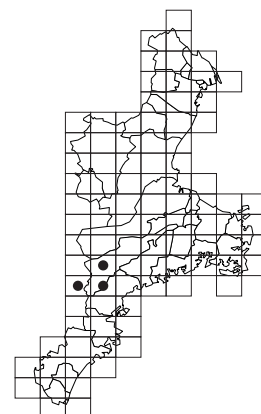
**種の概要:** 多年草. 高さ20~70 cm. かさ状に広がった花序をつけ, 花は白色, 花糸は上方が著しく肥大し葯より巾広い. 小葉の基部に小托葉が発達せず, 小葉は長めで質が薄い. 果実にひれがない. 花期は5~8月である.

**分布:** 日本全土. 国外では朝鮮半島, 中国, 南千島の冷温帯. 県内では大台町の大杉谷, 大和谷, 嘉茂助谷, 大台ヶ原に分布する.

**現況・減少要因:** 山地の樹陰に生育する多年草であるが, 生育地の植生遷移や森林の皆伐により絶滅したところもある.

**保護対策:** 保護にあたっては生育地の森林の皆伐を停止し, 生育環境を維持する必要がある.

**文献:** 57.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## オオバメギ

*Berberis tschonoskyana* Regel

被子植物 [双子葉・離弁花] メギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

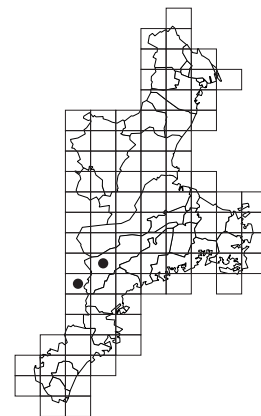
**選定理由:** 既知の生育地点数は2. 個体数は点在し, きわめて少ない.

**種の概要:** 高さ2 mほどになる落葉低木. メギに似ているが, それに比べて枝は少なく, 棘はほとんど無く, あっても短い. 葉は全縁で薄く, 長さ3~8 cm, 幅1~2 cmの倒卵形から長楕円形で無毛, 裏面は帯白色である. やや長く垂れ下がる総状花序で, 黄緑色の3~8花を5~6月に咲かせる.

**分布:** 日本固有種. 関東以西の本州, 四国, 九州に分布. 県内では大台町で記録がある.

**現況・減少要因:** 大台町の大台ヶ原, 大杉谷に記録されているが, 少なくとも大台ヶ原では生育を確認している. 大きい個体ではないが, 現在の環境が維持されれば持続可能である.

**保護対策:** 現在の環境を保つことである.



(市川正人)

## ルイヨウボタン

*Caulophyllum robustum* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] メギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿:

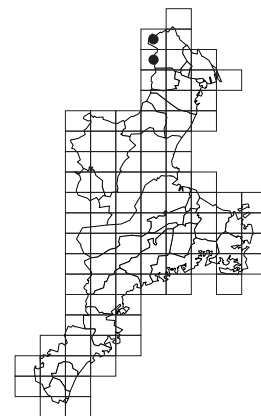
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各生育地の個体数はおよそ250未満しかない.

**種の概要:** 温帯の落葉広葉樹林下に生える多年草. 高さ40~70 cm. 茎葉は2~3回3出の複葉, 第1回小葉柄が長い. 花は緑黄色, 径8~10 mm, 10個内外が集散状につき, 4~6月に咲く.

**分布:** 国内では北海道, 本州, 四国, 九州. 国外では朝鮮半島, 樺太, ウスリー, 中国に分布. 県内ではいなべ市藤原岳, 御池岳周辺からの記録がある.

**現況・減少要因:** 県内では北勢地域に偏って分布している. 落葉広葉樹林の林床にみられるが, 個体数は少ない.

**保護対策:** 生育地の森林を広い範囲で保全することが必要.



(山本和彦)

## ヒメコウホネ

*Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] スイレン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧IA類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10未満. 生育地は休耕地の池, 溝, 湿地等であるため, 干拓などにより消失することが多い.

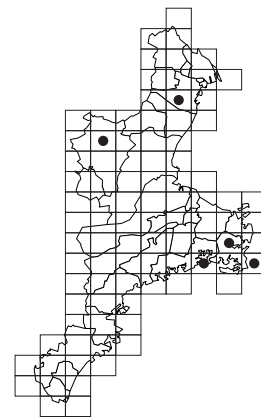
**種の概要:** 抽水葉は広卵形, 長さ6~10 cm, 幅5~8 cm, 裏面葉脈上は有毛. 花は黄色, 径3~4 cm, 花期は6~9月.

**分布:** 国内では本州, 四国, 九州. 県内では四日市市, 伊賀市, 志摩市数か所, 南伊勢町で記録がある.

**現況・減少要因:** 水質汚濁や河川, 池沼の開発が減少の主要因とされている. 一方, 生育地に人手が入らなくなったことにより衰退現象を起こしていることも考えられる. 生育地情報の増加により, 今回VUにランク変更となった.

**保護対策:** 生育地の保全とともに, 隔年おきくらいに生育地を攪拌することも大切である.

**特記事項:** 志摩市阿児町の生育地は市天然記念物.



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ヤマシャクヤク

*Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

被子植物 [双子葉・離弁花] ボタン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、個体数は各地とも50未満である。

**種の概要:** 茎は高さ40~50 cm, 茎上に大きな葉が3~4枚つき, 2回3出複葉で9小葉からなる。下面は無毛で白い。花は4~6月, 白色で茎頂に1個つく, 柱頭は黒紫色で先はゆるく外曲する。

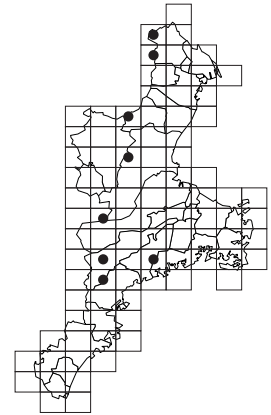
**分布:** 日本固有種。国内では本州, 四国, 九州の冷温帯。県内ではいなべ市, 亀山市, 津市美杉町, 伊賀市, 大紀町, 大台町に分布する。

**現況・減少要因:** 環境変化圧, とくに植生遷移の進行により, 生育が制限されたり, 採取圧を受けて減少している。

**保護対策:** 生育地の草刈りや上層木の間伐, 枝打ちなどの管理や, 採取圧を排除する方を講ずる必要がある。

**特記事項:** 葉裏は通常無毛であるが, ときに毛のある個体があり, ケヤマシャクヤクと呼んでいる。本変種も含む。

**文献:** 34. 45. 51. 57. 69. 139.



(葛山博次)

## イシモチソウ

*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は50以下であり, 各地の個体数は100未満である。

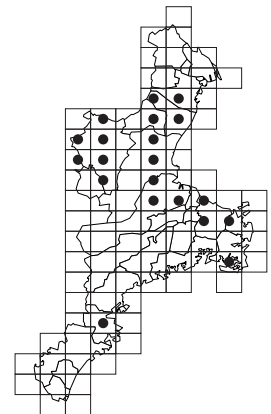
**種の概要:** 多年草。茎の高さ10~25 cm, 茎に半月形の葉を互生, 葉面には腺毛を密生。花は白色の5弁花で径1 cmほど, 花期は5~6月。和名は葉の腺毛に小石がつくからだと言われている。

**分布:** 国内では本州 (関東地方以西), 四国, 九州, 沖縄, 国外では台湾, 中国, 朝鮮半島の暖温帯。県内では北勢, 中勢, 伊賀, 南勢, 紀州の各地域に点在する。

**現況・減少要因:** 生育地は丘陵地の湿地やその周辺のやせ地であるが, 耕地整理, 溜池改修, 土地開発, 踏みつけなどにより, 消失または生育域がせばめられている。また園芸採取もみられる。

**保護対策:** 開発圧, 踏みつけ, 採取圧などへの対策を講じるとともに生育地である日当たりのよい貧栄養で酸性の湿地の保全に努める必要がある。

**文献:** 34. 43. 69. 92.



(葛山博次)

## コモウセンゴケ

*Drosera spathulata* Labill.

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

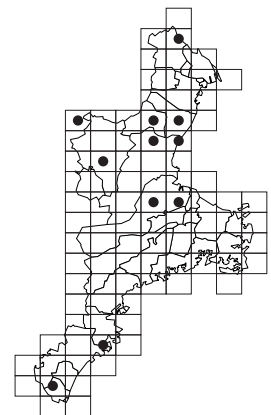
**選定理由:** 既知の生育地点数はおおよそ15であるが, 生育地が開発圧力の強い湿地や遷移の進行が心配される草地である。

**種の概要:** 日当たりのよい湿地や土手に生育する多年草。葉には多くの腺毛があり虫を捕える。葉柄は幅広く葉の部分との境が不明瞭。花期は夏で, 根生葉の中心からのびた花茎に淡紅色の花を順々に咲かせる。

**分布:** 国外では中国, 東南アジア, オーストラリア。国内では本州 (宮城県以南) から九州。県内では桑名市, 亀山市, 鈴鹿市, 伊賀市, 津市, 松阪市, 明和町, 熊野市, 紀宝町で生育の記録がある。

**現況・減少要因:** 県内各地で生育しているが, 湿地の開発や遷移の進行で減少傾向にある。

**保護対策:** 湿地の開発は慎重に行う。状況に応じて生育地の草刈りをする必要もある。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヤマキケマン

*Corydalis ophiocarpa* Hook.f. et Thomson

被子植物 [双子葉・離弁花] ケシ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

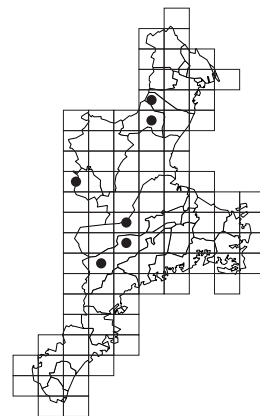
**選定理由:** 既知の生育地点数は5程度で、各地点50未満の個体数しかなく、減少すると絶滅につながるおそれがある。

**種の概要:** 山中の半日陰の岩上に生育する多年草。茎は高さ40~80 cmになり5~7月頃緑黄色の花をつける。蒴果が著しく屈曲することが類似種との良い区別点となる。

**分布:** 台湾, 中国, インド北部。国内では本州 (関東以西), 四国。県内では亀山市, 津市, 名張市, 大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** 個体数が少なく、環境の変化 (生育地の植生遷移等) で絶滅するおそれがある。

**保護対策:** 少なくとも現在生育の知られている市町の関係者は、現況を把握し、さらなる生育地の有無についても調査する必要がある。



(加田勝敏)

## ギンバイソウ

*Deinanthe bifida* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:アジサイ科)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿: A (CR)

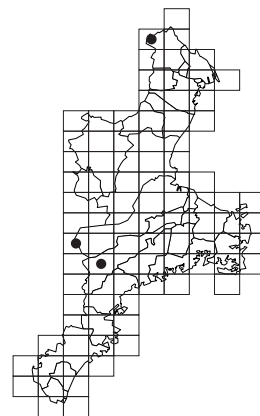
**選定理由:** 既知の生育地点数は3。各地点の個体数は50未満。ニホンジカによる食害が激甚である。

**種の概要:** 山地の半日陰に生える多年草。茎は高さ40~70 cm。葉は対生し、葉身は長さ10~20 cm、幅6~15 cmで粗い毛があり、葉柄に流れる。下部の葉先は普通2裂する。花は白色で、装飾花と両性花を散房状につける。

**分布:** 日本固有種。関東以西の本州, 四国, 九州に分布。県内ではいなべ市, 飯高町, 大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町1, 飯高町1で生育を確認したが、ニホンジカの食害で激滅している。減少要因は土壌崩壊とニホンジカの食害である。

**保護対策:** ニホンジカの頭数管理対策が急務である。



(市川正人)

## タコノアシ

*Penthorum chinense* Pursh

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:タコノアシ科)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

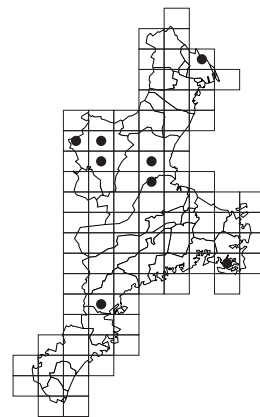
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。河川敷ほか生育地の環境が不安定であるうえ、確認されている個体数が少ない。

**種の概要:** 浅い沼沢, 河川敷などの水湿地に生える多年草。茎は淡紅色を帯び、高さ30~80 cm。走出枝を出して繁殖する。花期は8~10月。花序はつぼみ時に渦巻状に外反するが、開花とともに順次斜開する。成熟した花序の姿がゆでダコの足に似ていることから、この和名がある。

**分布:** 国内では本州, 四国, 九州, 奄美大島。国外では朝鮮半島, 中国, 東南アジアに分布。県内では、桑名市, 津市, 伊賀市, 志摩市, 紀北町で生育が知られている。

**現況・減少要因:** 河川敷, 放棄水田, 溜池畔ほか水湿地に生えるので、河川や溜池の改修工事, 植生遷移の進行などによって個体数が減少している。

**保護対策:** 河川や溜池の改修の際、植生に関する現況調査等で、本種の生育が確認された場合には、保全に配慮する努力が行われている。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヤシャビシヤク

*Ribes ambiguum* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:スグリ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

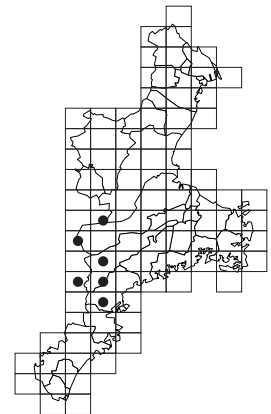
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 各生育地の個体数は50未満である.

**種の概要:** ブナなどの落葉広葉樹の老木に着生する落葉小低木. 葉は洋皮質で, 掌状に浅く切れ込み, 両面に短毛がある. 花期は4~5月で, 短い枝の先に淡緑白の花を1~2個ずつつける.

**分布:** 国内では四国, 九州に広く分布. 国外では中国大陸西部にも分布. 県内では津市美杉町や台高山地(松阪市, 大台町, 尾鷲市)などのブナ帯に分布.

**現況・減少要因:** もともと個体数は多くなく, 森林の伐採や開発による生育環境の減少, 盆栽用の乱獲などにより減少傾向にある.

**保護対策:** ブナ林を保護する必要がある.



(山脇和也)

### ヤブサンザシ

*Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:スグリ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

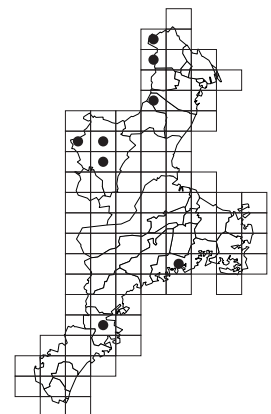
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 各生育地の個体数は50未満である.

**種の概要:** 高さ1 mぐらいになる落葉低木. 葉は掌状に浅く3裂する. 雌雄異株で, 花序は2~9花からなり, 花は東生する. 花期は4~5月. 液果は球形で径7~8 mm, 無毛で赤く熟す. 中間温帯域の山野にまれにみられる.

**分布:** 国内では本州, 四国, 九州. 国外では朝鮮半島, 中国に分布. 県内では北勢, 伊賀, 南伊勢, 紀州地域など点々と分布する.

**現況・減少要因:** 山の崩落, 開発による減少の可能性がある.

**保護対策:** 開発時は十分調査をして気をつける.



(山脇和也)

### クロクモソウ

*Saxifraga fusca* Maxim. subsp. *kikubuki* (Ohwi) Kitam.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点は1. 1974年の文献情報しかなく, 現在も生育するか不明であったが, 2007年に生育が確認された. 個体数は不明だが, 多くはないと思われる.

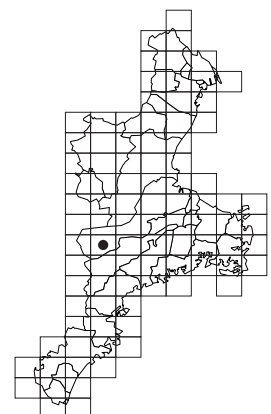
**種の概要:** 深山の溪流沿いの岩上に生える多年草. 地下茎は短くはう. 葉は2~15 cmの葉柄があり, 腎円形で径2~8 cm, 両面はほとんど無毛. 花茎は高さ10~30 cm, 7~8月に径5~8 mmの暗紫褐色の花をつける.

**分布:** 日本固有種. 近畿地方以北の本州, 四国, 九州に分布. 県内では松阪市から記録されている.

**現況・減少要因:** 溪流沿いの岩壁に生育するため, ニホンジカの食害からは免れているが, 好事家による盗採等の影響が懸念される.

**保護対策:** 森林伐採の規制.

**文献:** 48. 50.



(山本和彦)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

## ヒメヘビイチゴ

*Potentilla centigrana* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：

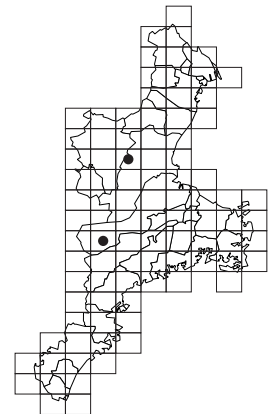
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であるが、林道脇や歩道近くの植生がややまばらな所に生える植物であるので、新たな生育地が見つかる可能性が高い。

**種の概要：** 茎は地表を匍匐し、節々から根を出す。6～8月頃、径7 mm前後の黄色の5弁花をつける。

**分布：** 朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では北海道から九州。県内では松阪市、伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因：** 著しく軟弱で、地表付近にあるため踏みつけられやすく、また花も微小で目立たない。そのため、他の種子植物が注目されても、全く無視されてしまい、減少し始めるとその速度は速い。また、生育環境に重機などが入ればすぐに消失してしまう可能性が高い。

**保護対策：** 各市町の企画、土木建築、商工水産、教育委員会等々が連絡、協議を密にして、土地改変に関わる事業に対しては慎重に行うべきである。また、現在生育地が知られていない地域でも精査すれば生育が確認される可能性があるため、常日頃から情報を集める努力が必要である。



(加田勝敏)

## カワラサイコ

*Potentilla chinensis* Ser.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：A (CR)

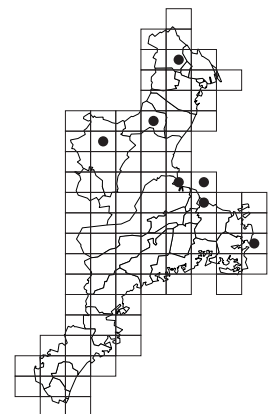
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。河川敷改修や河口部の開発により減少が著しい。

**種の概要：** 日当たりのよい川原や砂地に生育する多年草。葉は15～29個の小葉からなる奇数羽状複葉で裏面には白い綿毛が密生する。花期は6～8月で径1～1.5 cmの黄色の花をつける。

**分布：** 国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布。県内では桑名市多度町、亀山市関町、伊賀市、松阪市、明和町、鳥羽市で記録がある。

**現況・減少要因：** 北勢、中勢、南勢、伊賀地域の河原や河口などの砂地で確認されている。とくに、北勢、中勢地域の河口は改修や開発等によって大きな減少または消滅の危機にさらされている。

**保護対策：** 開発を避け、自生地の保護・保全が必要である。



(山脇和也)

## ビロードイチゴ

*Rubus corchorifolius* L.f.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：

環境省：

近畿：

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数も5未満である。

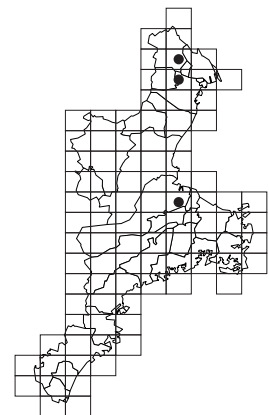
**種の概要：** 落葉低木。茎は傾斜し、絨毛を密生、鉤枝がある。葉は長卵形で長さ3～10 cm、裏面の脈上に密毛がある。花は4～5月。花枝の葉は卵形で先がとがり分裂しない。絨毛を密生、花弁は白色、倒卵状へら形長さ10 mm。果実は球形で径約10 mm、黄紅色に熟す。

**分布：** 国内では、本州(静岡県東部以西)、四国、九州。県内では、いなべ市、菟野町、多気町に分布する。

**現況・減少要因：** 本種は暖温帯の山地の路傍や荒地に生える。全体に棘が密生し、山道の草刈りや道路改修の際に根こそぎ除去される可能性がある。そうしたことから、生育地の一部はすでに確認できない現況にある。

**保護対策：** 生育地について、周辺の住民にも周知し、保護のための方策を講ずる必要がある。

**特記事項：** 前年枝に開出した短毛を密生する特徴は他種には見られない。



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



### ミヤマニガイチゴ

*Rubus subcrataegifolius* (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

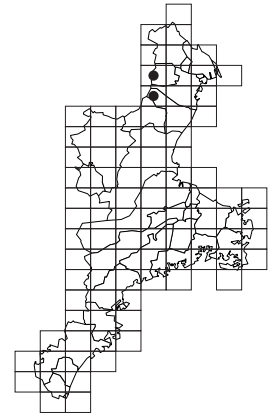
**選定理由：** 既知の生育地点数は3. 総個体数は約250.

**種の概要：** 日当たりの良い林縁の砂礫地などに生える高さ1 mほどになる落葉低木. 茎や枝には毛が無く, 棘はまばらにある. 葉柄は3~8 cm, 葉身は4~10 cmで, 通常3裂して鋸歯がある. 中央裂片は大きく長く尖る. 裏面は粉白色を帯び, 葉柄とともに葉脈には小さな棘がある. 花は径2~2.5 cmで5~6月に1~3個を本年枝につける. 果実は8~9月に赤熟する.

**分布：** 日本固有種. 近畿以北の本州に分布. 県内では菰野町, 亀山市で記録がある.

**現況・減少要因：** 菰野町3, 亀山市1か所のいずれも山地上部に生育している. 生育環境は比較的安定しているが, ニホンジカの食害が減少要因となる.

**保護対策：** ニホンジカの頭数管理を必要と考える.



(市川正人)

### ハチジョウイチゴ

*Rubus ribisoideus* Matsum.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

**選定理由：** 既知の生育地点数は3. 総個体数は少ない.

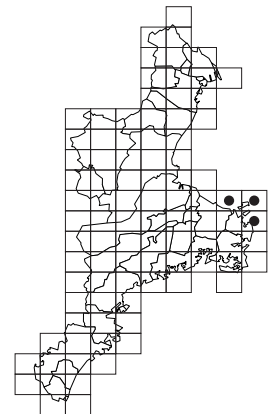
**種の概要：** 海岸近くの林縁に生える高さ1~1.5 mになる落葉低木. 通常, 棘はない. 本年枝には毛が密生する. 葉身は長さ5~7 cmで3~5裂し, 不揃いな鋸歯がある. 葉柄は2~5 cm. 花は葉腋に1~3個着き, 径3~4 cmで下向きに咲く. 花期は2~4月, 果実は6月に橙黄色に熟す.

**分布：** 国内では本州の伊豆諸島以西の島嶼や半島部, 四国, 九州の海岸部に分布. 県内では鳥羽市や紀北町の島嶼で記録がある.

**現況・減少要因：** 少なくとも鳥羽市の答志島と神島では現存している. 護岸工事など海岸開発が減少要因となる.

**保護対策：** 必要以上の海岸開発を慎むことである. 開発時には十分な環境影響評価をするとともに移植を計画することである.

**特記事項：** 雑種も含めて類似のイチゴ類が多く, 正確な同定が必要である.



(市川正人)

### ナガボノワレモコウ (コバナノワレモコウ, ナガボノアカワレモコウ含む)

*Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

近畿：A (CR)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下で250程度の個体数しかない.

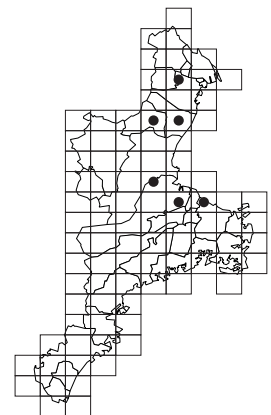
**種の概要：** 8~10月頃, 高さ80~130 cmの茎の上部を分枝させて, 白, 赤の円筒形の花序をつける. ワレモコウより花穂が長い.

**分布：** 東シベリア, 中国, 朝鮮半島, 千島, 樺太, カムチャッカ. 国内では北海道, 本州, 九州. 県内ではいなべ市, 四日市市, 鈴鹿市, 松阪市, 明和町, 伊勢市から記録されている.

**現況・減少要因：** どの地点でも乾燥化, 陸地化, 富栄養化が急速に進み, セイタカアワダチソウ, ヨシ等の高茎草本が占有する部分が拡大して, 近い将来消滅する危険性がある.

**保護対策：** 一部の地域は国の天然記念物に指定されているので, 水環境, 富栄養化についての対策はなされているが, 周辺部が乾田化されて水分が外へ吸い込まれる状況はいかんともし難い.

**特記事項：** 種内を細分化すると, ナガボノアカワレモコウ (var. *purpurea*), ナガボノシロワレモコウ (var. *alba*), コバナノワレモコウ (var. *parviflora*) 等に分類されるが, ここではすべてをふくめて標記の学名, 和名にした.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イブキシモツケ

*Spiraea dashyantha* Bunge

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

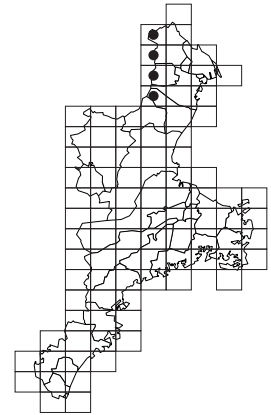
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 山地の日当たりの良い岩礫地に生える高さ1~1.5 mの落葉低木である。若枝は黄褐色で短毛を密生し稜はない。古くなると灰黒紫色となり縦裂してはがれる。葉身は3~5 cmの卵形から菱形状長楕円形、基部を除いて単鋸歯または重鋸歯があり、上部はしばしば3浅裂する。裏面には白・黄褐色の軟毛が生え葉脈は隆起する。葉柄は5~15 mmで軟毛を持つ。4~6月頃枝先に散房花序をつくり多数の白色花をつける。7~8月に褐色の袋果となる。

**分布:** 国内では近畿地方以西、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内ではいなべ市藤原町・北勢町、菰野町、鈴鹿市、亀山市の石灰岩地に多く記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町2、いなべ市北勢町1か所でみられる。石灰岩地に生育しており、採石が減少要因となっている。

**保護対策:** 将来的には、藤原岳一帯の採石を中止することである。採石だけではなく、採石にともなう不用砂礫の谷への流出による森林破壊など、生態系への影響はきわめて大きい。



(市川正人)

## ビワコエビラフジ

*Vicia venosa* (Willd. ex Link) Maxim. subsp. *stolonifera*  
(Y.Endo et H.Ohashi) Y.Endo et H.Ohashi

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は10未満である。

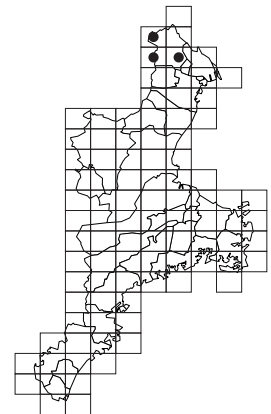
**種の概要:** 多年生草本。長い地下茎で栄養繁殖する。茎は数本叢生、分枝せず高さ50~80 cm。葉は互生し、葉身は偶数または奇数羽状複葉。先端の巻きひげは痕跡的。花は6~8月、花序は総状で葉腋につく、花はひとつの花序に3~15個、紅紫色、15 mm内外の蝶形花。

**分布:** 日本固有種。本州(岐阜、三重、愛知、滋賀、京都の各府県)の暖温帯上部から冷温帯下部。県内では鈴鹿山脈の北部(いなべ市)に分布。

**現況・減少要因:** 生育地の植生は、遷移の進行により、上層木が繁茂し、生存には脅威となっている。また、林道の拡幅などにより削りとられたり、入山者の踏みつけなどが減少の要因と考えられている。

**特記事項:** 種としては、本州、四国、九州に分布し、いくつかの地理的な変種に分類されている。

**文献:** 9, 40.



(葛山博次)

## ヒメフウロ

*Geranium robertianum* L.

被子植物 [双子葉・離弁花] フウロソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

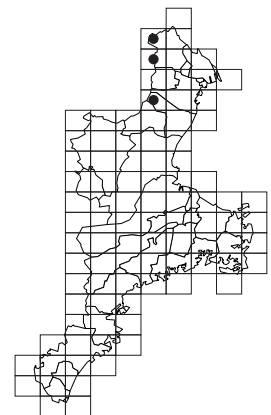
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。採取圧もある。

**種の概要:** 石灰岩地に生える一年草または越年草。全体に腺質の開出毛があって粘つき、悪臭がある。茎はよく分枝して高さ20~60 cm。花は淡紅色で直径約1.5 cm。花期は5~8月。

**分布:** 国内では本州(滋賀県、岐阜県、三重県)および四国(剣山)の石灰岩地に限られているが、国外では北半球の温帯に広く分布し、草地にも林地にも生育する。県内では鈴鹿山系に分布。

**現況・減少要因:** 鈴鹿山系藤原岳一帯と入道ヶ岳の石灰岩地帯に生育している。土砂崩れや園芸採取による減少の可能性がある。

**保護対策:** 石灰岩地の群落のある場所の開発を避ける対策が必要である。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ミツバフウロ

*Geranium wilfordii* Maxim. var. *wilfordii*

被子植物 [双子葉・離弁花] フウロソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地点の個体数は10未満である。

**種の概要:** 茎は高さ40~80 cm, 葉は茎の下部のものを除いて3深裂し、裂片は卵形で鋭頭。植物体に腺毛はなく、多くは開出毛がない。花弁は淡紅色で濃色の脈がある。花期は7~10月。

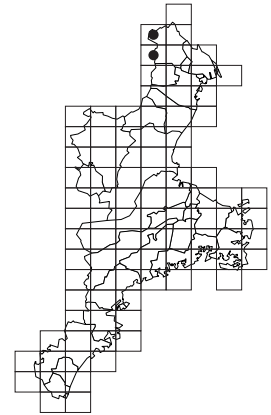
**分布:** 日本全土。国外では朝鮮半島、中国、アムール暖温帯から冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地は山地の林内や林縁で、林道・登山道の改修や採取などの人為圧を容易に受け、個体数は減少している。

**保護対策:** 土地の改変、改修工事などの際の人為圧の排除に努めるとともに、採取圧から保全することが必要である。また、生育地の森林の間伐など、適切な管理により存続を可能にすることも大切である。

**特記事項:** 別名、フシダカフウロ。上部の葉が3深裂するが3小葉にわかれることはない。

文献: 34, 45.



(葛山博次)

## ノウルシ

*Euphorbia adenochlora* C.Morren. et Decne

被子植物 [双子葉・離弁花] トウダイグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

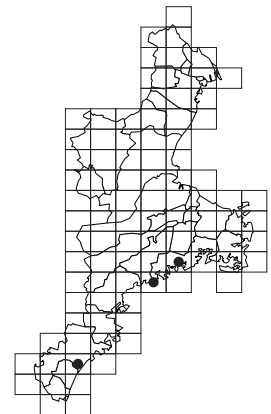
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数はおよそ1,000未満である。

**種の概要:** 湿った草地に群生する多年草。茎は太く高さ40~60 cm。葉は長さ4~9 cm, 全縁。輪生葉は互生葉より短い。花は4~5月, 総苞卵円形で黄色。蒴果は径6mm, いぼ状の突起がある。

**分布:** 国内では北海道から九州に広く分布。県内では南伊勢町, 大紀町, 熊野市, 御浜町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 本種は、河川敷等の氾濫原を分布の本拠地とするが、県内ではおもに海跡湖周辺や海岸近くの湿地にみられ、特異な分布を示している。

**保護対策:** 自生地周辺の湿地は、本種以外にもいくつかの希少種が生育し、三重県の海岸部を代表する貴重な自然となっている。これらの植物群が分布する海岸部の開発は避けるべきである。



(山本和彦)

## ヒナノカンザシ

*Salomonina ciliata* (L.) DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] ヒメハギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: B (EN)

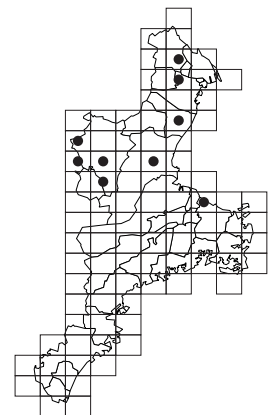
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は1,000未満である。

**種の概要:** 日当たりの良い溜池周辺や湿地に生える一年草。茎は直立して細く、ときに分枝し、高さ6~25 cmで無毛である。葉は長さ3~14 mmで長楕円形から広卵形、先は尖る。8~9月頃細長い穂状花序を作り、淡紫色、1~2 mmの花をつける。萼片は5個で花弁より短く、2個はやや大きい。花弁は3個である。

**分布:** 国内では本州から九州。国外ではアジア東部から南部、豪州に分布。県内ではいなべ市大安町, 鈴鹿市, 津市, 伊賀市, 名張市, 明和町などで記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市大安町1, 鈴鹿市1, 伊賀市5, 名張市1, 明和町1か所のみられる。湖沼開発にともなう湿地の消失が減少要因となる。

**保護対策:** 湿地環境の維持管理が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## テツカエデ

*Acer nipponicum* H.Hara subsp. *nipponicum* var. *nipponicum*

被子植物 [双子葉・離弁花] カエデ科(APGⅢ: ムクロジ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

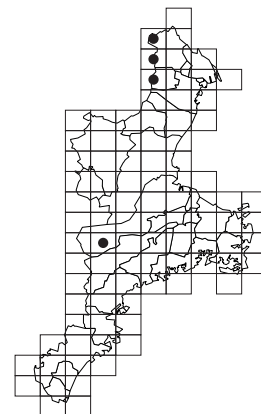
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数が比較的少ない。

**種の概要:** 温帯山地の沢沿いから中腹にかけてみられる落葉高木。樹皮は暗褐色から灰色、老木では浅く縦割れする。枝には初め褐色軟毛が密生するが後に無毛となる。葉は対生し、長さ10~15 cm、幅10~20 cmで浅く5裂し、基部は心形で裂片には重鋸歯がある。雌雄同株で1花序に雄花と両性花が混生するか、ときに雄性異株や両性花だけの株もある。6~7月に多数の淡黄色の花を円柱状花序につける。8~10月、ほぼ直角に開く翼果をつける。

**分布:** 秋田・岩手県以南、四国、九州に分布。日本固有種。県内ではいなべ市藤原町、菰野町、松阪市飯高町で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町1、菰野町1、松阪市飯高町1か所のみみられる。比較的安定した二次林に生育しているが造林伐採が減少要因となっている。

**保護対策:** 自生地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

## ハガクレツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ツリフネソウ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

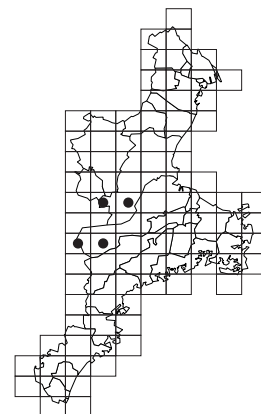
**選定理由:** 既知の生育地点数が10以下であり、生育地が中勢の山間地に限られている。

**種の概要:** 山地の沢や湿った林下に生育する軟弱な一年草。草丈は30~80 cmになる。7~10月に葉腋から花柄をのぼし淡紅紫色の花をつり下げる。

**分布:** 国内では本州(三重県、紀伊半島)、四国、九州。県内では伊賀市、津市、松阪市で記録がある。

**現況・減少要因:** 津市美杉町や松阪市飯高町など中勢地域の山間地の湿った林床には今も生育している。しかし、森林伐採、林道敷設、開発、遷移の進行などで減少傾向にある。

**保護対策:** 森林伐採は計画的にすすめる。



(山路武夫)

## ホソバツルツゲ

*Ilex rugosa* F.Schmidt var. *stenophylla* (Koidz.) Sugim.

被子植物 [双子葉・離弁花] モチノキ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点は2。個体数は少ない、ニホンジカの食害による個体数の減少および消滅が危惧される。

**種の概要:** 地を這う常緑小低木。茎には全面に細点がある。葉は厚く、長さ2~3 cm、幅3~5 mm、縁に鈍鋸歯がある。雌雄異株、花は6~7月、葉腋に小さな白花をつける。ツルツゲの変種であるが、両者の差はそれほど明確ではない。

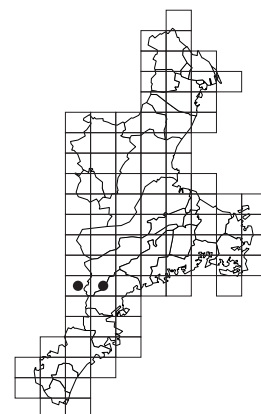
**分布:** 東北地方南部、中部地方中部および南部、紀伊半島、四国に分布。県内では大台ヶ原山に分布。

**現況・減少要因:** 大台ヶ原で確認された個体はいずれも花をつけた痕跡が認められなかった。ニホンジカの食害により衰弱傾向にあるのかもしれない。

**保護対策:** ニホンジカの食害への対策が必要。

**特記事項:** 本種は奈良県側の大台ヶ原および大峰山脈にも見られ、八経ヶ岳と大台ヶ原が基準標本産地となっている。

**文献:** 87. 100. 139.



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ツゲモチ

*Ilex goshiensis* Hayata

被子植物 [双子葉・離弁花] モチノキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地の個体数は50未満である。

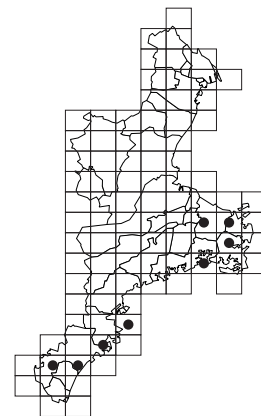
**種の概要:** 高さ6~10 mの常緑高木。若枝には微毛が密生する。葉質は角質, 楕円形または広楕円形, 長さ2~5 cm, 幅1.5~3 cm, 先は短くとがって先端は鈍く, 基部は鋭形で葉柄に流れ, 鋸歯はなく, 両面無毛。雌雄異株。白色で直径4~5 mmの小さな花を短枝に1~5個束生する。

**分布:** 国内では本州(紀伊半島), 四国, 九州, 沖縄。国外では台湾に分布。県内では伊勢市, 鳥羽市, 志摩市, 尾鷲市, 熊野市, 御浜町に分布する。

**現況・減少要因:** 各生育地の大部分は社寺林内であるため, 現況は比較的安定していると思われる。

**保護対策:** 個体数等の継続的な調査が必要である。伊勢市, 志摩市に生育するものは社寺林のため現状維持が望ましい。

**文献:** 42.



(中馬千鶴)

## ヒロハツリバナ

*Euonymus macropterus* Rupr.

被子植物 [双子葉・離弁花] ニシキギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

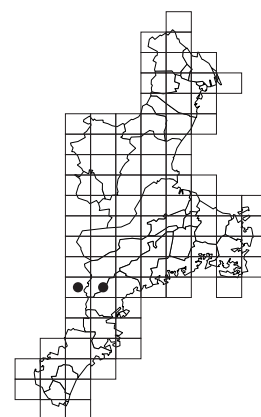
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育地が限られている。

**種の概要:** 樹高3~5 m, 胸高直径5~10 cmほどになる落葉の小高木。花は4数性で6~7月に開花し, 果実に長い翼がある。仮種皮は熟すと橙色となり, 4裂開する。

**分布:** 国外では朝鮮, 中国東北部, 東シベリア。国内では北海道・本州(東北・中部・近畿南部・鳥取県)・四国に分布。県内では大台町で記録がある。

**現況・減少要因:** 台高山地のブナなどが優占する落葉広葉樹林の構成要素である。開発による自然林の減少や, ニホンジカ等の野生獣による食害が個体数を減らす要因となっている。

**保護対策:** 生育地は国立公園域, 国定公園域に含まれ, ある程度保護されている。野生獣の食害が懸念される。



(後藤稔治)

## サイゴククロヅル

*Tripterygium regelii* Sprague et Takeda var. *occidentale* T.Yamaz

被子植物 [被子植物・離弁花] ニシキギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 県内では分布が限られ, 台高山系の温帯域に生育。林縁や開放地など, 陽地に散見される。

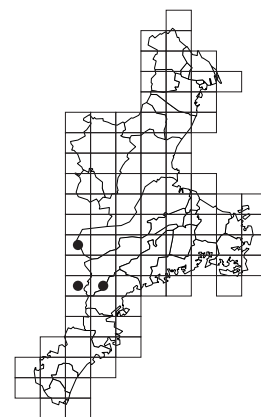
**種の概要:** 落葉つる性の木本。クロヅルには東日本と西日本で形が異なる傾向があることから, 東日本のものをクロヅルとし, 西日本のタイプをその変種としてサイゴククロヅルとされている。サイゴククロヅルはクロヅルに比べ葉の先が急に狭まり, 先端は細長く尖る。また果実が大きく長さ13~20 mmになる。台高山系に自生するものは, サイゴククロヅルの特徴に一致している。

**分布:** 紀伊半島, 中国地方, 四国, 九州, 朝鮮, 中国東北部に分布。県内では台高山脈の北部から南部一帯に分布。

**現況・減少要因:** 現況は安定しているが, 遷移の進行により消失する自生地も出現すると思われる。

**保護対策:** 現状の状態が維持できれば問題はないと思われる。

**文献:** 87, 133, 139.



(山本和彦)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ウドカズラ

*Ampelopsis cantoniensis* (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxim.) F.Y.Lu

被子植物 [双子葉・離弁花] ブドウ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：

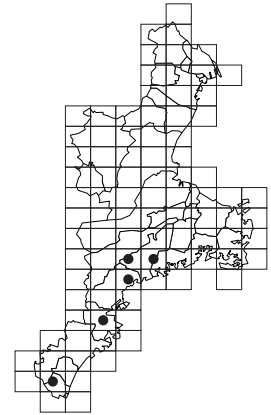
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要：** 暖地の山に生える大きなつる性落葉木本。葉は大きく3~多数の小葉からなり、小葉は長さ3~10 cm。葉に対生する長い巻きヒゲがあって先は2裂する。6~7月にヤブカラシのような花序がつき、多くの黄緑色の花をつける。果実は球形で、径7 mm、熟して赤くなり、後に黒くなる。

**分布：** 国内では本州（紀伊半島、山口県）、四国、九州。県内では大台町以南に分布。

**現況・減少要因：** 県南部に3か所ほど現存が確認されている。森林伐採や林道開設が減少要因となる。

**保護対策：** 生育状況の把握が必要である。



(山脇和也)

## ハマボウ

*Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・離弁花] アオイ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：A (CR)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以上であるが、生育地に対する開発圧が高い。

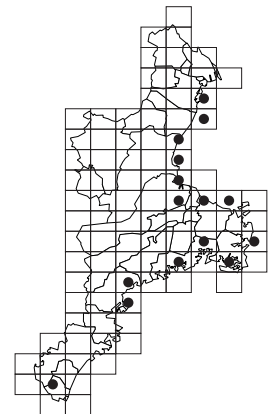
**種の概要：** 落葉性の低木または小高木。葉は互生し、葉身は円形から広卵形、長さ4~7 cm、幅3~6 cm、基部は円形または心形、葉質は厚く、近縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白質となる。花期は7~8月。花は淡黄色で中心部は暗赤色。直径約5 cm。果実は卵形で長さ約3 cm。褐色の毛が密生する。

**分布：** 国内では本州（関東南部から中国地方）、四国、九州、沖縄。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、紀宝町に分布する。

**現況・減少要因：** 河口や海岸の泥湿地に生育する。河川の改修などで絶滅したところもある。

**保護対策：** 河川改修の妨げになるという理由で天然記念物の指定を受けない場合が多いが、積極的な保護策が必要である。

**文献：** 146.



(中馬千鶴)

## エゾミソハギ

*Lythrum salicaria* L.

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省：

近畿：B (EN)

**選定理由：** 既知の生育地点数は1。生育地は安定しており現状が維持されれば絶滅の危険性は低い。今後の調査が進めば追加生育地が見つかる可能性もある。

**種の概要：** 高さ30~200 cmの直立する一年草。葉は無柄で対生から3輪生、基部は浅心形で茎を浅く抱く。茎には4または6稜がある。穂状花序は頂生し、多数の花をつける。萼片裂片は6個、裂片間の付属片は針状で直立する。花弁は紅紫色。

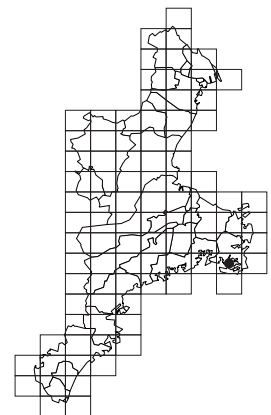
**分布：** 国内では北海道から九州。国外では千島、樺太、ユーラシア、アフリカ、北米（帰化）。冷温帯の湿原や水湿地に生育。県内では志摩市大王町のみから記録がある。

**現況・減少要因：** 近畿地方ではまれな湿生植物。県内での既知生育地では安定している。

**保護対策：** 自生地の開発を避けることで、保護は達成できると思われる。

**特記事項：** 同属のミソハギに近似しているが、茎、葉、花序、萼が多毛であること、葉の基部が心形で浅く茎を抱くことで区別される。

**文献：** 18.



(藤井伸二)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミズキカシグサ

*Rotala littorea* (Miq.) Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度。水田耕作の近代化と耕作放棄により生育環境が減少している。

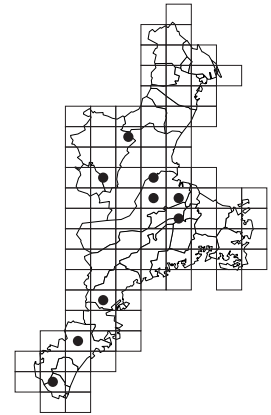
**種の概要:** 高さ5~30 cmの直立する一年草。葉は対生で無柄。披針形で先は鋭頭。蒴果は球形で径2 mm。果皮は薄く、表面に細かな横脈がある。

**分布:** 国内では本州から沖縄、国外では朝鮮半島。県内では名張市、伊賀市、松阪市、玉城町、尾鷲市、熊野市、紀宝町からの記録がある。暖温帯域の水田に生育。

**現況・減少要因:** まれな水田性雑草であり、過去の情報集積に乏しい。近年の調査によって、県内の各地から発見されている。除草剤の使用、農地の乾田化、耕作放棄による水田面積の減少等が生育への脅威と思われる。

**保護対策:** 水田環境に依存するため、具体的な保護策を提示することは困難。農閑期に溜水を維持して湿田状態を保つこと、除草剤使用を極力減らすことが重要。

**特記事項:** 稲刈りの早期化、除草剤の低残留性化や使用料の減少により、一部地域では復活、増加している可能性がある。本種の今後の動向には十分に注意を払うべき。



(藤井伸二)

### ホザキノフサモ

*Myriophyllum spicatum* L.

被子植物 [双子葉・離弁花] アリノトウグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。個体数は河川に生育している水草のため把握は困難であるが、多くはない。

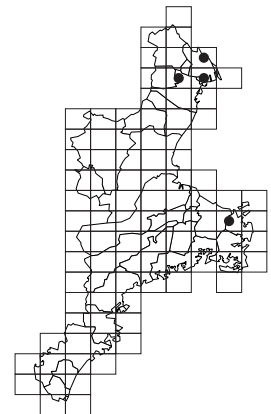
**種の概要:** 河川、水路、湖沼、溜池などに生育する沈水性常緑多年草。茎は長く、分枝する。葉は約2 cmで4輪生し、羽状に細く分裂する。花茎は葉のない穂状花序で水上に突き出る。雄花は上部に雌花は下部に着く。

**分布:** 国内では沖縄を含む日本全土。県内では桑名市、四日市市、伊勢市で記録がある。

**現況・減少要因:** 桑名市4、四日市市2、伊勢市1、伊勢市2か所で生育が記録されているが、少なくとも桑名市1、四日市市2で生育を確認している。河川開発、小水路では川床の堆積土砂除去が減少要因となる。

**保護対策:** 急激な水環境の変化をとまなう開発・改修を避けることである。環境アセスメントは必須である。

**特記事項:** 別名キンギョモと呼ばれ、生育地の中には観賞魚飼育用水草が投棄され、増殖した移入種の可能性もある。フサモに似て花期でない時期には誤同定し易い。



(市川正人)

### 夕チモ

*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] アリノトウグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力が強く、減少するおそれがある。

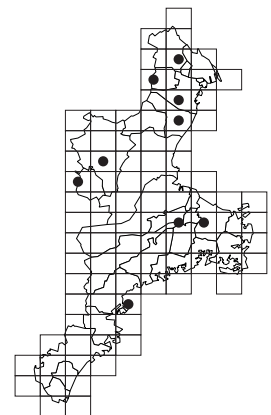
**種の概要:** 多年生の沈水から湿性植物。貧栄養の湖沼や溜池に生育。葉の形が沈水葉では繊細な羽状、気中葉では20~60 cm。陸生形では5~15 cm。花期は6~8月。和名は林立して群生することに由来、漢字名は立藻。

**分布:** 国外では中国、ロシア東部、北米北部など。国内では全国各地に分布。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、玉城町、尾鷲市、伊賀市、名張市で記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市1、菰野町1、玉城町4、伊賀市1、名張市1、紀北町1か所。四日市市は1951年、鈴鹿市は1929年、尾鷲市は1950年の記録であり、その後については不明。

**保護対策:** 水中から湿った陸上までの広い範囲で生育が可能であるが、溜池の堰堤等の改修時には、生育形に応じて、生育場所の干出や乾燥を防ぐ必要がある。

**文献:** 96.



(中 優)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## フサモ

*Myriophyllum verticillatum* L.

被子植物 [双子葉・離弁花] アリノトウグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は20以下であり, 生育地の改変などの人為圧力が強く, 減少するおそれがある。

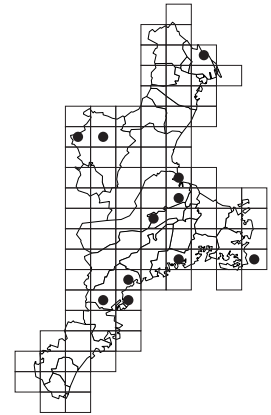
**種の概要:** 多年生の沈水植物。湖沼, 溜池, 水路などに生育。葉は4~5輪生で, 水中では羽状に細裂して長さは2~6 cm, 気中では線形羽状で長さは0.5~1.5 cmと水中葉より小さい。花期は6~8月。花序は水面上に出て, 上部が雄花で下部が雌花である。本種には花序の各節に緑色の気中葉があることで, ホザキノフサモとは区別できる。また, 殖芽の長さが短いことでオグラノフサモとは区別できる。

**分布:** 国外では調整半島, 中国大陸, シベリア, ヨーロッパなどの北半球の温帯。国内では全国各地に分布し, 県内では桑名市, 松阪市, 玉城町, 志摩市, 南伊勢町, 紀北町, 伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因:** 桑名市1, 松阪市2, 玉城町1, 南伊勢町1, 紀北町3か所。伊賀市は1953年と1956年の記録であり, その後については不明。

**保護対策:** 生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には, 生育場所の干出を避け, 改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

文献: 96。



(中 優)

## カワゼンゴ

*Angelica tenuisecta* (Makino) Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

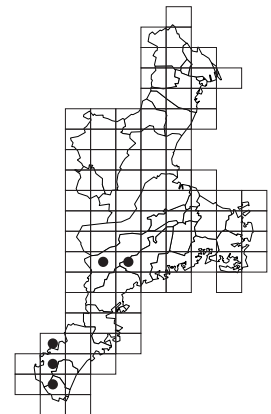
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 川岸に生える。イヌトウキに外見がよく似るが, 小葉は小さく表面に光沢があり, 脈上は有毛。果実は楕円形。

**分布:** 国内では本州 (和歌山県, 三重県), 県内では南勢地域 (大台町), 紀州地域 (熊野市, 紀宝町) に分布。

**現況・減少要因:** 自生地が谷や河川の岩上で, 洪水や乾燥によっては消滅することが懸念される。また, 園芸採取の圧力が懸念される。

**保護対策:** 採取防止のため, 生育地の公表は慎重に行う必要がある。



(花尻 薫)

## ハナウド

*Heracleum sphondylium* L. var. *nipponicum* (Kitag.) H.Ohba

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

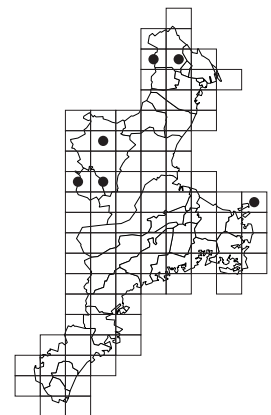
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 減少傾向にある。

**種の概要:** 川岸や日陰の土手等に生育する。茎は直立。2 m程度になり, 太く中空で長毛がある。葉は互生。下部の小葉は5小葉, 葉柄の基部は膨らむ。花期は5~6月, 大形の花序で, 白色の5弁花。大きさは不同で, 外側の1小花が大きい。花弁の先は2裂。分果の油管は太い。

**分布:** 本州 (関東地方以西), 四国, 九州に分布する。県内では, 伊賀市, 鳥羽市, 桑名市多度町, いなべ市藤原町に記録がある。最近では名張市で確認されている。

**現況・減少要因:** 土手の草刈が繁茂に行われると減少する可能性がある。また, 河川の増水により生育地が侵食されると絶滅する恐れがある。

**保護対策:** 生育地の土手は適度に草刈することが大切である。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## イワウチワ

*Shortia uniflora* (Maxim.) Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] イワウメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地点の個体数は100未満である。  
**種の概要:** 常緑の多年草。細長く根茎が這い, 所々から数枚の葉がかたまつてでる。葉身はほぼ円形で直径3~7 cm, 先端, 基部ともに凹む。花径は直立し頂に1個の花をつける。花期は4~5月。

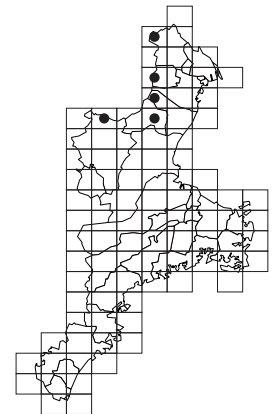
**分布:** 日本固有種。本州(東北から中国地方東部)の冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北・中部と伊賀地域に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地は, 基盤の土石の崩落, 植生遷移の進行などの環境変化圧によりせめられている。採取圧も受けている。

**保護対策:** 生育地の土層木の間伐, 枝打ちにより植生遷移の進行を抑え, また, 土石の崩落, 流出を止める対策が必要である。採取圧の防止も急務である。

**特記事項:** 同属のイワカガミの仲間は一花茎上に2~数個の花をつけ, 葉先がくぼまない。

文献: 34.



(葛山博次)

## サラサドウダン

*Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

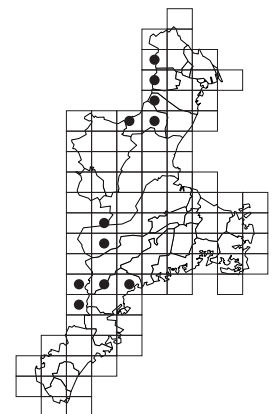
**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度。ニホンジカ等, 植食獣の摂食により個体数の減少が著しい。

**種の概要:** 日本固有種。落葉低木で高さ2~5 m。倒卵形の葉(長さ2~5 cm)が枝先に互生し, 5~6月頃短い総状花序(長さ2~3(6) cm)を枝先につける。10個内外の花冠は鐘形で, 花冠下部は黄白色に紅色の縦条が入り上部は淡紅色。

**分布:** 北海道(西南部), 本州(兵庫県以東), 四国(徳島県)に分布。県内では鈴鹿山系, 台高山系などの山地(いなべ市, 菰野町, 亀山市, 津市美杉町, 松阪市, 大台町ほか)に分布。

**現況・減少要因:** 主な生育地である山地で, 近年, ニホンジカ等の植食獣が過度に増え, その食害によって個体数が減少している。また観賞用, 園芸用の採取もみられる。

**保護対策:** 生育地の多くは, 採取が禁止されている国定公園域であるが, 植食獣による食害に対する対策が必要。



(武田明正)

## アカモノ

*Gaultheria adenothrix* (Miq.) Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各生育地点の個体数は100未満である。

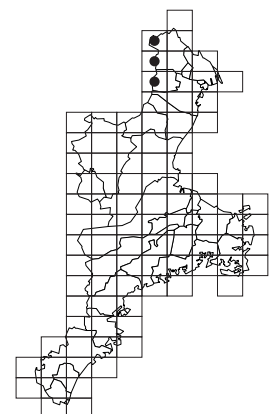
**種の概要:** 濃緑色の小灌木で高さ10~20 cm, やや赤褐色を帯び地下茎は伏臥。葉は広卵形で革質, 光沢あり。花は釣鐘形で白色, 5~7月頂生。果は赤熟する。

**分布:** 日本固有種。北海道, 本州, 四国の冷温帯から寒帯に生育する。県内では鈴鹿山脈の北・中部に分布する。

**現況・減少要因:** 本県に生育する個体は樹勢きわめて貧弱である。生育地へのササ類の侵入や土砂の崩落による埋没, あるいは流失, 採取圧により減少している。

**保護対策:** 生育地へのササ類の侵入を止める刈り払いや, 土砂の崩落を防止する土留めなどの保全措置が必要である。また, 採取圧を禁止することも大切である。

文献: 34, 81.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### キヨスミミツバツツジ

*Rhododendron kiyosumense* (Makino) Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は250未満である。

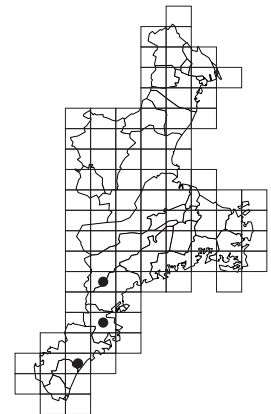
**種の概要:** 若枝、葉柄は無毛。葉の縁に先が毛に終わる微小な鋸歯があり、裏面主脈の下部両側に果期にも残る軟毛が密生する。花芽は披針状長楕円形でほとんど無毛。蒴果はゆがんだ円柱形、褐色の長毛がやや密に生える。

**分布:** 国内では千葉県、神奈川県、静岡県、三重県に分布。県内では大台町、紀北町、尾鷲市等からの記録がある。

**現況・減少要因:** やや標高の高い岩場や林縁、あるいは林道沿いにみられる。トサノミツバツツジと同じようなところに生育する。岩場の自生株は斜面の崩壊がない限り持続していくものと思われる。林道拡幅工事による個体数の減少が考えられる。

**保護対策:** 林道工事、砂防工事の際には注意が必要。

**特記事項:** いなべ市藤原町からの報告があるが、裏付けとなる標本がないため採用しなかった。今後精査が必要である。



(山本和彦)

### トウゴクミツバツツジ

*Rhododendron wadanum* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、未知の生育地は既知の地点数の比べて多くない。

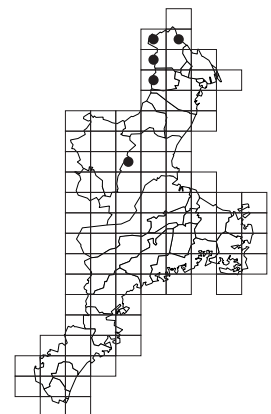
**種の概要:** 日本固有種。落葉低木で高さ1.5~3 m。広菱形の葉は枝先に3枚輪生状につく。4~5月頃、紅紫色の花が枝先に1~2個咲く。長さが不揃いの雄蕊は10本。花柱の中央から下部に白色の腺毛がやや密に生える。

**分布:** 東北(山形県東部、宮城県)、関東、中部の太平洋側域に分布。県内では鈴鹿山系の高地(いなべ市、菰野町)、津市青山高原で生育が確認されている。

**現況・減少要因:** 鈴鹿山脈の高地に稀に生育する。花木として観賞用に採取され、山腹崩壊などの自然災害や過度に繁殖した植食野生獣の摂食などにより個体数が減少している。

**保護対策:** 生育地は、採取が禁止されている鈴鹿国定公園域であるが、植食獣による食害に対する対策が必要。

**特記事項:** 北勢地域以外の分布情報については精査が必要。



(武田明正)

### モロコシソウ

*Lysimachia sikokiana* Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] サクラソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

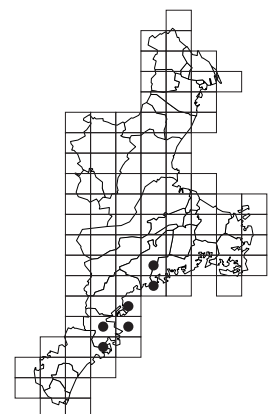
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数はおおよそ50未満である。

**種の概要:** 海岸近くの林内に生える多年草。茎は高さ30~80 cm、稜があり、まばらに点状の毛が生える。7~8月、上部の葉腋ごとに1花をつける。花冠は黄色、5列し、裂片は反り返り、径1~1.2 cm、下向きに開く。

**分布:** 国内では本州(関東地方南部以西)から沖縄。国外では中国(台湾)に分布。県内では南勢、紀州に記録がある。

**現況・減少要因:** 県内では海跡湖周辺や海岸部の山林内にみられる。記録地の一部は、道路開設等で消滅したところもみられるが、今のところ概ね大きな増減はなく、現状維持の状況であるところが多いと思われる。

**保護対策:** 本種が自生する海跡湖や海岸部は、他の貴重な植物も多くみられるところが多い。このような地域は、生育環境を現状のまま残すことが必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イワザクラ

*Primula tosaensis* Yatabe var. *tosaensis*

被子植物 [双子葉・合弁花] サクラソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

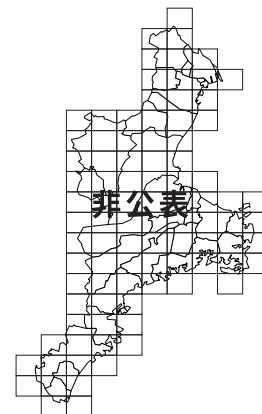
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 採取圧力が強い。

**種の概要:** 山地の岩壁に生育する多年草。葉はほぼ円形で長い柄がある。4~5月に花茎をのばし淡紅紫色の花を数個つける。花柄や葉柄には白い開出毛がある。

**分布:** 国内では本州(岐阜県, 三重県, 紀伊半島), 四国, 九州中部。県内ではいなべ市, 菰野町, 津市, 松阪市, 大台町で記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市, 松阪市では現在も確実に生育している。高い岸壁の生育地では比較的高密度だが, 人の手の届くところでは少ない。

**保護対策:** 花期を中心にパトロールを毎年実施し, 生育状況の確認, 採取防止, 野生植物保護を呼びかける。



(山路武夫)

## ハシドイ

*Syringa reticulata* (Blume) H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] モクセイ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で, 生育地が限られている。

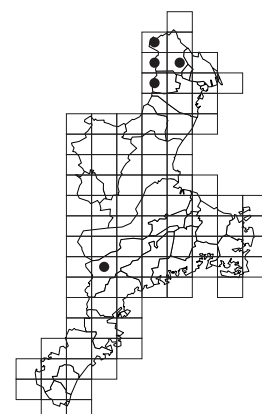
**種の概要:** 山地に生える落葉小高木で高さ6~7 m。樹皮の皮目は横長でサクラ類と似る。卵形から広卵形の葉身の長さは6~10 cm程度で対生。先が尖り, 基部は円形ないし浅心形。葉柄の長さ2~3 cm。花は白色, 6~7月頃咲き円錐花序をつくる。

**分布:** 国内では北海道, 本州, 四国, 九州。国外では朝鮮半島, 千島(南部)に分布。県内では, いなべ市(藤原岳, 御池岳) 菰野町(御在所岳, 竜ヶ岳), 大台町(大杉谷)などで分布が確認されている。

**現況・減少要因:** 鈴鹿山脈の石灰岩地などで単木的に生育が確認されている。土石流, 山腹崩壊などの自然災害と植食野生獣の摂食による更新阻害により個体数が減少している。

**保護対策:** 植食獣による食害に対する対策が必要。

**文献:** 81。



(武田明正)

## アイナエ

*Mitrasacme pygmaea* R.Br.

被子植物 [双子葉・合弁花] マチン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

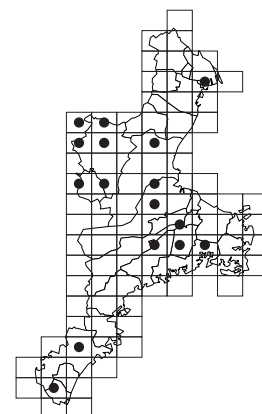
**選定理由:** 既知の生育地点数は20以下であるが, 各地点の個体数は少なく減少傾向にある。

**種の概要:** 野原や道端に生える小形の一年草。高さは5~20 cmで下部に基部のつながった対生する葉を数対つける。葉は長さ7~15 mm, 幅3~5 mmの卵形から長楕円形で茎とともに縁に毛を持つ。花は白色で4裂の径2.5 mm, 8~10月頃に咲く。2~10 cmの散形状の花茎を茎頂や葉腋から伸ばし, 1~3段となって3~15個の花をつける。花柱の宿存した蒴果をつくる。

**分布:** 国内では本州から九州, 沖縄。国外ではアジア東部から南部, 豪州に分布。県内では桑名市, 亀山市, 伊賀市, 津市, 松阪市, 多気町, 玉城町, 伊勢市, 大台町, 熊野市, 紀宝町で記録されている。

**現況・減少要因:** 桑名市1, 亀山市1, 伊賀市10, 津市2, 松阪市1, 多気町2, 玉城町1, 紀宝町2か所のみられる。同じような丈の草中に生え目立たないことから, 分布域はさらに広がると考えられる。土地造成や植生遷移の進行による減少が懸念される。

**保護対策:** 土地造成に注意をするとともに定期的な草刈等による里山環境の維持。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イヌセンブリ

*Swertia tosaensis* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] リンドウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

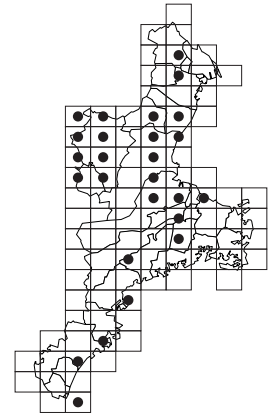
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以上で、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山野の湿地に生える越年草。茎は所々で分枝し、葉はセンブリより幅が広く、倒披針形、長さ2~5 cmで先は鈍い。花は10~11月、白色でわずかに淡紫色の条があり、径約15 mm。

**分布:** 国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、伊賀、中勢、南勢、紀州地域に分布。

**現況・減少要因:** 県内に広く分布するが、比較的まれであり、絶滅した地域もあると思われる。おもに溜池の岸辺や湿地等にみられるが、湿地に埋め立て、溜池の改修工事や植生遷移等で減少傾向にある。

**保護対策:** 本種の生育地には、他にも保護上重要な湿地生の植物がいくつかみられる。不注意な開発行為により、これらの生育地が消失することのないよう、十分な配慮が必要である。



(山本和彦)

## ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) Kuntze

被子植物 [双子葉・合弁花] ミツガシワ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: A (CR)

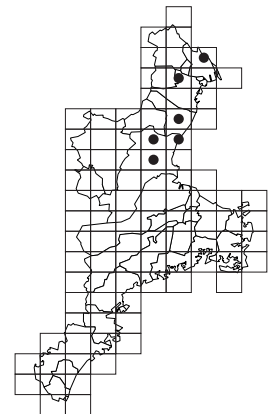
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以上であるが、溜池改修や水質悪化で減少傾向にある。

**種の概要:** 池に生育する多年草の水草。水底にある根茎から長い茎をのばし、水面に楕円形の葉をひろげる。7~9月に径1~2 cmの白い花を水面上に咲かせる。

**分布:** 国外では東アジア、アフリカ、オーストラリア。国内では本州から九州。県内では桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、玉城町等で生育の記録がある。

**現況・減少要因:** 平地の溜池に点々と生育している。生育地の埋め立て等で減少している。

**保護対策:** 溜池改修などで長期間水を抜く時には、一時的に移植するなど枯らさない手立てが必要である。



(山路武夫)

## チョウジソウ

*Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

被子植物 [双子葉・合弁花] キョウチクトウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。近年、ニホンジカの食害により消滅する植物が増加する中、本種はニホンジカの嗜好性植物であることから逆に増加する傾向にある。

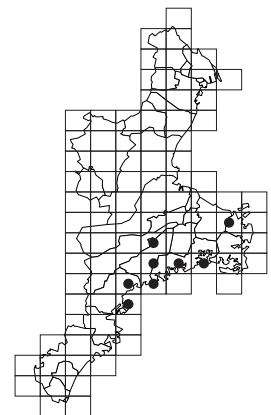
**種の概要:** 茎の高さ40~80 cm。葉は長楕円状披針形で長さ6~10 cm。花は5~6月、茎頂に10数個の花を集散状につける。

**分布:** 国内では本州、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市に生育。

**現況・減少要因:** 県内では主に海跡湖周辺に生育。マニアによる採取圧が強く、また紀北町にみられる群生地は、埋め立て計画があり絶滅が危惧される。

**保護対策:** 県内の海跡湖周辺には多様な植物群がみられ、興味深い植物的自然が形成されている。本種を含めた貴重な植物群を保全するためにも県内の海跡湖の保全対策が必要。

**特記事項:** 2014年現在、ニホンジカの食圧が非常に強い地域では、本種も採食されだし、いくつかの自生地では、個体数の激減が認められている。今後、本種の消長については注意が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ツルガシワ

*Vincetoxicum macrophyllum* Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

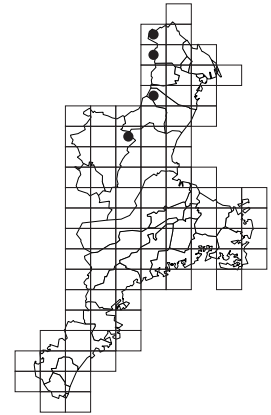
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山の木陰に生える多年草。茎は下部直立し高さ50~100 cmとなり上部はつる状となる。下部の葉は大きい。暗紫色の花は径6~8 mmで、7~8月頃葉腋にむらがつてつき、花柄はごく短い。果実は毛が多い。

**分布:** 国内では本州、四国。県内では中部、北勢地域の鈴鹿山系に分布。

**現況・減少要因:** 鈴鹿山系の北から南にかけてみられる。自然林の伐採などによる減少が考えられる。

**保護対策:** 石灰岩採取や植林など、自然林の伐採時には生育場所を保護する。



(山脇和也)

## スズサイコ

*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は100以下であるが、群落をつくらず点在。各生育地の個体数は10未満である。

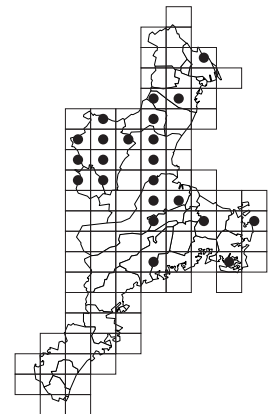
**種の概要:** 多年草。茎は細く直立して1本立ちとなり、高さ40~100 cm。葉は対生し、長さ6~13 cmで細い。花期は7~8月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状に黄褐色の花をつける。果実は袋果で細長い。

**分布:** 日本全土。国外では朝鮮半島、中国の暖温帯から冷温帯。県内では伊賀地域での確認が多く、そのほか桑名市、四日市市、亀山市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、大紀町などに分布する。

**現況・減少要因:** 現在のところ比較的多くの地域で見られるが、生育可能な丘陵から低山地の谷戸田周辺の草地、平野の河川の堤防や水路わきや溜池の土手などの草地が改変を受けてしだいに減少している。また、生育地の管理放棄による植生の変化も減少を加速させている。

**保護対策:** 生育地の改変を停止し、植生遷移の進行を止める定期的な草刈などを実施する必要がある。

**文献:** 34, 43, 69.



(葛山博次)

## コバノカモメヅル

*Vincetoxicum sublancoelatum* (Miq.) Maxim. var. *sublancoelatum*

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

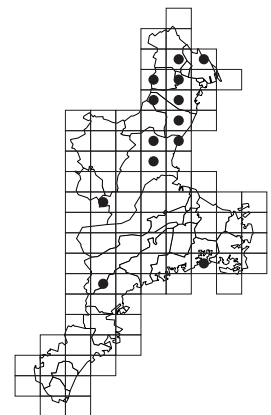
**選定理由:** 既知の生育地点数は100以下であるが、各地点の個体数が50未満である。

**種の概要:** 山野に生える蔓性の多年草。葉は7~15 mmの柄を持ち、葉は3~11 cm、幅1~2.5 cmで基部は円形またはわずかに心形で、両面はほとんど無毛。花期は7~9月。葉腋に生じて1~3 cmの花柄を持ち、5~13 mmの小花柄がある。花冠は7~9 mm、暗紫色で星形に5裂する。5~7 cmの袋果ができる。

**分布:** 国内では関東、中部、近畿地方の暖帯域。県内では桑名市、いなべ市、四日市市、菟野町、亀山市、津市、南伊勢町、大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** 桑名市1、いなべ市1、四日市市3、菟野町1、鈴鹿市2、亀山市1、津市5、南伊勢町1、大台町1か所で生育している。里山に近い水田の土手などに多い。水田の整備改良による土手のコンクリート化などが問題となる。

**保護対策:** 定期的な草刈等を行い、現在の里山の環境を維持することである。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## シチヨウゲ

*Leptodermis pulchella* Yatabe

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は約10であり, 分布がきわめて限定的である。

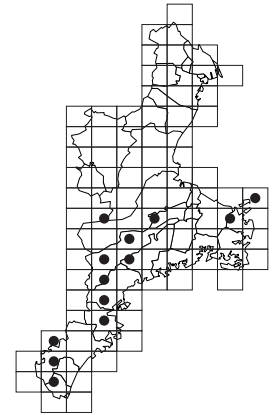
**種の概要:** 川岸の岩場などに生える落葉小低木。開花期は7~8月。紫から紅紫色の花をつける。果実は蒴果。

**分布:** 日本固有種。紀伊半島(三重県, 和歌山県)と高知県の一部にのみ分布。県内では津市, 松阪市, 鳥羽市, 大台町, 紀北町, 尾鷲市, 熊野市などで記録がある。

**現況・減少要因:** 川岸の岩場という特異な場所に生育する種であり, 護岸工事や河川改修などによる減少が考えられる。

**保護対策:** 生育地の川の流域全般の環境保全が重要である。

**文献:** 48.



(平山大輔)

## ヒロハコンロンカ

*Mussaenda shikokiana* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 個体数も少ない。

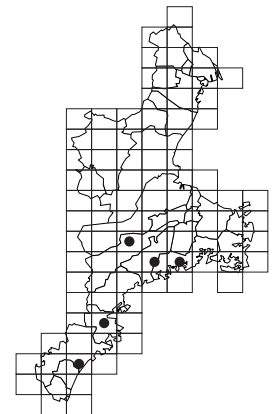
**種の概要:** 山地に生える落葉低木。高さ3 m。開花期は6~7月。集散花序をつけ, 花は黄色。果実は液果で冬に熟し, 直径8 mm程度。

**分布:** 国内では静岡県, 紀伊半島, 四国, 九州に分布する。国外では中国の *Mussaenda esquirolii* H.Lév.と近縁または同種と考えられている。県内では南伊勢町, 尾鷲市などで記録がある。

**現況・減少要因:** 南勢, 紀州地域の3か所。開発などにより減少したと考えられる。

**保護対策:** 生育地の保全が望まれる。

**文献:** 95.



(平山大輔)

## ホタルカズラ

*Lithospermum zollingeri* A.DC.

被子植物 [双子葉・合弁花] ムラサキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

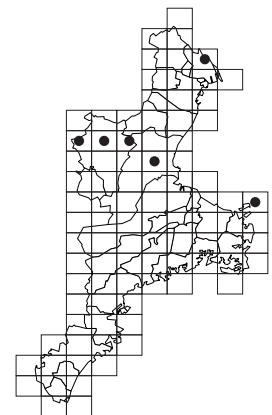
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, いずれの生育地でも個体数が少ない。

**種の概要:** 日当たりのよい草地や疎林内に生える草丈15~25 cmの多年草。4~5月頃, 径15 mm前後の青紫色の先が5裂した筒状花をつける。花後横走する枝を出して, 新苗をつける。

**分布:** 朝鮮半島, 中国, 台湾。国内では北海道から沖縄。県内では桑名市, 伊賀市, 津市, 鳥羽市で記録がある。

**現況・減少要因:** いずれの生育地でも個体数が少なく, 植生の遷移や開発等によって, みかけられなくなっている。遷移途上の不安定な環境に生育していることが多く, 消長も激しい。

**保護対策:** 丘陵地では, 谷戸田周辺の草地や林縁の草刈によって, 草丈の低い草地や, 植生のまばらな林縁を維持することが必要である。山地にあつては, 林道工事や採石事業など小規模改変事業で絶滅することが多いので, 地域の行政が街頭種の有無に常日頃から注意を払う必要がある。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コムラサキ

*Callicarpa dichotoma* (Lour.) K.Koch

被子植物 [双子葉・合弁花] クマツヅラ科(APGⅢ: シソ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は50以下。各生育地の個体数は少ない。

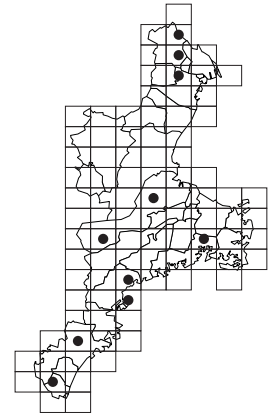
**種の概要:** ムラサキシキブより全体に小形。茎は紫色で少し稜のどろみがあり、花序は葉柄のわきからやや離れてつく。花期は7~8月。

**分布:** 国内では本州、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島、台湾、中国の亜熱帯から暖温帯。県内では広い範囲に点々と分布する。

**現況・減少要因:** 生育地は山野の湿地で土地開発等の人為圧を受けやすく、また、環境変化圧、特に植生遷移の進行等により減少している。

**保護対策:** 生育地の開発等の人為圧の排除および湿地の植生遷移を停止する定期的な伐採が必要である。

**文献:** 34. 35. 43. 57. 69. 76. 141.



(葛山博次)

## クマツヅラ

*Verbena officinalis* L.

被子植物 [双子葉・合弁花] クマツヅラ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

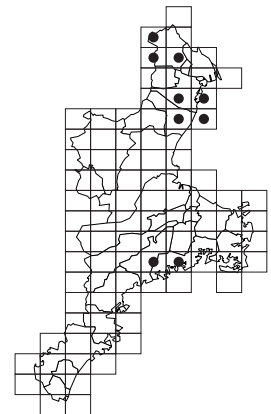
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。個体数は少ない。近年、急激に減少している。

**種の概要:** 山野の路傍に生える高さ30~80 cmの多年草。茎は方形で直立し、枝を出し、毛がある。葉は羽状に深裂し、長さ3~10 cm、幅2~5 cmで細毛がある。花は細長い穂状花序で6~9月に咲く。花筒は長く、上部で曲がり、雄しべは4本で短く花外には出ない。4分果である。

**分布:** 国内では関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、南伊勢町、大紀町で記録がある。

**現況・減少要因:** 減少は著しく、いなべ市で確認したに過ぎない。道路工事、土地造成など、土地の改変が減少要因となる。

**保護対策:** 不用意に土地改変を実施しないことである。



(市川正人)

## タニジャコウソウ

*Chelonopsis longipes* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: B (EN)

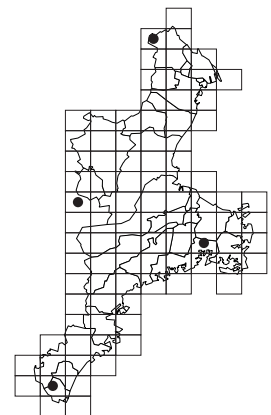
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数はおよそ50未満と思われ、開発、採取圧がある。

**種の概要:** 山の谷間に生える多年草。茎は基部から直立して斜上し、高さは50~100 cm。花期は9~10月。ジャコウソウに似るが花柄が長く3~4 cmあり、葉柄より著しく長い。花冠は長さ3.5~4 cmで紅紫色。

**分布:** 国内では本州(関東以西)から九州。県内ではいなべ市、伊賀市、伊勢市および紀宝町で記録がある。

**現況・減少要因:** 伊勢市、紀宝町では数年前に確認されたが、その他の所の現状の詳細は不明である。開発や採取などが減少の要因と考えられる。

**保護対策:** 生育状況調査を早急に実施するとともに、生育地の環境を保護し、森林伐採されない対策が必要である。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ミズトラノオ

*Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: A (CR)

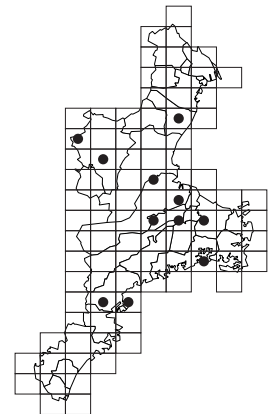
**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度であるが、生育地の乾燥により消滅や減少傾向が強い。

**種の概要:** 水辺の草地に生育する多年草。長い地下茎があり、そこから何本かの茎を立てる。葉は普通4枚輪生。花期は8~10月で花茎にピンクの花穂を伸ばす。生育していても花をつけないこともある。

**分布:** 朝鮮半島。国内では本州から九州。県内では鈴鹿市、伊賀市、松阪市、多気町、玉城町、伊勢市、南伊勢町、紀北町で記録がある。

**現況・減少要因:** 生育地は県下に点在しているが、水位の変動や遷移の進行など環境の変化に弱く消滅したところもある。

**保護対策:** 開発は慎重に行うことと、適度に草刈りをしたり湿潤状態を維持することも必要である。



(山路武夫)

## マネキグサ

*Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

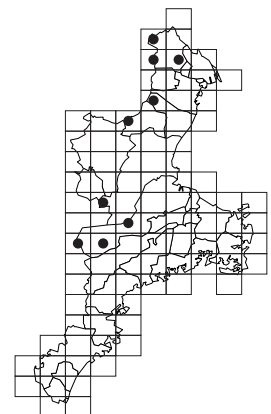
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数はおよそ250未満である。

**種の概要:** 山の木陰に生える多年草。茎は直立し高さ40~70 cm。葉はまばらにつき、下部のものは心形。上部のものは卵形。花は葉腋に1~3個ずつつき、暗紅紫色で長さ2 cm弱。花期は8~9月。

**分布:** 国内では本州(神奈川県以西)から九州。県内では北勢および中勢地域の少々湿った林内にみられる。

**現況・減少要因:** 県内の深山に点々と見られるが、現況は不明である。森林の伐採や開発により減少することが考えられる。

**保護対策:** 森林伐採時には事前に調査を行い、確認されれば開発を避けて保護すべきである。



(山脇和也)

## ミゾコウジュ

*Salvia plebeia* R.Br.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

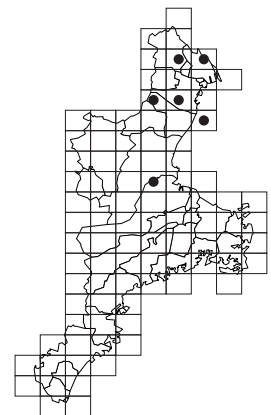
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点50未満の個体数しかなく、開発圧がきわめて強い環境に生育している。

**種の概要:** ロゼット葉のある越年草。葉は楕円形で縁に低い鋸歯がある。茎は高さ30~70 cmで下向きの細毛がある。5~7月頃葉腋や茎頂に穂状に淡紫色の小花をつける。

**分布:** 東アジア、マレーシア、インド、オーストラリア。国内では本州から沖縄。県内では桑名市、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、松阪市で記録がある。

**現況・減少要因:** 低湿地、河川の氾濫原、溜池の縁など人手の加わりやすい環境に生育しているため、生育環境の改変も著しく、消長も激しい。高茎草本が繁茂するとすぐに消滅する。

**保護対策:** セイタカアワダチソウやオオアレチノギクなど高茎草本が繁茂しないような環境づくりと、時々表土を攪乱して埋土種子の発芽を促せば、個体の維持は可能である。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



### ヤマジノタツナミソウ

*Scutellaria amabilis* H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 各生育地の個体数はおよそ50未満である.

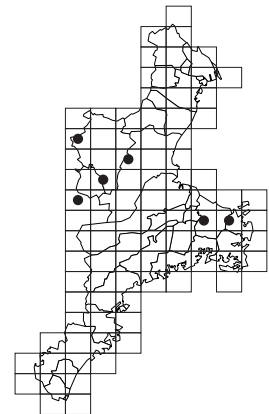
**種の概要:** 丘陵地の林内にややまれに生える多年草. 茎は直立し高さ15~25 cmとやや小形で, 四角の稜上には上向き細毛が生える. 葉は広卵形から卵心形で長さ1~2 cm. 花序は短く, 花はまばらにつき, 花冠は長さ2~2.5 cmで青紫色.

**分布:** 国内では本州に分布. 県内では伊賀と南勢地域の林内に生育.

**現況・減少要因:** 伊賀市青山高原, 名張市の赤目峽, 伊勢市の朝熊山などにみられる.

国立・国定公園内に含まれるところも多いが, 開発などで減少の危険性がある.

**保護対策:** この植物が生育するところは開発や道路改修などの時, 十分な調査を要する.



(山脇和也)

### イガタツナミ

*Scutellaria laeteviolacea* Koidz. var. *kurokawae* (H.Hara) H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

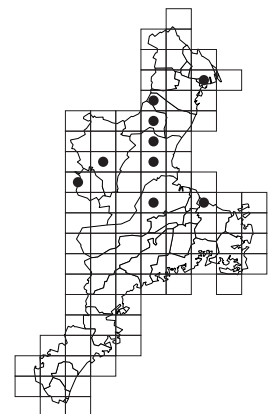
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数は少ない.

**種の概要:** 丘陵地の林縁や田の土手に生える多年草. 茎は四角で直立. 高さ20~30 cm, 長く開出する白毛がある. 葉は円く小形, 下部の葉が最大で節間が葉より長い. 花は6月頃開き, 花穂はまばらである.

**分布:** 本州 (福島県以西), 四国に分布する. 県内では, 伊賀市, 名張市, 松阪市等に標本記録があり, 最近では亀山市と伊賀市で現認されている.

**現況・減少要因:** 森林の荒廃や休耕田が増え, 大形の雑草が繁茂し, 生育できなくなってきた.

**保護対策:** 生育地の適度な草刈りを実施して, 大形の雑草を除去する.



(南 正祝)

### ヤマタツナミソウ

*Scutellaria pekinensis* Maxim. var. *transitra* (Makino) H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地とも個体数は10未満である.

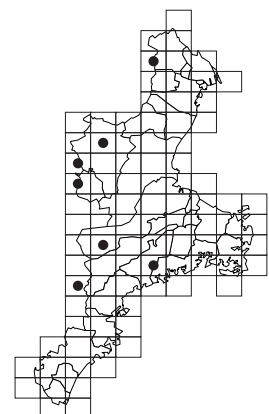
**種の概要:** 多年草. 白色で細長い地下茎がある. 茎は高さ10~25 cm, 植物全体に上向きの白色の毛を密生する. 葉は少数で対生, 卵形または卵状三角形で長さ1~3 cm, 巾1.5~2.5 cm. 両面に粗い毛がある. 花は5~6月. 花序は3~6 cm, まばらに一方方向にかたよって, 青紫色の唇形花をつける. 開出する腺毛がある.

**分布:** 日本全土. 朝鮮半島の暖温帯から冷温帯. 県内ではいなべ市, 伊賀市, 名張市, 松阪市, 大紀町および大台町に分布する.

**現況・減少要因:** 主な生育地は山地の林内であり環境変化圧, とくに植生遷移の進行や生育地への土砂の流入, 採取圧による人為の影響により減少しつつある.

**保護対策:** 生育地の植生遷移を止めるために混生する高茎草本の刈り払い, 上層木の間伐, 枝打ちなどの管理が必要である. また, 土砂の採掘にあたっては土止めを作りその流出を防ぐことも大切である.

**文献:** 34, 69.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミヤマナミキ

*Scutellaria shikokiana* Makino var. *shikokiana*

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (VU)

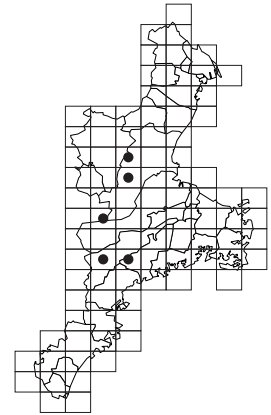
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山地の木陰に細長い地下茎を出す多年草。茎は直立し5~15 cmで上部に開出腺毛を散生する。葉は1.5~2.5 cmの柄を持ち、葉身は広卵状3角形で長さ2~3 cm、幅1.5~2.5 cmで緑に深く粗い鋸歯がある。ふつう上面に毛が散生する。花は7~8月頃まばらにつき、長さ7~8 mm、淡紅色を帯びた白色である。

**分布:** 国内では関東地方以西、四国、九州に分布。県内では伊賀市、津市、松阪市飯高町、大台町、大紀町で記録されている。

**現況・減少要因:** 伊賀市青山高原1、津市美杉町1、松阪市飯高町1、大台町1、大紀町1か所で確認されている。比較的深い山に生育している。減少要因は生育環境の変化である。

**保護対策:** 自生地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

### メジロホオズキ

*Lycianthes biflora* (Lour.) Bitter

被子植物 [双子葉・合弁花] ナス科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

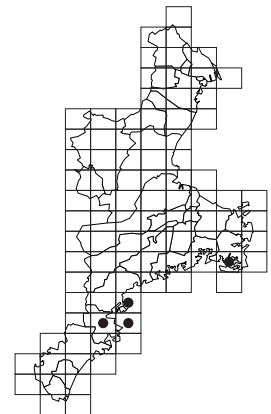
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満。

**種の概要:** 海岸近くに生える多年草。茎は高さ60~90 cm、葉は卵形または狭卵形。茎、葉ともやや密に軟毛が生える。6~10月、葉腋に1~3個の白色の花をつける。萼は10裂し、液果は球形で7~10 mm、赤く熟す。

**分布:** 国内では本州南部から沖縄。国外では中国、マレーシア、ニューギニアなど熱帯に広く分布。県内では志摩市、紀北町、尾鷲市からの記録がある。

**現況・減少要因:** 林縁や攪乱された場所等に生育するが、生育地は県内でも限られている。自生地の1つである紀北町大島では、灯台への歩道をつけるために常緑広葉樹林を伐開した跡に出現している。

**保護対策:** 上層木が茂ってくると減少していくが、自生地周辺で攪乱地が形成されると、いつのまにかそこに出現していたりする。本種が生育する自然環境を全体として保全する必要がある。



(山本和彦)

### マルバノサウトウガラシ

*Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:オオバコ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

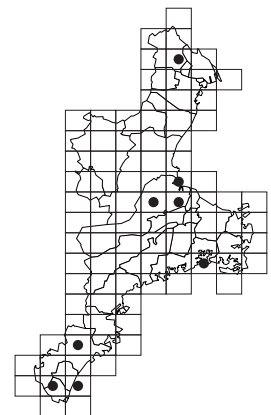
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地である湿地や水田が、開発されたり、耕作放棄で遷移が進み減少するおそれがある。

**種の概要:** 湿地や水田に生育する軟弱な一年草。葉は卵円形で対生、長さは1 cmに満たない。8~10月に上部葉腋に柄のある小さな紅紫色の花をつける。

**分布:** 朝鮮半島南部。国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、松阪市、南伊勢町、熊野市、御浜町、紀宝町で記録がある。

**現況・減少要因:** 稲刈後の水田や湿った休耕田には生育しているが、耕地整理された乾田ではみられなくなった。

**保護対策:** 湿田や小さな水田を残しておくことが必要である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ケヤマウツボ (ヤマウツボ含む)

*Lathraea japonica* Miq. var. *miqueliana* (Franch. et Sav.) Ohwi

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: A (CR)

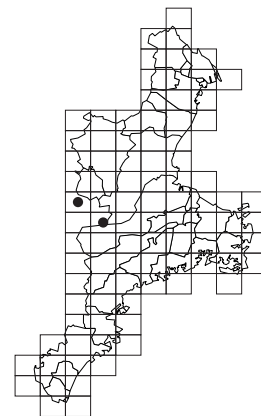
**選定理由:** 既知の生育地点数は2. 個体数は少ない.

**種の概要:** 落葉広葉樹林の林床に生える多年生の寄生植物で全体白色. 花茎は直立して長さ13~30 cmとなり, 5~7月に白色の花をつける. 地上部の上方に軟毛を有するものはケヤマウツボとして区別されるが, ここでは区別せずヤマウツボとして扱っている.

**分布:** 関東地方以西の本州, 四国, 九州, 朝鮮に分布. 県内では津市, 名張市からの標本記録がある.

**現況・減少要因:** 県内2か所の生育地とも生育環境は安定している.

**保護対策:** 本種が生育できる森林を残しておくことが重要.



(山本和彦)

### スズメノハコベ

*Microcarpaea minima* (J.König ex Retz.) Merr.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: オオバコ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 安定した生育地がない. 開発圧が強く, 生育地が年々減少する傾向にある.

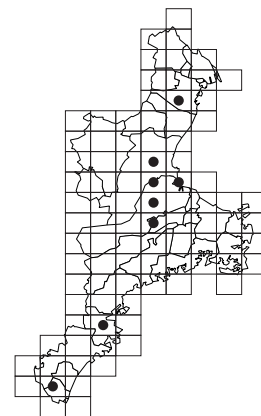
**種の概要:** 湿地に生える微小な一年草. 茎はロゼット葉のある越年草. 茎は匍匐して長さ5~20 cm. 7~10月に葉腋に1個ずつ淡紅色の花をつける.

**分布:** 朝鮮半島, 中国, 東南アジア, インド, オーストラリア. 国内では本州 (関東地方以西), 四国, 九州, 沖縄. 県内ではいなべ市, 津市, 松阪市, 多気町, 尾鷲市, 紀宝町で確認されている.

**現況・減少要因:** 湿地, 溜池の縁, 水田等に生育するが, 埋め立て, 改修工事によるコンクリート化, 乾田化, 管理放棄, 農業汚染などの原因で減少している.

**保護対策:** 個体が著しく微小で目立たない存在なので, さらなる生育地の確認が必要であるが, 既知の生育地での環境の保全と維持が望まれる.

**文献:** 57.



(加田勝敏)

### クチナシグサ

*Monochasma shearereri* (S.Moore) Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

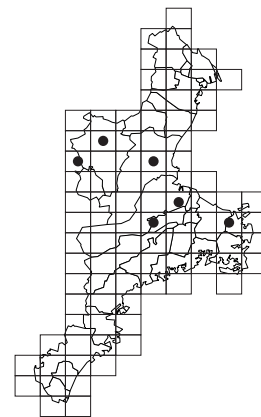
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 個体数は250未満.

**種の概要:** 日の当たる丘陵・土手の草地に生える半寄生の越年草. 茎は這うか斜上し, 60 cmに達するものもある. 葉は対生し, 長さ2~3 cm, 幅2~4 mmの線形. 花は数mmの花柄を持ち, 10~13 mmの筒状唇形, 淡紫色で4~6月に咲く. 果実は7 mmほどで長い萼があり, その形をクチナシの実になぞらえて種名とした.

**分布:** 国内では関東以西の本州, 四国, 九州に分布. 県内では津市, 松阪市, 伊賀市, 伊勢市で記録されている.

**現況・減少要因:** 津市1, 松阪市2, 伊賀市2, 多気町1, 伊勢市4か所に生育している. 定期的な草刈で生育は持続可能である. 植生遷移が減少要因となる.

**保護対策:** 植生遷移の進行を止めるために定期的に草刈を行う.



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コシオガマ

*Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

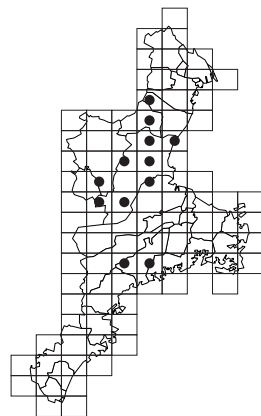
**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度であり、現認できる箇所が少なくなっている。

**種の概要:** 日当たりの良い草地や路傍に生える半寄生の一年草。茎は直立。全体に柔らかく多細胞の腺毛が密生する。葉は対生。羽状に分裂する。花期は9~10月、葉腋毎に1個花をつける。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州と広く分布。県内では、名張市、津市の3か所で現認されている。

**現況・減少要因:** 草地の荒廃による大形雑草の侵入や道路の改修により減少することが多い。

**保護対策:** 草地の適度な草刈や道路の無秩序な改修は避けるべきである。



(南 正祝)

## ヒキヨモギ

*Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook et Arn.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は10未満である。

**種の概要:** 日当たりの良い草地に生える半寄生の一年草。茎は高さ30~60 cm、細毛を密生。葉は羽状に深裂。花は長い萼筒をもち、萼筒の先は同じ大きさに5裂、花冠は鮮黄色、長さ2~3 cm、上下2唇にわかれ、おしべ、めしべは上唇のなかに包まれる。下唇は3裂、上面に大きな2つのひだがある。

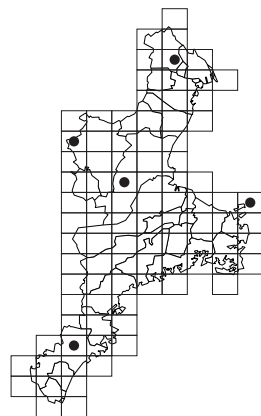
**分布:** 日本全土。国外では中国、朝鮮半島、台湾、千島の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、伊賀市、布引山地、鳥羽市、熊野市などに分布する。

**現況・減少要因:** 生育地は土地改変などの人為圧や植生遷移の進行により減少している。

**保護対策:** 生育地の開発等の人為圧を抑制し、また、草地植生維持のための定期的な草刈り等の管理が必要である。

**特記事項:** 腊葉標本にすると全草黒褐色になるのでクログサの別名がある。

**文献:** 34.



(葛山博次)

## クワガタソウ

*Veronica miqueliana* Nakai

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:オオバコ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

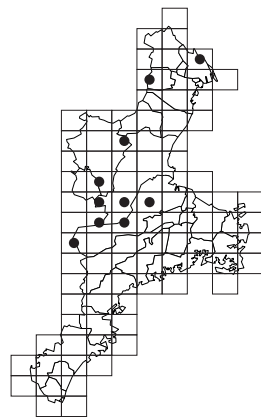
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山地林下に生える高さ10~20 cmの多年草。茎は株をつくり、直立または斜上し、曲がった毛が散生する。葉は対生し上部では大きく浅い鋸歯がある。卵形で2~5 cmの葉身、0.5~2 cmの柄を持ち、両面に毛を散生する。花序には少数の花がまばらにつく。淡紅白色で径8~13 mm、5~6月に開く。蒴果は三角状扇形で底部は切形である。

**分布:** 日本固有種。東北地方南部から紀伊半島の太平洋側に分布。県内では桑名市、多度町、菰野町、伊賀市、津市、松阪市の比較的標高の高い温帯域で記録されている。

**現況・減少要因:** 桑名市多度町1、菰野町1、津市美杉町2、松阪市4か所で生育している。比較的深い山間で生育しており、生育環境の変化が減少要因。

**保護対策:** 自生地の環境を現状のまま維持することである。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ノタヌキモ

*Utricularia aurea* Lour.

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度である。各地点の個体数はかなり多い。

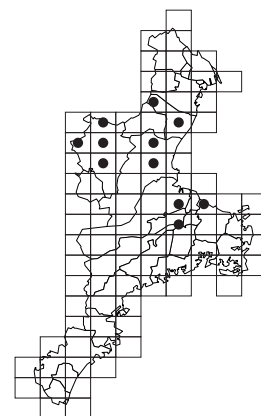
**種の概要:** やや富栄養の池沼に生える一年草の浮遊植物。タヌキモやイヌタヌキモの葉は基部で2本の枝に分かれるが、本種は3本の枝に分かれて羽状に展開するため立体的であり、捕虫嚢を多数つける。花期は7~10月。花茎が水中茎よりやや太く、鱗片葉をつけないことや越冬芽を形成しないことも特徴である。

**分 布:** 国内では本州、四国、九州。国外ではアジア東部から南部の暖帯域に分布。

県内では鈴鹿市、津市、伊賀市、松阪市、明和町、玉城町で記録されている。

**現況・減少要因:** 津市2、伊賀市3、松阪市1、明和町2、玉城町3か所。いずれにもかなりの個体数が認められる。溜池周辺ゴルフ場の農業汚染や湖沼開発が減少要因と考えられる。

**保護対策:** 上記地域には多様な湿生・水生植物がみられるので保護管理が必要。



(市川正人)

## ヒメタヌキモ

*Utricularia minor* L.

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: A (CR)

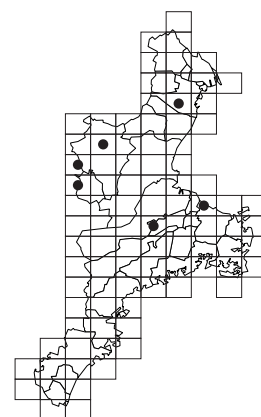
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。溜池の開発などによる急激な減少が予想される。生育面積は狭く、各生育地の個体数は1,000未満である。

**種の概要:** 古く浅い池に生える多年草。所々地中葉を泥中に出して固着する。水中葉は長さ8~13 mmで、まばらに捕虫嚢をつける。8~9月に、高さ10 cm位の花軸をだし、ごくまれに4~8個の黄緑色の花をつける。

**分 布:** 国内では本州、北海道。国外では千島。県内では北勢、南勢、伊賀の各地域に生育地がある。

**現況・減少要因:** 四日市市、伊賀市、名張市、多気町勢和にそれぞれ1か所。昔からある溜池にみられるため、開発や改修などにより激滅の可能性がある。

**保護対策:** 環境を変えず、生育地を保護していく必要がある。



(山脇和也)

## ムラサキミミカキグサ

*Utricularia uliginosa* Vahl

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は20以下である。各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 葉は細いへら形。花茎は高さ7~15 cm、花には2~3 mmの柄があり、果期には柄が3~6 mm。花冠は径4 mm内外、淡紫色で距は唇弁より短い。花期は8~9月。

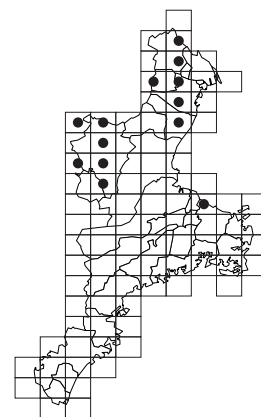
**分 布:** 日本全土。国外では東南アジア、インド、オーストラリアの暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、桑名市、菟野町、四日市市、鈴鹿市、名張市、伊賀市、明和町などに分布する。

**現況・減少要因:** 生育地の多くは都市近郊で、容易に土地の改変が行われ、消滅している。また、乾燥や植生遷移の進行などの環境変化、採取圧も受け、個体数は減少している。

**保護対策:** 開発などの人為圧を抑制するとともに、環境変化圧、特に水分条件、植生の変化には注意を払い、生育条件を整える管理も必要である。また、採取圧に対しては地元住民の協力による巡回監視が望まれる。

**特記事項:** ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサに比べて少なく、また両種に比べより湿潤地に生育する。

**文 献:** 34. 43. 69.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## レンプクソウ

*Adoxa moschatellina* L.

被子植物 [双子葉・合弁花] レンプクソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

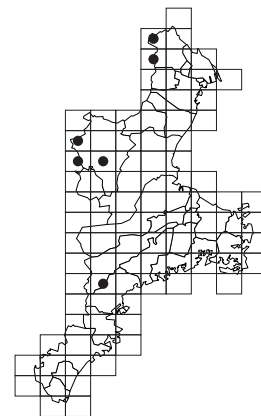
**種の概要:** 多年草。高さ8~15 cmで根生葉とほぼ同長。根生葉は長柄があり1~2回3出複生し、小葉はさらに3出状に分裂する。花は黄緑色で径5 mm、花に2種あって、頂生の花は花冠が4裂、雄しべ8、他はみな花冠5裂、雌しべ10、花柱の先は3~5裂。花期は4~5月。北半球の温帯に広く分布する1科1属1種の珍しい植物である。

**分布:** 国内では北海道、本州(近畿以東)の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、伊賀市、大台町に分布する。

**現況・減少要因:** 木陰に生える緑色で繊細な本種は、踏みつけ、生育地の土石の崩落や植生遷移の進行により減少している。

**保護対策:** スギ・ヒノキなどの繁茂にともない生育地は光量不足となって消失した地点もあることから、上層木の間伐や枝打ち、草本層の草刈りが必要である。また、登山者の踏みつけの防止に努める。

**文献:** 34. 51. 68. 69. 139.



(葛山博次)

## キンレイカ

*Patrinia triloba* (Miq.) Miq. var. *palmata* (Maxim.) H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] オミナエシ科(APGⅢ:スイカズラ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、未知の生育地は既知の生育地に比べ多くない。

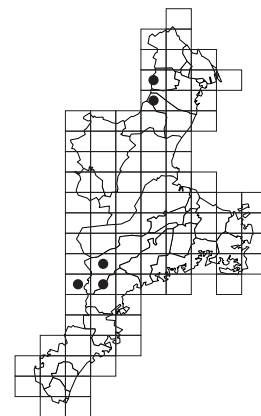
**種の概要:** 日本固有種。山地の岩場に生える多年草。茎は高さ20~60 cm。地下茎が発達する。葉は対生し、3~5裂の掌状葉は長い柄をもつ。7~8月に黄色の小花からなる集散花序をつける。

**分布:** 関東以西の太平洋側山地、九州に分布。県内では菰野町(御在所岳、鎌ヶ岳)、大台町(大台ヶ原)に分布が確認されている。

**現況・減少要因:** 鈴鹿・台高の山地に生育するが、個体数は多くない。登山道に利用されている日当たりの良い岩場に生えることが多く、踏圧などにより影響を受けている。

**保護対策:** 踏圧により損傷しないように登山道を整備する必要がある。

**特記事項:** 花冠は径0.6 cmで、母種のハクサンオミナエシ(径0.5 cm)より大きいことで区別される。



(武田明正)

## ナベナ

*Dipsacus japonicus* Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] マツムシソウ科(APGⅢ:スイカズラ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

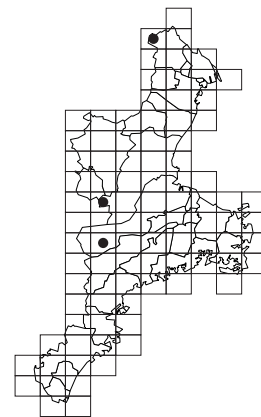
**選定理由:** 既知の生育地点数は5。個体数は少ない。

**種の概要:** 日当たりのよい山地に生える越年草で、高さ1 m以上になる。全体に刺状の剛毛がある。葉は下部のものは羽状となり翼のある柄がある。花は紫色、8~9月に咲き、多数集まって径2 cmほどの球状の頭花を形成する。総苞片は線形で1列に並び、反りかえる。

**分布:** 関東地方以西の本州、四国、九州、朝鮮、中国に分布。県内ではいなべ市、津市、松阪市から記録されている。

**現況・減少要因:** 林縁、崩壊地、日当たりのよい山間の草地等、攪乱された不安定な立地環境に生育。遷移が進行し、林分が閉鎖するなど、生育環境が安定化してくると姿を消す。

**保護対策:** 自生地周辺に多様な立地環境を残しておくことが重要。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ホソバノヤマハハコ

*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f.  
var. *angustifolia* (Franch. et Sav.) Hayata

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地に対する開発圧が高い。

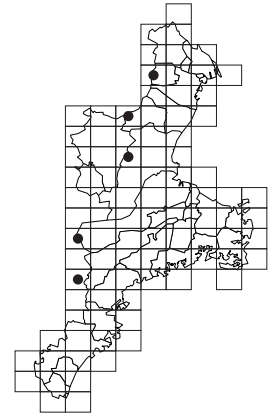
**種の概要:** やや高い山地の草原に生える多年生草本。茎の分枝は少なく、高さ約60 cm。葉の幅は6 mm以下。茎および葉は白い綿毛に覆われる。開花期は8~10月。茎の先端に白色の頭花を多数つける。

**分布:** 日本固有種。本州(関東地方以西)、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、伊賀市、松阪市、大台町で記録がある。

**現況・減少要因:** 風力発電施設の建設など、開発圧の高い山地草原に点在するため、生育地は消失しやすい状況にある。

**保護対策:** 山地草原の保全が望まれる。

**文献:** 48.



(平山大輔)

### カワラハハコ

*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp.  
*yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: B (EN)

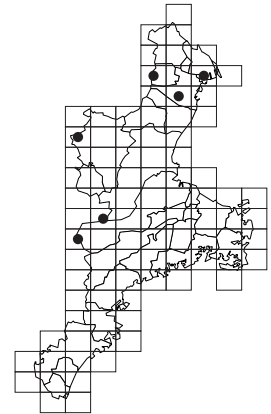
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。生育地の開発による減少が考えられる。

**種の概要:** 川原の通常は礫地などに群生する多年草。茎は叢生し、よく分枝し高さ30~50 cm。葉は線形で幅は1.5 mm内外で細く、縁は裏に巻く。8~9月頃、枝の先に多数の頭花を散房状につける。

**分布:** 国内では北海道から九州。県内ではいなべ市北勢町、桑名市長島町、四日市市、松阪市飯高町、伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因:** 伊賀市の現状は不明であるが、他の生育地は現存すると思われる。河川の開発などで減少する可能性がある。

**保護対策:** 生育地域をよく確認し、開発から避けるようにすべきである。



(山脇和也)

### フクド

*Artemisia fukudo* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: A (CR)

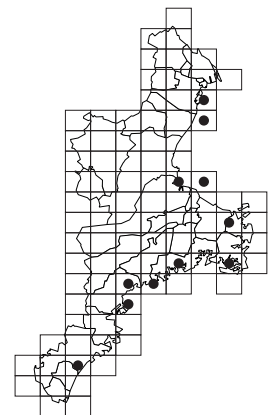
**選定理由:** 既知の生育地点数はおよそ10であるが、生育場所の海岸砂泥地は開発や工事の影響を受けやすい。

**種の概要:** 海岸の砂泥地に生育する二年草。葉は深く数回裂け先は細くなっている。9~10月に花茎を分枝しながら30~50 cmにのび、黄色い頭花をたくさんつける。植物体には強いメロンのような香りがある。

**分布:** 朝鮮半島。国内では本州(愛知県以西)から九州。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** 中南海を中心にかなりの生育地が確認されている。しかし海岸の開発や護岸工事で生育地は減少している。

**保護対策:** 海岸の開発は慎重にする。



(山路武夫)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

### コモノギク

*Aster komonoensis* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

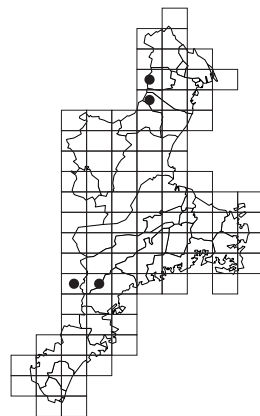
三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は10未満である。  
**種の概要：** 花茎は高さ15~50 cm、葉は長楕円形で、上部に粗い鋸歯がある。根生葉は卵形で長柄。頭花は大形で、巾3~4 cm。淡紫色、花期は7~9月。  
**分布：** 日本固有種。本州（近畿地方）、四国の冷温帯。県内では鈴鹿山脈、台高山脈に分布する。  
**現況・減少要因：** 山道や谷筋の岩場に生育し、開花期は目立つことから採取圧を受けやすく、また高茎草本の侵入などにより、生育条件が悪化し、減少している。  
**保護対策：** 採取の防止や山道整備の際の人為圧の排除、生育地の植生遷移を停止する草刈り、上層木の間伐、枝打ちなどの対策が必要である。  
**特記事項：** 本種は1887年三好学により鈴鹿山脈の御在所岳で発見。牧野富太郎により植物学雑誌 Vol.2, No.3に記載された。  
**文献：** 56, 139.



(葛山博次)

### ウラギク

*Aster tripolium* L.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

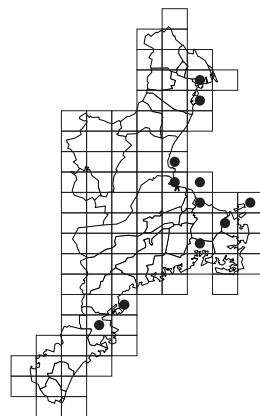
三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

近畿：準 (NT)

**選定理由：** 既知の生育地点数はおおよそ15であるが、生育地は海岸の汽水域にあり、開発や護岸工事の影響を受けやすい。  
**種の概要：** 塩湿地に生育する越年草。葉は厚く無毛、ほとんど鋸歯はない。8~11月に淡紫色の頭花をたくさんつける。  
**分布：** 国外ではヨーロッパ、北部アフリカ、アジア。国内では北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）から九州。県内では桑名市、四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、尾鷲市で記録がある。  
**現況・減少要因：** 海岸堤防の内側の湿地によく生育している。工事で環境が変化。消滅したところもある。  
**保護対策：** 海岸での工事では、海水の出入に大きな変化がないよう注意することが大切である。



(山路武夫)

### オケラ

*Atractylodes ovate* (Thunb.) DC.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

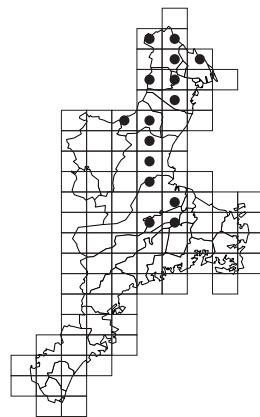
三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は50以下であるが、各生育地とも個体数は10未満である。  
**種の概要：** 多年草。茎は細くて硬く、高さ30~100 cm。葉質は硬く縁には細かい棘状の鋸歯がある。頭花は20~30個の小花からなり、羽状の棘をもつ苞葉がつつむ。雌雄異株。花期は9~10月である。  
**分布：** 国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、桑名市、菟野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、松阪市、多気町、大台町などに分布する。  
**現況・減少要因：** 生育地は、やや乾いた丘陵や里山が多く、土地の改変により減少してきた。  
**保護対策：** 生育地の改変を抑止するとともに、植生遷移の進行を抑える定期的な草刈りや上層木の間伐、枝打ちなどが必要である。  
**文献：** 34, 43.



(葛山博次)



## タイミンガサ

*Parasenecio peltifolius* (Makino) H.Koyama

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各生育地とも個体数は少ない。

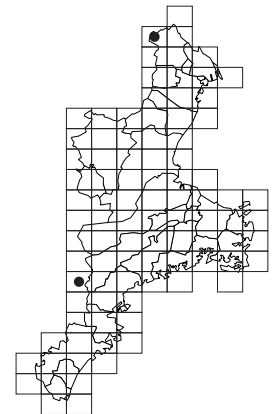
**種の概要:** 深山のやや湿った落葉樹林下に生える大形の多年草。高さ1~1.5 m, 葉は直径30~50 cm, 10個内外の裂片にさけ, 葉柄が葉の下面にT字状につく。総苞片は5個で縮細毛が密生する。花期は9~10月。

**分布:** 日本固有種。北陸から近畿北部の冷温帯に生育し, 県内ではいなべ市, 大台町に分布する。

**現況・減少要因:** 渓谷沿いに生育することが多く, 土石流などにより生育地が埋没または流失する可能性が大きく, 近年の豪雨により消失したところもある。

**保護対策:** 砂防工事やそれに係る侵入歩行路, 資材搬入路の工事の際, 人為圧のないよう配慮する必要がある。また採取圧の防止も必要である。

**文献:** 45, 51, 81.



(葛山博次)

## ニシノヤマタイミンガサ

*Parasenecio yatabei* (Matsum. et Koidz) H.Koyama var. *occidentalis* (F.Maek. ex Kitam.) H.Koyama

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

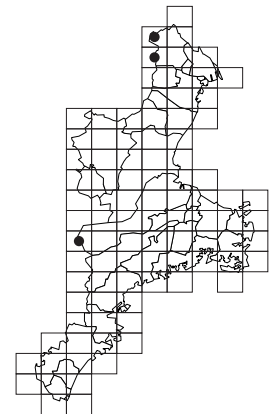
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 深山の落葉樹林内に群生する多年草で, 長くこの地下茎がある。高さ60~90 cmで, 花は8~10月頃咲く。総苞片が3~4個, 小花が2~4個と少なくヤマタイミンガサとは区別される。

**分布:** 国内では本州(岐阜県以西)から四国, 九州。県内ではいなべ市藤原町と松阪市飯高町で記録されている。

**現況・減少要因:** 今のところ生育場所が限られており, 自然崩壊による生育地の減少が考えられる。

**保護対策:** 生育地の環境保護。



(山脇和也)

## ノニガナ

*Ixeris polycephala* Cass.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

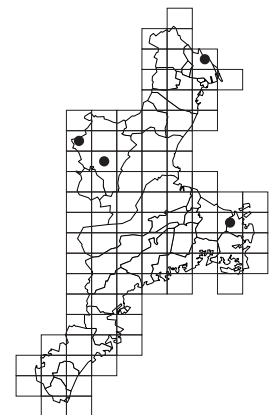
**選定理由:** 既知の生育地点は10以下である。

**種の概要:** 田のあぜや土手に生える。茎は高さ15~40 cmで, 茎の中部の葉はやじり状に茎を抱く。花がすんで果実を包む総苞の形は円すい形(ノニガナでは円筒形)。

**分布:** 国内では本州, 四国, 九州, 国外では朝鮮, 中国, インドなどに分布する。県内では北勢, 伊賀, 伊勢などに情報がある。

**現況・減少要因:** 田や道路脇などで点々と過去の情報があるが, 新たな確かな情報は少ない。土地造成などで減少の可能性はある。

**保護対策:** 圃場整備や草地開発の時, 注意を要する。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD